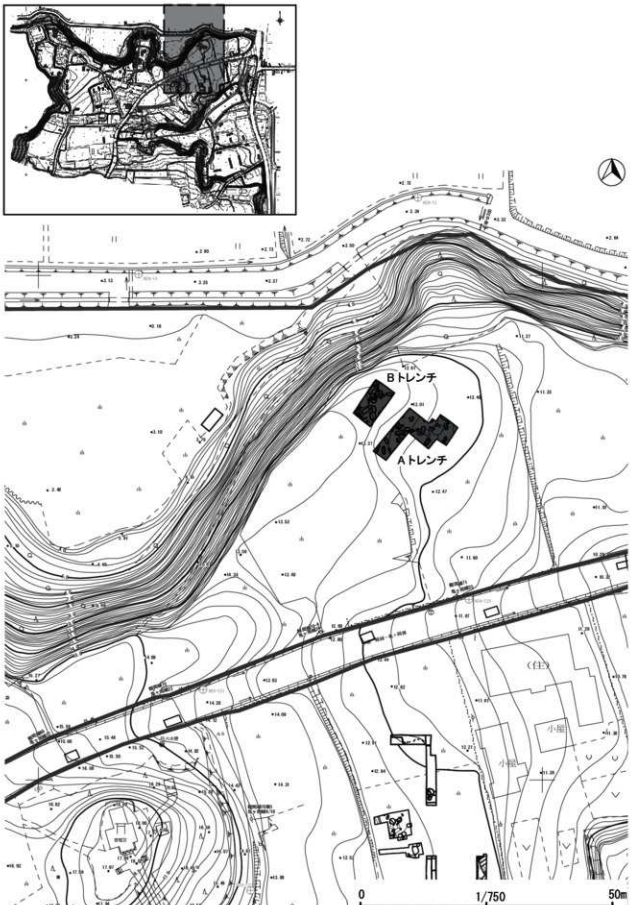



図 4-49　亀山 36-1 地点調査区位置図

## 第4節　亀山丘陵の調査

亀山丘陵は明治時代に若林勝邦や佐藤傳蔵による発掘調査が実施されたが、雷電宮周辺部を除けば保存状態の良好な遺物包含層を確認することができず、その後の宅地化の進行もあって丘陵上は遺跡が破壊されたと理解されてきた。しかし、かつては丘陵上の広範囲に遺物包含層が広がり、縄文時代晩期の集落の中心域は亀山丘陵にあったとする見解が慶應義塾大学の報告書で述べられたように、集落構造解明のため、丘陵部における調査の重要性はかねてより指摘されてきた。その後、昭和 57 年には沢根低湿地に面する丘陵部における竪穴建物跡の検出を目的とした調査が青森県立郷土館により実施された。また平成 20 年以降、史跡内外に及ぶ丘陵上の広範囲を対象とした継続的な内容確認調査がつがる市教育委員会により実施された。県立郷土館および市教育委員会の調査の結果、南北の沢根・近江野沢低湿地に面する丘陵縁辺の平坦面では、縄文時代晩期前葉～中葉頃の土坑墓群が広範囲で検出されている。この一方で、丘陵中心部では土坑墓群の広がりが不明瞭であり、晩期の土坑・ピット群の検出地点が確認される。

また、丘陵縁辺部には現在の地表面から確認できない小支谷が発掘調査で数地点確認されており、宅地化により旧地形が改変された状況を確認できた。史跡範囲南側の亀山 49-1・49-2 地点では、丘陵部から沢根低湿地に向かう小支谷において縄文時代晩期末葉から弥生時代前期にかけての遺物包含層が確認され、これと同時期の溝跡も部分的に検出された。

### 1. 亀山 36-1 地点の調査

#### (1)概要(図 4-49・4-50)

近江野沢低湿地に面した丘陵北端部の旧宅地内で、平成 29 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。休耕地であった一段低い平坦面に A トレンチ、小屋が建っていた一段高い平坦面に B トレンチを設定した。A・B トレンチあわせた調査面積は計 106 ㎡である。

#### (2)地形・層序(図 4-51・4-54)

調査地は、北西向き急斜面に面する標高 12～13mほどの平坦地に位置する。A トレンチは地表下 20 ㎝ほどで地山面に達し、後世の耕作のために遺構上部が削平された状況が認められた。所により大規模な撹乱が及ぶ。B トレンチは地表下 10～20 ㎝が近年の整地層、以下Ⅳ・Ⅴ層が縄文時代晩期の遺物包含層となり、遺構検出面はおもに漸移層であるⅤ層上面である。ただし、B トレンチ北西側は地山上面まで撹乱が及んでいることから、宅地化に伴う丘陵平坦部の削平時に、整地を目的として縁辺部の緩傾斜地に厚く盛土された状況が窺われた。

#### (3)遺構(巻頭写真3上、図 4-51～4-56、表 4-2)

縄文時代晩期の遺構 65 基を検出した。その一部を半裁して調査した結果、50 基が土坑墓と判断された。このほか土坑 4 基、ピット 9 基、埋設土器と焼土遺構が各 1 基検出された。土坑墓は、重複しながら A・B 両トレンチに広範囲に分布する。このうち 14 基を半裁あるいはトレンチ調査した。

**土坑墓**

土坑墓のほとんどは平面形が長楕円形を呈する。長軸長 60～160 ㎝、短軸長 30～120 ㎝と規模のばらつきが大きいが、長軸長：短軸長の比率が 2：1 を前後するものが主となる。ただし、B トレンチ 5 号のように大型楕円形を呈するものも検出された。長軸方向は、南北あるいは東西を軸とする土坑墓が目立つ。上部の特徴として、B トレンチ 27 号にはローム マウンドが確認された。底面はいずれもほぼ平坦であり、A トレンチ 3・5・6 号や B トレンチ 1・5・27 号では底部に壁溝がめぐる。壁溝内から炭化物等は出土していない。赤色顔料の分布は、A トレンチ 1 号底面で 1 か所、同 6 号底

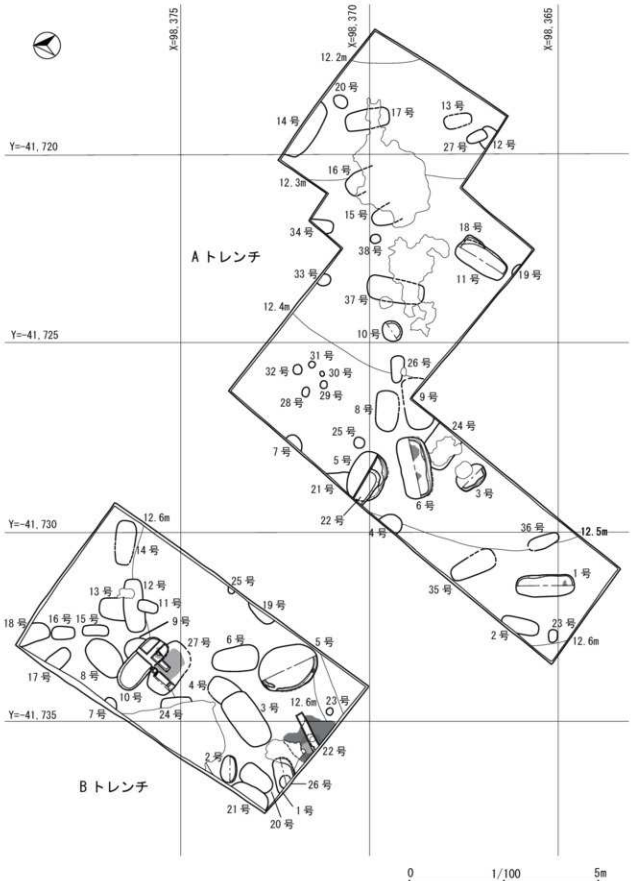



図 4-50　亀山 36-1 地点 A・B トレンチ配置図

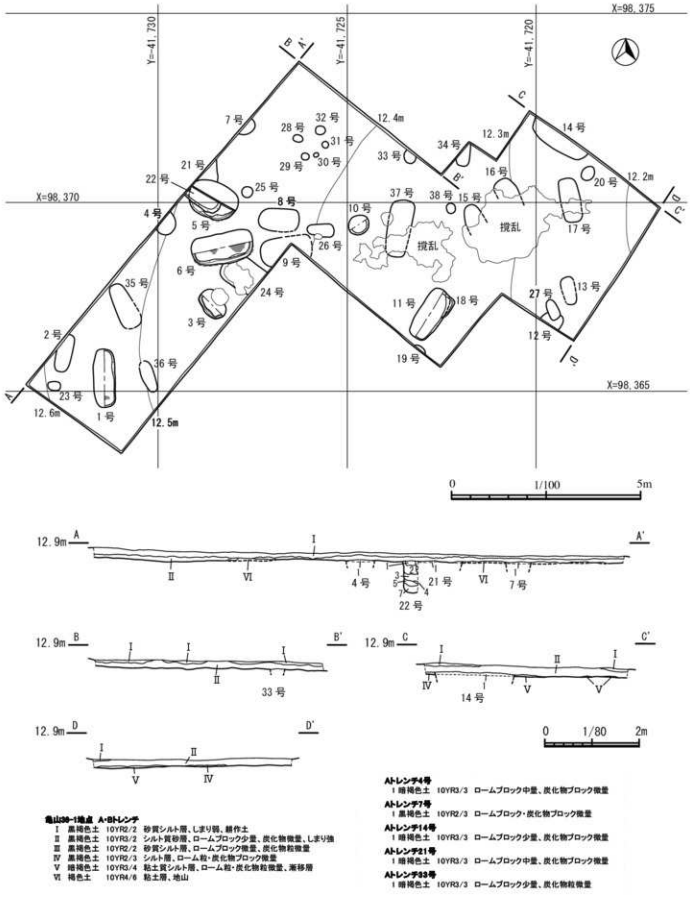



図 4-51　亀山 36-1 地点 A トレンチ平面・断面図

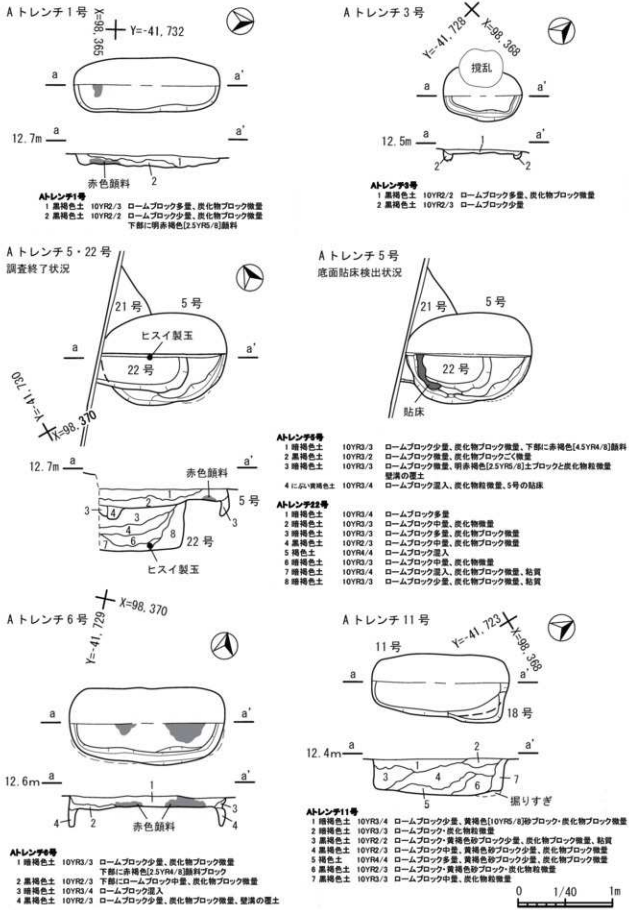



図 4-52　亀山 36-1 地点 A トレンチ土坑墓平面・断面図

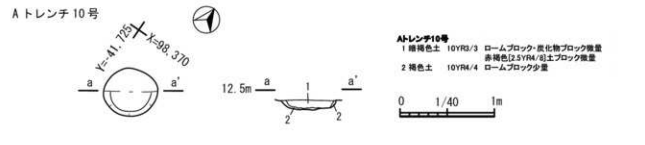



図 4-53　亀山 36-1 地点 A トレンチ土坑平面・断面図

表 4-2　亀山 36-1 地点 A・B トレンチ検出遺構一覧表

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 地点 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 軸方向 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-52 | 1号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 154 | 58 | 14 | N-2° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 底面に赤色顔料 |
| 図4-51 | 2号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 102 | 42 | — | N-13° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-52 | 3号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 楕円形 | 82 | 54 | 5 | N-38° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 壁溝 |
| 図4-51 | 4号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形？ | (42) | 60 | — | N-44° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-52 | 5号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 楕円形 | 134 | 94 | 20 | N-64° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 壁溝、底面に赤色顔料、22号より新 |
| 図4-52 | 6号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 164 | 83 | 13 | N-80° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 壁溝、底面に赤色顔料、24号より新 |
| 図4-51 | 7号 | 土坑墓 | Aトレンチ | — | (23) | 52 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 8号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 106 | 62 | — | N-86° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 9号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 138 | 74 | — | N-80° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-53 | 10号 | 土坑 | Aトレンチ | 円形 | 59 | 50 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-52 | 11号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 144 | 66 | 39 | N-34° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 石匙・メノウ塊出土、18号より新 |
| 図4-51 | 12号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形？ | (42) | 56 | — | N-43° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 27号より旧 |
| 図4-51 | 13号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 74 | 37 | — | N-13° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 14号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 168 | (42) | — | N-55° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 15号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形？ | (56) | (51) | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 16号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形？ | (56) | (57) | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 17号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 118 | 53 | — | N-11° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 18号 | 土坑墓？ | Aトレンチ | — | (60) | (32) | 37 | — | 縄文晩期前葉～中葉 | 11号より旧 |
| 図4-51 | 19号 | 土坑墓？ | Aトレンチ | — | — | — | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 20号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 41 | 34 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 21号 | 土坑墓？ | Aトレンチ | — | — | — | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-52 | 22号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形？ | (95) | (40) | 48 | N-52° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | ヒスイ製玉出土、5号より旧 |
| 図4-51 | 23号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 34 | 24 | — | N-53° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 24号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形？ | (104) | 83 | — | N-52° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 25号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 30 | 29 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 26号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 72 | 35 | — | N-88° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 27号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 56 | 28 | — | N-22° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 12号より新 |
| 図4-51 | 28号 | ピット | Aトレンチ | 楕円形 | 28 | 19 | — | N-74° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 29号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 21 | 19 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 30号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 14 | 12 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 31号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 18 | 18 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 32号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 26 | 23 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 33号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | (35) | 32 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 34号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | (62) | 35 | — | N-5° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 35号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 126 | 58 | — | N-26° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 36号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 86 | 34 | — | N-20° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 37号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 152 | 64 | — | N-11° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-51 | 38号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 27 | 23 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-56 | 1号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | (92) | (57) | 20 | N-76° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 壁溝、26号より旧 |
| 図4-54 | 2号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 72 | 42 | 12 | N-87° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 3号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 160 | 81 | — | N-55° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 4号より新 |
| 図4-54 | 4号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形？ | (84) | 64 | — | N-37° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 3号より旧 |
| 図4-54 | 5号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 楕円形 | 164 | 119 | 32 | N-20° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 壁溝 |
| 図4-54 | 6号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 126 | 69 | — | N-8° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 7号 | 土坑墓？ | Bトレンチ | — | (17) | 38 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-55 | 8号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 119 | 74 | — | N-42° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-55 | 9号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 楕円形 | 88 | 66 | — | N-21° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 10号より旧 |
| 図4-55 | 10号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 162 | 67 | 19 | N-47° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 緑色珪質凝灰岩製玉多数出土、9・27号より新 |
| 図4-54 | 11号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 56 | 32 | — | N-17° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 12号より新 |
| 図4-54 | 12号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 141 | 55 | — | N-85° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 11号より旧、13号より新 |
| 図4-54 | 13号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | (73) | 60 | — | N-3° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 12号より旧 |
| 図4-54 | 14号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 118 | 54 | — | N-84° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 15号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 70 | 29 | — | N-11° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 16号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 62 | 36 | — | N-1° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 17号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | (66) | 43 | — | N-42° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 18号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | (80) | 60 | — | N-7° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 19号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形？ | 83 | (28) | — | N-49° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 20号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 94 | 56 | — | N-40° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 21号より旧 |
| 図4-54 | 21号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形？ | 112 | (36) | — | N-33° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 20号より新 |
| 図4-56 | 22号 | 焼土遺構 | Bトレンチ | — | 134 | (84) | 36 | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 23号 | ピット | Bトレンチ | 円形 | 19 | 18 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 24号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形？ | 84 | (21) | — | N-6° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-54 | 25号 | ピット | Bトレンチ | 楕円形？ | (20) | (17) | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-56 | 26号 | 焼土土壙 | Bトレンチ | 楕円形 | 36 | (27) | 19 | — | 縄文晩期前葉～中葉 | 土壙内に赤色顔料、1号より新 |
| 図4-55 | 27号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | 146 | 80 | 50 | N-56° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | ロームマウンド・壁溝、石器出土、10号より旧 |

面で2か所認められた。Aトレンチ6号出土の赤色顔料については成分分析を実施し、ベンガラと水銀朱の混在する結果が得られた（第5章第2節）。一部の土坑墓から、ヒスイ製の玉や緑色珪質凝灰岩製の玉などの副葬品が出土した。なお、A・Bトレンチいずれにおいても土坑墓どうしの重複が目立つが、出土遺物や覆土の特徴からは明確な年代差を捉えることはできない。

Aトレンチ1号（図4-52）は長軸長154㎝、短軸長58㎝、深さ14㎝の土坑墓である。底面南側に赤色顔料の分布が確認されたほか、底面付近より頁岩製の大型剥片やメノウ砕片が出土した。

Aトレンチ3号（図4-52）は長軸長82㎝、短軸長54㎝、深さ5㎝と小型の土坑墓であるが、底部に深さ10㎝ほどの壁溝が確認されており、より大型の土坑墓と同様の構造を有する。

Aトレンチ5号（図4-52）は長軸長134㎝、短軸長94㎝、深さ20㎝の楕円形を呈する土坑墓である。同じく土坑墓と推定される21号や下部の22号と重複し、21・22号が旧く5号が新しい。22号上部に新たに5号を構築する際、ロームを用いて一部に貼床した痕跡が確認された。5号は底部に深さ15㎝ほどの壁溝を有し、床面東側には赤色顔料が分布する。

Aトレンチ6号（巻頭写真3下、図4-52）は長楕円形の土坑墓で、長軸長164㎝、短軸長83㎝、深さ13㎝である。底部に深さ20㎝の壁溝を有する。24号と重複し、6号が新しい。底面の東西2か所に赤色顔料の分布が確認されたが、東側の方が撒布量が多い。1層出土炭化物の放射性炭素年代測定結果（2,860±20yrBP、第5章第1節）は、縄文時代晩期前葉～中葉頃の年代値を示す。

Aトレンチ11号（図4-52）は長軸長144㎝、短軸長66㎝、深さ39㎝の長楕円形を呈する土坑墓である。18号と重複し、11号が新しい。土層の傾斜から、覆土は北側から埋め戻されたと判断された。底面からは副葬品と推定される頁岩製の石匙が出土した。5層出土炭化物の放射性炭素年代測定結果（2,760±20yrBP、第5章第1節）は、縄文時代晩期中葉頃の年代値を示す。

Aトレンチ22号（図4-52）は一部の検出に止まるが、長楕円形を呈すると考えられる土坑墓である。上部の5号と重複し、5号より旧い。底面付近からヒスイ製の玉が出土した。6層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定結果（3,030±20yrBP、第5章第1節）は、縄文時代後期末葉～晩期前葉頃の年代値を示す。

Bトレンチ5号（図4-54）は長軸長164㎝、短軸長119㎝、深さ32㎝で、平面形が楕円形を呈する大型土坑墓である。壁溝を有し、その底部に小ピット1基が検出された。4層出土炭化物の放射性炭素年代測定結果（3,290±20yrBP、第5章第1節）は、縄文時代後期中葉頃の年代値を示す。他の土坑墓と異なり、長軸に対する短軸の規模が大きいことから合葬墓の可能性も考えられる。

Bトレンチ10号（図4-55）は長軸長162㎝、短軸長67㎝、深さ19㎝の長楕円形を呈する土坑墓であり、8・9・27号と重複し、9・27号より新しい。根の撹乱が激しく、土層断面の観察から27号との新旧関係は判断できなかったが、底面南東部に検出されたロームブロックの広がりから、27号より新しいと判断した。また、北西側を中心として緑色珪質凝灰岩製の玉類が小破片を含めて120点ほど出土した。玉は遺構検出面から底面付近まで散漫に出土し、底面直上付近になるとほとんど出土しない。ただし、遺構検出面から底面付近まで根による撹乱が激しいことから、後世の根の侵入により、副葬時の玉類の原位置が一部乱された可能性も考えられる。1層下部から出土した炭化物の放射性炭素年代測定結果（3,420±20yrBP、第4章第1節）は、縄文時代後期中葉頃の年代値を示す。

Bトレンチ27号（図4-55）は長軸長146㎝、短軸長80㎝、深さ50㎝で、平面形が長楕円形を呈する土坑墓である。上部にロームマウンドが構築され、一部トレンチ調査の結果、底部に壁溝が検出された。覆土中～下部から、副葬品の可能性ある石鏃が出土した。

**埋設土器（巻頭写真4上、図4-56）**

Bトレンチ26号の埋設土器は調査区南端部で検出された。掘方は長径40㎝ほどの楕円形を呈し、

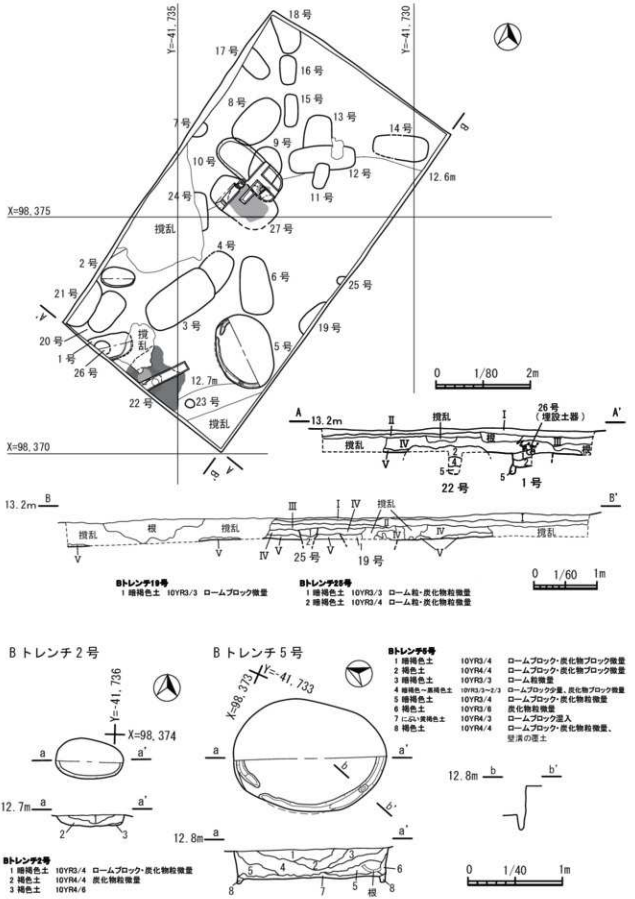
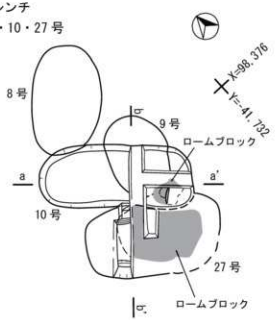
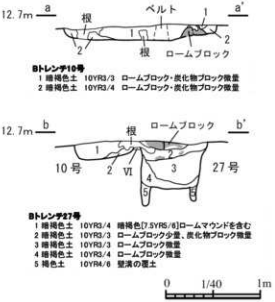


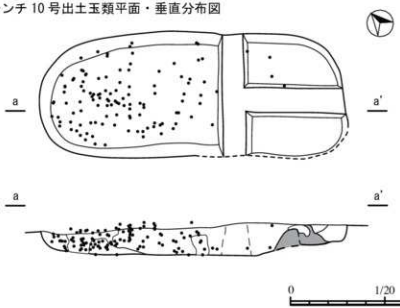

図 4-54　亀山 36-1 地点 B トレンチおよび土坑墓平面・断面図

B トレンチ
8・9・10・27 号




B トレンチ 10 号出土玉類平面・垂直分布図



10 号上部の玉類出土状況（南西から）

10 号下部の玉類出土状況（西から）

図 4-55　亀山 36-1 地点 B トレンチ土坑墓平面・断面図

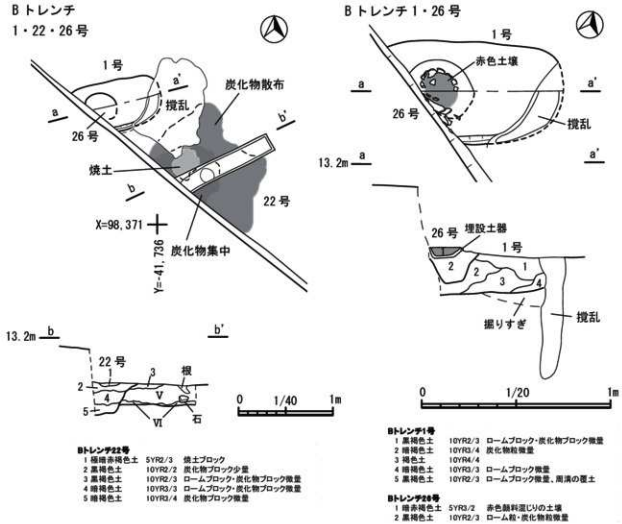



**図 4-56　亀山 36-1 地点 B トレンチ焼土遺構および埋設土器平面・断面図**

遺構確認面から 20 cmほど 1 号（土坑墓）を掘り込んで土器を正位に埋設している。埋設土器の上部は後世の削平により欠失している。土器内部の土壌は暗赤褐色を呈し、土器内部に赤色顔料の撒布が推定された。

焼土遺構（図 4-56）

Bトレンチ 22 号の焼土遺構は調査区南端部で検出された。30×20 cmほどの焼土範囲を中心としてその周囲に炭化物ブロックが広がる。焼土範囲に近いほど炭化物ブロックは密な傾向にある。焼土範囲下には掘り込みが確認されたが、焼土範囲は 1 層中に限られ、2 層は炭化物ブロックが黒褐色土中に少量、それ以下の層では黒～暗褐色土中に微量混じるのみである。

(4)遺物(図 4-57～4-59、表 4-3)

遺構内から主に縄文時代晩期の土器・石器・石製品が出土した。

Aトレンチ 1 号では、東壁側の底面中央付近から頁岩製の大型剥片（1）やメノウ砕片が出土した。

Aトレンチ 4 号からは、遺構確認面より磨石（2）が出土した。全面に摩耗痕が認められる。

Aトレンチ 5 号からは、1 層中より晩期の深鉢口縁部破片（3）が出土した。2 層中より後期以前

と考えられる深鉢口縁部破片（4）が出土した。また、底面東側で検出された赤色顔料の付近から、小ベンガラ塊3点（巻頭写真5中）が出土した。

Aトレンチ11号からは、平行沈線の施された壺の肩部破片（7）、三叉文の施文された皿の胴部破片（8）、小型の黒曜石製石核（9）とメノウ製石核（10・12）が出土した。底面付近から出土した頁岩製の石匙は縦長剥片を素材とし、つまみ部の作出に対してのみ二次加工を施した簡素な製品である（11）。

Aトレンチ14号から壺の口縁部破片が出土した。口縁が強く外傾し、B突起を有する。

Aトレンチ22号底面付近より出土したヒスイ製の玉（15、巻頭写真5下）は、図上方からの片面穿孔であり、全面に研磨が及ぶ。玉の直径1.3㎝、厚さ1.4㎝、孔径は上端部で0.7㎝、下端部で0.3㎝である。

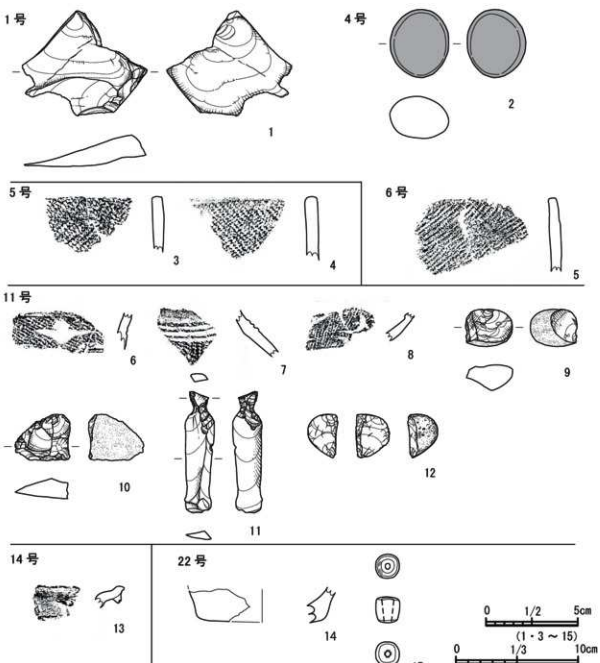



図4-57　亀山36-1地点Aトレンチ遺構出土遺物

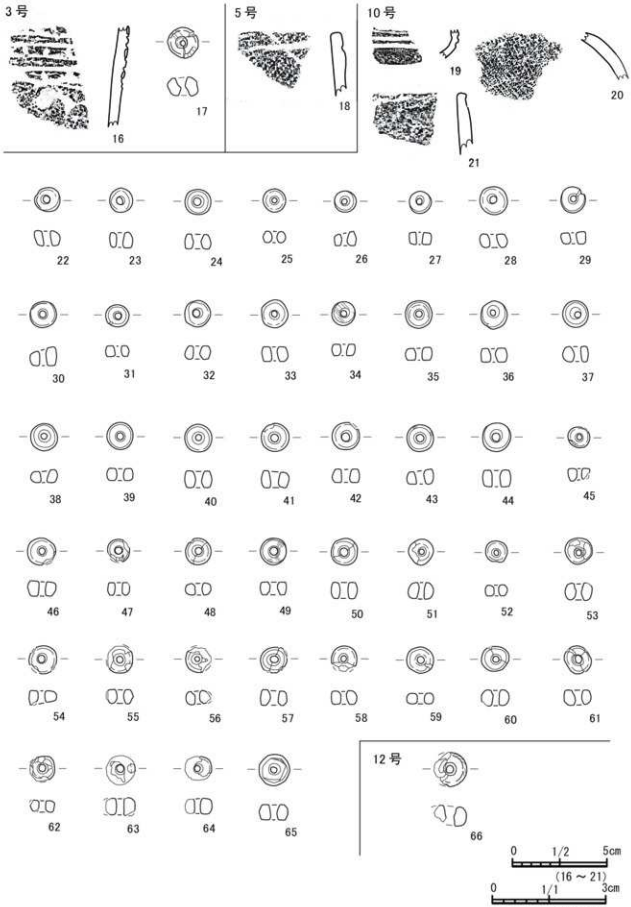



図 4-58　亀山 36-1 地点 B トレンチ遺構出土遺物

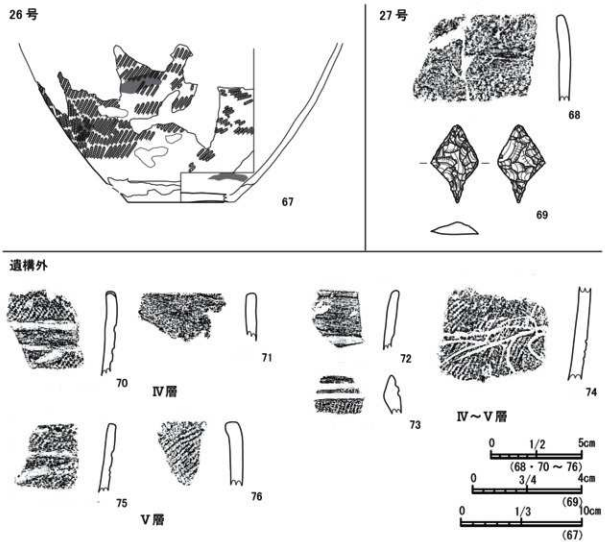



**図 4-59　亀山 36-1 地点 B トレンチ遺構内・遺構外出土遺物**

B トレンチ 3 号上面からは、平行沈線間に連続した刺突の施された晩期前葉の深鉢胴部破片（16）と緑色珪質凝灰岩製の玉 1 点（17、巻頭写真 5 下）が出土した。

B トレンチ 10 号からは、晩期の深鉢・浅鉢・壺形土器片とともに、緑色珪質凝灰岩製の玉が小破片を含めて 120 点ほど出土した（22～65、巻頭写真 5 下）。玉類はいずれも直径 6～8 ㎜程度の円形を呈し、表裏面が平坦に整形される。厚さはいずれも 3～4 ㎜ほどである。孔は直径 1～2 ㎜ほどで、両面から穿孔される。軟質な石材のため、玉類の一部は破損して出土しているが、その多くは本来完形品であったと考えられる。

B トレンチ 12 号からは、緑色珪質凝灰岩製の玉 1 点（66、巻頭写真 5 下）が出土した。

B トレンチ 26 号の埋設土器は大型の粗製深鉢が用いられ、上半部が欠失している（67）。外面には縄文が施され、底部はやや上げ底である。内外面に微量の炭化物が付着している。

B トレンチ 27 号からは深鉢の口縁部破片と白色の玉髄製石鏃が出土した（68・69）。

遺構外出土遺物については、B トレンチⅣ・Ⅴ層から縄文時代晩期前葉～中葉頃の土器片が少量出土した。74 は細沈線による入組三叉文が施文された深鉢胴部破片である。

表 4-3　亀山 36-1 地点 A・B トレンチ出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-57-1 | 石器 | 剥片 | 完形 | Aトレンチ1号 | 2層 | 縄文晩期 | 頁岩 | |
| 図4-57-2 | 石器 | 磨石 | 完形 | Bトレンチ4号 | 遺構確認面 | 縄文晩期 | 石英斑岩 | |
| 図4-57-3 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ5号 | 1層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-57-4 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ5号 | 2層 | 縄文後期以前？ | | |
| 図4-57-5 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ6号 | 4層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-57-6 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Aトレンチ11号 | 3層 | 縄文晩期前葉 | | |
| 図4-57-7 | 土器 | 皿 | 胴部 | Aトレンチ11号 | 4層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-57-8 | 土器 | 皿 | 胴部 | Aトレンチ11号 | 5層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | 漆塗り |
| 図4-57-9 | 石器 | 石核 | 完形 | Aトレンチ11号 | 3～4層上部 | 縄文晩期 | 黒曜石 | |
| 図4-57-10 | 石器 | 石核 | 完形 | Aトレンチ11号 | 3～4層上部 | 縄文晩期 | メノウ | |
| 図4-57-11 | 石器 | 石匙 | 完形 | Aトレンチ11号 | 5層 | 縄文晩期 | 頁岩 | |
| 図4-57-12 | 石器 | 石核 | 完形 | Aトレンチ11号 | 5層 | 縄文晩期 | メノウ | |
| 図4-57-13 | 土器 | 皿 | 口縁部 | Aトレンチ14号 | 上層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-57-14 | 土器 | 深鉢 | 底部 | Aトレンチ22号 | 4層 | 縄文後期以前？ | | |
| 図4-57-15 | 石製品 | 玉 | 完形 | Aトレンチ22号 | 7層 | 縄文晩期 | ヒスイ | |
| 図4-58-16 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Bトレンチ3号 | 遺構上面 | 縄文晩期 | 大洞BC式 | |
| 図4-58-17 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ3号 | 遺構上面 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-18 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ5号 | 4層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-58-19 | 土器 | 浅鉢 | 胴部 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-58-20 | 土器 | 皿 | 胴部 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-58-21 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-58-22 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層(遺構上面) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-23 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層(遺構上面) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-24 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-25 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-26 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-27 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-28 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-29 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-30 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-31 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-32 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-33 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-34 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-35 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-36 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-37 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-38 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-39 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-40 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-41 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-42 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-43 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-44 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-45 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-46 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-47 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-48 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-49 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-50 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-51 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-52 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-53 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-54 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-55 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-56 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-57 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-58 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-59 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 1層(底面付近) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-60 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層(底面付近) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-61 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層(底面付近) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-62 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層(底面付近) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-63 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層(底面付近) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-64 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ10号 | 1層(底面付近) | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-65 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ10号 | 2層 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-66 | 石製品 | 玉 | ほぼ完形 | Bトレンチ12号 | 遺構確認面 | 縄文晩期 | 緑色珪質凝灰岩 | |
| 図4-58-67 | 土器 | 深鉢 | 胴～底部 | Bトレンチ26号 | — | 縄文晩期 | | |
| 図4-58-68 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ27号 | 2層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-58-69 | 石器 | 石錐 | 完形 | Bトレンチ27号 | 3～4層 | 縄文晩期 | 玉髄 | |
| 図4-58-70 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期前葉 | | |
| 図4-58-71 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-58-72 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ | Ⅳ～Ⅴ層 | 縄文晩期 | | 漆塗り |
| 図4-58-73 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ | Ⅳ～Ⅴ層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-58-74 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Bトレンチ | Ⅳ～Ⅴ層 | 縄文晩期前葉 | | |
| 図4-58-75 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期前葉 | | |
| 図4-58-76 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Bトレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期？ | | |

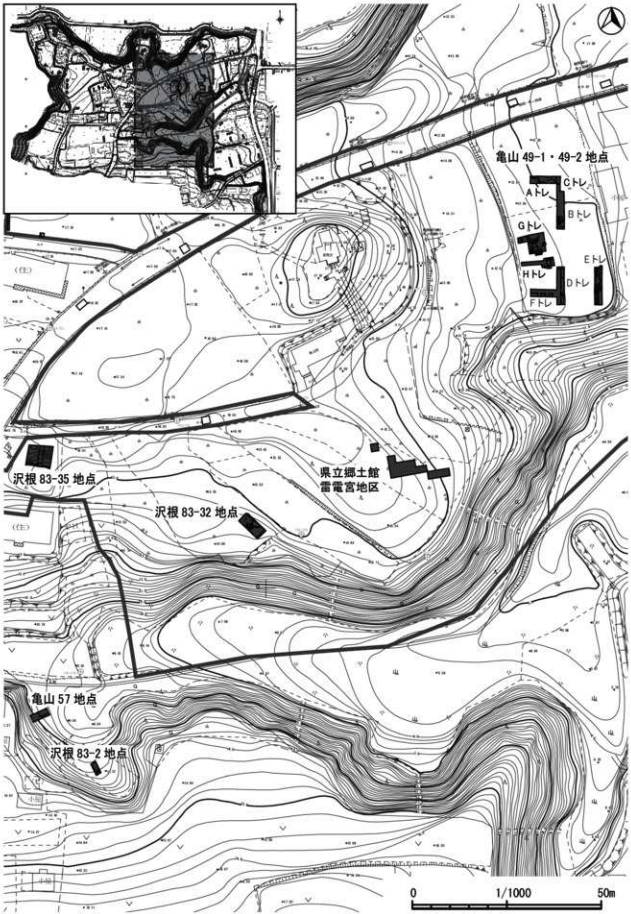



図 4-60　史跡南部調査区位置図

## 2. 亀山 49-1・49-2 地点の調査

### (1) 概要(図 4-60・4-61)

沢根低湿地に面した丘陵南端部の旧宅地で、平成 25 年度につづる市教育委員会が内容確認調査を実施した。この調査地点は史跡範囲の中央南側に当たり、雷電宮東側に位置する。A～C トレンチ、D・F トレンチ、E トレンチ、G トレンチ、H トレンチの 5 か所の調査区を設定した。調査面積は計 157 ㎡である。

### (2) 地形・層序(図 4-62・4-65)

調査地は、丘陵中央部の雷電宮から東向きに傾斜する標高 12～13m ほどの緩斜面上に位置する。南側は沢根低湿地に開口する小支谷となる。E トレンチ土層断面の観察から、調査地南東部は宅地造成の際に沢地形が黄褐色砂で厚く埋め立てられていることが判明した。一方で G トレンチ、H トレンチ、D・F トレンチでは表土直下に削平を受けた地山面が現れることから、西側のより高所を削平した際の黄褐色土で東側の沢地形を埋めて地均ししたと考えられる。このことから、調査地南側の小支谷は、本来より北側に奥行のある形状であったことが推定される。B トレンチ・E トレンチ出土遺物の年代から、Ⅲ層下部～Ⅳ層が弥生時代前期頃（砂沢式期）、V・Ⅵ層が縄文時代晩期末葉～弥生前期頃、Ⅵ層下部～Ⅶ層上部にかけてが縄文時代晩期末葉頃の遺物包含層と考えられる。

### (3) 遺構(図 4-62～4-65、表 4-4)

B トレンチで土坑 4 基、G トレンチで土坑 8 基、ピット 24 基、H トレンチで土坑 3 基、ピット 2 基、E トレンチで溝跡 5 条、土坑 2 基、ピット 6 基の計 54 基の遺構が検出された。

B トレンチ 1 ～ 4 号（図 4-62）はいずれも平面形が不整円形を呈する土坑であり、狭い範囲に重複して分布する。3 号は長径 150 ㎝、短径 140 ㎝の規模を有するが、他の 3 基は長径 70～80 ㎝程度と小型である。1・3 号から縄文時代晩期の土器片が少量出土するのみであり、遺構年代の絞り込みは難しい。同地点の遺物包含層下位から縄文時代晩期末葉頃の遺物が出土することから、B トレンチの各遺構は縄文時代晩期前葉～末葉の年代幅の中に位置付けられる。

G トレンチでは、多数の土坑・ピット群からなる遺構分布が確認された（図 4-63）。より大規模な 2・3・26・28・32 号は平面形が不整円形もしくは円形を呈する土坑であり、これらの土坑どうしの重複は認められない。最大の 3 号で長径 117 ㎝、短径 106 ㎝、深さ 20 ㎝の規模を有し、他は長径 50～90 ㎝程度である。2・3 号から縄文時代晩期の土器片が少量出土するのみであり、遺構年代の絞り込みが難しいが、ピットを含む土坑群の年代は縄文時代晩期と推定される。

H トレンチでは計 5 基の土坑・ピットを確認したが、いずれも遺構検出にとどめた（図 4-64）。2 号は、長径 154 ㎝、短径 112 ㎝の規模を有し、B トレンチ 3 号とともに亀山 49-1・49-2 地点で最大規模の土坑である。年代は詳細不明だが、周辺トレンチ検出遺構との比較から縄文時代晩期の年代が推定される。

E トレンチでは、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期頃の溝跡や遺物を検出した（巻頭写真 4 下、図 4-65）。溝跡は、最大の 1 号で幅 190 ㎝、深さ 50 ㎝の規模を有し、沢根低湿地に直交する北西一南東方向に延びる。1 号の覆土は 11 層に分層され、底部には深さ 15 ㎝程度の楕円形状の窪みが認められた。2～4 号の並行する溝跡は幅 30～80 ㎝ほどと小規模で、いずれも 1 号に対し直交方向に延びる。3・4 号は 1 号よりも旧く、2 号は 1 号より新しい。これらの溝跡はⅥ層ないしⅦ層を掘り込んでおり、Ⅵ層下部～Ⅶ層上部が縄文時代晩期末葉頃の堆積層であること、ならびに溝跡を覆うⅤ層が縄文時代晩期末葉～弥生前期砂沢式期頃の堆積層であることから、1 号とそれに直交する 2～4 号の溝跡は縄文時代晩期末葉～弥生時代前期にかけて掘削および維持されたと推定される。1 号溝跡からは縄

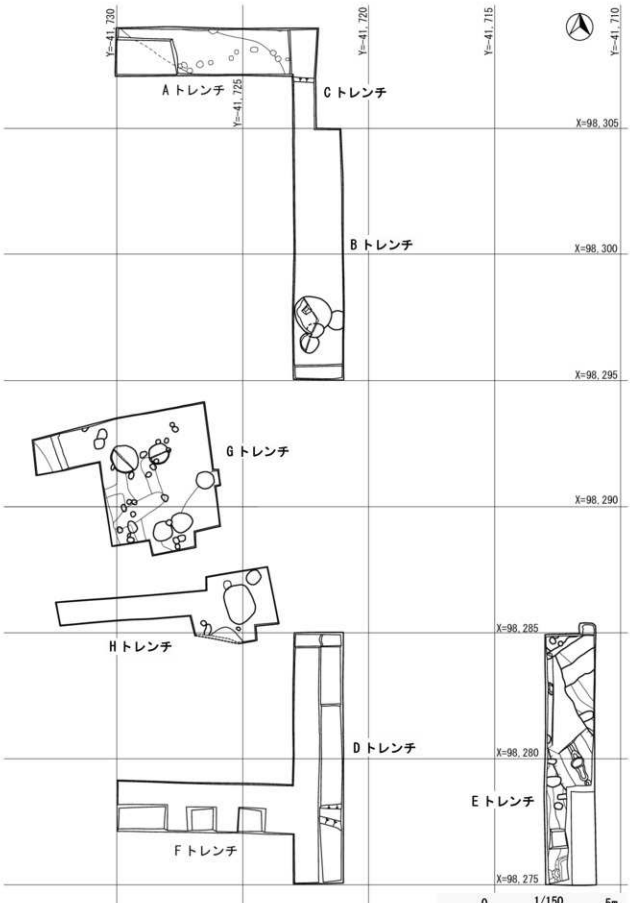



図 4-61　亀山 49-1・49-2 地点 A ～ H トレンチ配置図

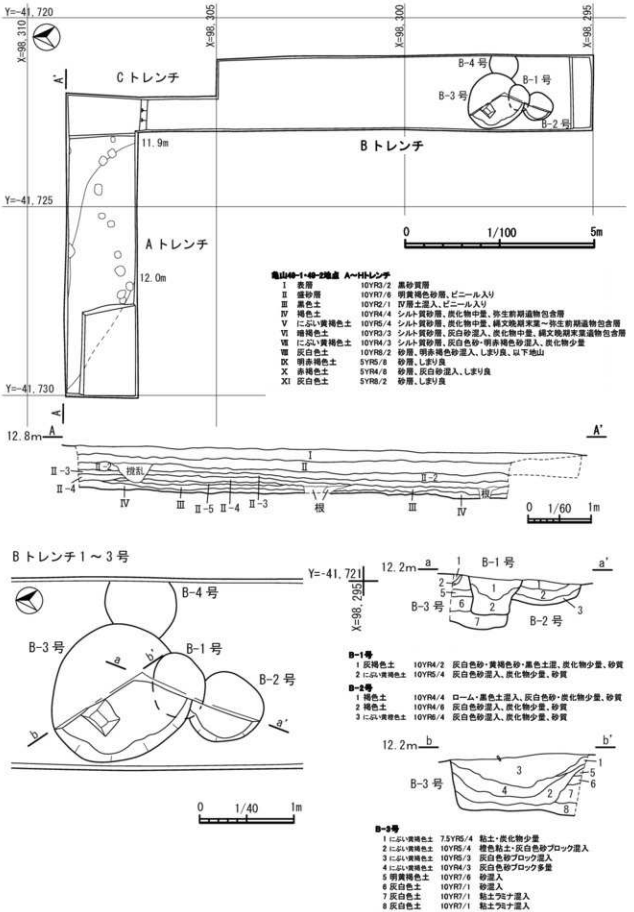
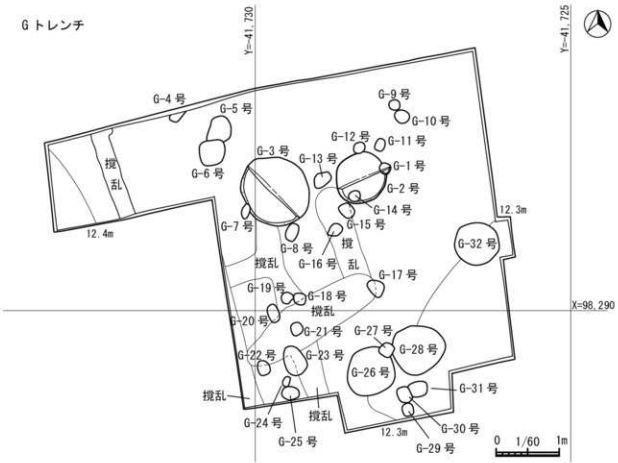
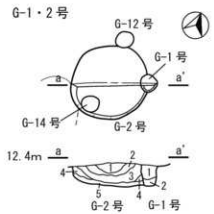
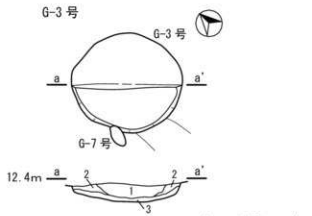



図 4-62　亀山 49-1・49-2 地点 A ～ C トレンチ平面・断面図




**G-1号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 暗色土 | 10YR4/4 | 黄褐色砂少量 |
| 2 にぶい黄橙色土 | 10YR4/3 | 黄褐色砂少量 |

**G-2号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 にぶい黄橙色土 | 10YR4/3 | ローム・黄褐色砂混入、炭化物少量 |
| 2 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム・黄褐色砂・炭化物少量 |
| 3 黄橙色 | 10YR6/8 | 黄褐色砂ブロック層、暗褐色土混入、ローム・炭化物少量 |
| 4 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 灰白色砂混入 |
| 5 暗褐色土 | 10YR3/3 | 灰白色砂混入 |

**G-3号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム・黄褐色砂多量、炭化物少量 |
| 2 明黄褐色土 | 10YR6/6 | 黄褐色砂・ローム粘土ブロック層、暗褐色土混入、炭化物少量 |
| 3 にぶい黄橙色土 | 10YR4/3 | ローム・灰白色砂混入、炭化物少量 |

図 4-63　亀山 49-1・49-2 地点 G トレンチ平面・断面図

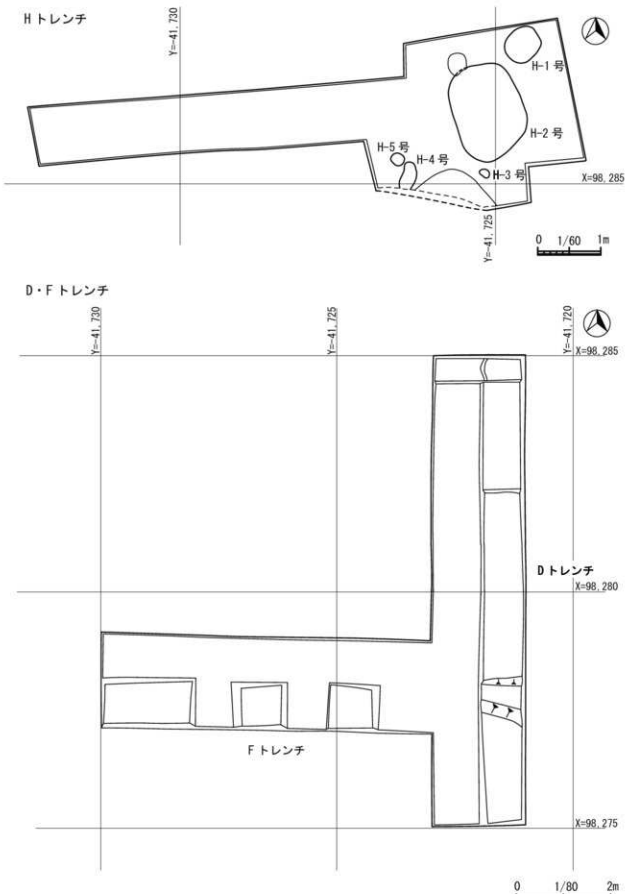



図 4-64　亀山 49-1・49-2 地点 D・F トレンチおよび H トレンチ平面図

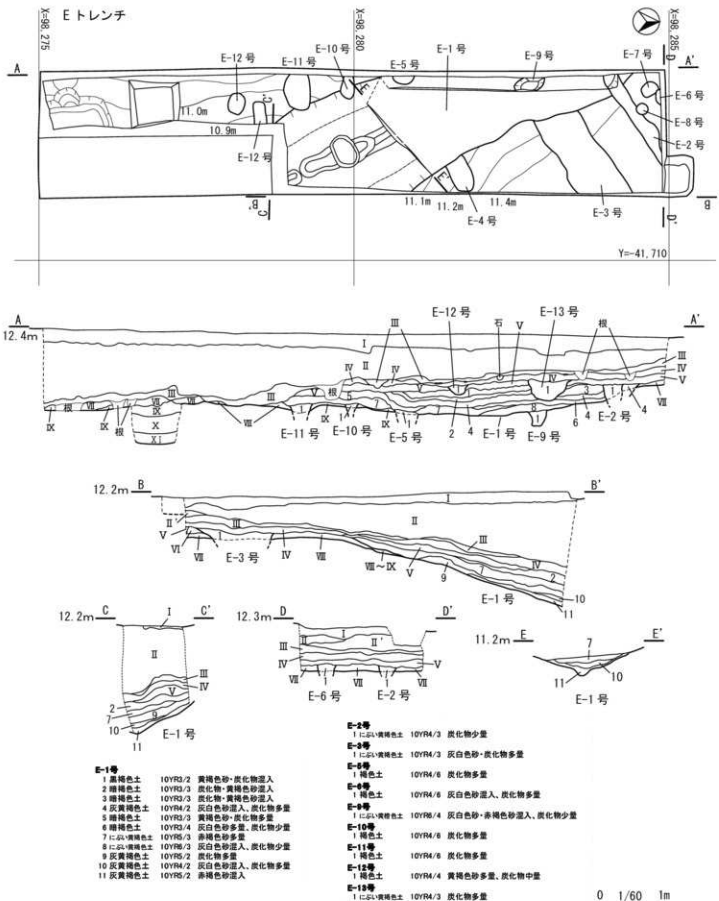



図 4-65　亀山 49-1・49-2 地点 E トレンチ平面・断面図

文時代晩期末葉～弥生時代前期頃の遺物が多数出土しているが、覆土下部からは砂沢式の出土は少なく、主体となるのは縄文時代晩期末葉頃の遺物である。

**表 4-4　亀山 49-1・49-2 地点検出遺構一覧表**

| 図版番号 | 調査地点 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **図4-62** | **Bトレンチ** | 1号 | 土坑 | 不整円形 | 72 | 56 | 56 | 縄文晩期 | 2・3号より新 |
| 図4-62 | **Bトレンチ** | 2号 | 土坑 | 不整円形 | 80 | 73 | 27 | 縄文晩期 | 1号より旧 |
| 図4-62 | **Bトレンチ** | 3号 | 土坑 | 不整円形 | 150 | 140 | 50 | 縄文晩期 | 1号より旧、4号より新 |
| 図4-62 | **Bトレンチ** | 4号 | 土坑 | 不整円形 | 78 | (68) | — | 縄文晩期 | 3号より旧 |
| **図4-63** | **Gトレンチ** | 1号 | ピット | 円形 | 20 | 18 | 22 | 縄文晩期 | 2号より新 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 2号 | 土坑 | 円形 | 85 | 80 | 26 | 縄文晩期 | 1・12号より旧 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 3号 | 土坑 | 円形 | 117 | 106 | 20 | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 4号 | ピット | — | (24) | 16 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 5号 | 土坑 | 楕円形 | (46) | 36 | — | 縄文晩期 | 6号より旧 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 6号 | 土坑 | 不整円形 | 48 | 44 | — | 縄文晩期 | 5号より新 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 7号 | ピット | 長楕円形 | 24 | 13 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 8号 | ピット | 楕円形 | 28 | 19 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 9号 | ピット | 円形 | 18 | 17 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 10号 | ピット | 楕円形 | 24 | 20 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 11号 | ピット | 楕円形 | 20 | 16 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 12号 | ピット | 楕円形 | 20 | 17 | — | 縄文晩期 | 2号より新 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 13号 | ピット | 不整楕円形 | 31 | 21 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 14号 | ピット | 楕円形 | 20 | 17 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 15号 | ピット | 隅丸長方形 | 26 | 20 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 16号 | ピット | 不整楕円形 | 25 | 20 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 17号 | ピット | 不整楕円形 | 28 | 23 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 18号 | ピット | 楕円形 | 22 | 19 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 19号 | ピット | 円形 | 18 | 16 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 20号 | ピット | 楕円形 | 29 | 18 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 21号 | ピット | 円形 | 23 | 20 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 22号 | ピット | 楕円形 | 24 | 20 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 23号 | 土坑 | 不整楕円形 | 48 | 34 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 24号 | ピット | 楕円形 | 16 | 10 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 25号 | ピット | 楕円形 | 28 | 22 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 26号 | 土坑 | 不整円形 | 82 | 76 | — | 縄文晩期 | 27号より旧 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 27号 | ピット | 隅丸方形 | 26 | 26 | — | 縄文晩期 | 26・28号より新 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 28号 | 土坑 | 不整円形 | 86 | 78 | — | 縄文晩期 | 27号より旧 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 29号 | ピット | 楕円形 | 20 | 18 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 30号 | ピット | 楕円形 | 26 | 21 | — | 縄文晩期 | 31号より新 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 31号 | ピット | 楕円形 | (30) | 24 | — | 縄文晩期 | 30号より旧 |
| 図4-63 | **Gトレンチ** | 32号 | 土坑 | 円形 | 72 | 68 | — | 縄文晩期 | |
| **図4-64** | **Hトレンチ** | 1号 | 土坑 | 不整楕円形 | 60 | 52 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-64 | **Hトレンチ** | 2号 | 土坑 | 不整楕円形 | 154 | 112 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-64 | **Hトレンチ** | 3号 | ピット | 不整楕円形 | 18 | 13 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-64 | **Hトレンチ** | 4号 | 土坑 | 長楕円形 | (42) | 23 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-64 | **Hトレンチ** | 5号 | ピット | 不整円形 | 22 | 20 | — | 縄文晩期 | |
| **図4-65** | **Eトレンチ** | 1号 | 溝跡 | — | (572) | 190 | 50 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 2・12・13号より旧、3～5・9～11・号より新 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 2号 | 溝跡 | — | (172) | 27 | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 8号より旧、1号より新 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 3号 | 溝跡 | — | (184) | 76 | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 1号より旧 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 4号 | 溝跡 | — | (56) | 34 | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 1号より旧 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 5号 | ピット | — | 34 | (14) | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 1号より旧 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 6号 | ピット | — | 26 | (7) | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 7号より新 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 7号 | ピット | 不整楕円形 | 27 | 22 | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 6号より旧 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 8号 | ピット | 円形 | 19 | 18 | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 2号より新 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 9号 | ピット | — | 50 | (26) | 24 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 1号より旧 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 10号 | 溝跡？ | — | (36) | 22 | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 1号より旧 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 11号 | 土坑？ | — | (58) | 42 | — | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 1号より旧 |
| 図4-65 | **Eトレンチ** | 12号 | ピット | — | — | — | 16 | 弥生前期以降 | 1号より新 |
| **図4-65** | **Eトレンチ** | 13号 | 土坑 | — | — | — | 30 | 弥生前期以降 | 1号より新 |

**(4)遺物(図 4-66～4-71、表 4-5)**

Bトレンチ3号からは白色頁岩製の石錐が出土した（1）。錐部先端を欠損し、表裏面の広範囲に点状の黒色付着物が認められる。

Bトレンチ Ⅳ層からは砂沢式期の遺物が出土した。3～8は鉢・浅鉢であり、平坦口縁と突起を有する口縁の2通りがある。突起は山形、頂部に刻みを有するもの、2個1対となるものがある。7では、同一個体中の口縁突起頂部に3条の平行する刻みを有するものと1条の刻み＋押圧縄文を有するものの2通りがある。6・7は口縁から胴部にかけて変形工字文が施文され、結節部に大ぶりの粘土粒が貼付される。胎土の粒子はきめが細かく、焼成良好である。色調はにぶい橙色～にぶい褐色を呈する。6の胴部下半には横走縄文が施される。8は頂部に刻みのある山形突起を有し、口縁部は沈線間にミガキ調整の施された無文帯がめぐる。こうした砂沢式の精製土器とともに、10～12のような半精製あるいは粗製の深鉢が出土する。これらの深鉢口縁部は内湾し、上下を沈線で区画された幅広の磨り消し無文帯がめぐる。石器は、偏平礫の端部に擦痕や敲打痕が集中する磨・敲石などが出土した（13・14）。石製品は、緑色珪質凝灰岩製の玉が出土した（15）。

Bトレンチ Ⅴ層からは縄文時代晩期末葉頃の遺物が出土した。16は頂部を浅く押圧した山形突起を有する浅鉢で、胴部に変形工字文が施文される。17は平坦口縁直下に2条の平行沈線がめぐる浅鉢であり、胴部は無文でミガキ調整が施される。18～24は口縁部の平行沈線を基調とする。19は口縁部に3条の細沈線が施され、その他の部位にはミガキ調整が施される。20は口縁部に5条の沈線が施され、その中の1条は押し曳きによる結節沈線となる。21は口縁部にミガキ調整された幅広の無文帯がめぐり、その下位に粘土粒の貼付による結節沈線が施される。25・26は縦位の条痕が施される深鉢である。27は直径 1.4 ㎝程度の緑色珪質凝灰岩製の玉であり、整形時の擦痕が顕著に認められる。

Bトレンチ Ⅵ層からは縄文時代晩期末葉頃の鉢・浅鉢・壺が出土した。28は口縁に山形突起を有し、口縁部に粘土粒の貼付による結節沈線が施される鉢、29は口縁部に押し曳きによる結節沈線と匹字文の施文された鉢である。31は無文の壺であり、外面に赤色顔料が塗布される。

Eトレンチからは、この調査地点の中で最も多くの遺物が出土している。最大規模の溝跡である1号からは、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期頃の遺物が出土したが、その多くは縄文時代晩期末葉頃に位置づけられる。40・41は変形工字文が施文された平坦口縁の浅鉢および鉢であり、津軽地域における大洞 A’ 式期の良好な資料として位置づけられる牧野Ⅱ遺跡（弘前大学教育学部考古学研究室 1981）の分類基準に従えば、第Ⅰ群土器Ⅰb 類に相当する。42・43 は変形工字文の単位文様間に斜向する平行沈線が施された浅鉢および鉢であり、牧野Ⅱ遺跡の第Ⅱ群に相当する。44～50は平坦口縁あるいは2個1対の山形突起を有する鉢である。口縁部に平行沈線が施され、押し曳きあるいは粘土粒貼付による結節沈線が施される（45・46・49・50）。51は台付鉢の台部であり、胴部下半と台部が沈線で区画される。52は工字文を有する壺である。53は口縁部が内湾する深鉢であり、口縁部に施される平行沈線が一定の間隔で途切れる。39は口縁の山形突起頂部に刻みを有し、結節部に粘土粒の貼付された変形工字文が施文される鉢である。牧野Ⅱ遺跡の第Ⅲ群土器Ⅲa 類あるいは砂沢式に相当すると考えられる。石器は、黒曜石製の石鏃（54）や珪化木製の磨・敲石（55）等が出土した。

3号溝跡からは、遺構確認面で変形工字文の施文された鉢（56）や、頂部に刻みのある山形突起を有し、口縁部に平行沈線の施された鉢（57）等が出土した。

Eトレンチの遺物包含層では、縄文時代後期末葉～弥生時代前期にかけての年代的な変遷が捉えられている。Ⅲ層下部～Ⅴ層上部では主に砂沢式期の土器群が出土している。64・69は口縁に2個1対の山形突起を有する鉢、65は口縁部に結節沈線と変形工字文、66は胴部上半から下半にかけて変形工字文が重層的に施文された浅鉢、75・87は変形工字文に刺突の充填された鉢である。砂沢式期に特徴的なこうした土器に伴い、口縁部に矢羽状文の施される鉢（84）、口縁部に結節沈線あるいは平行

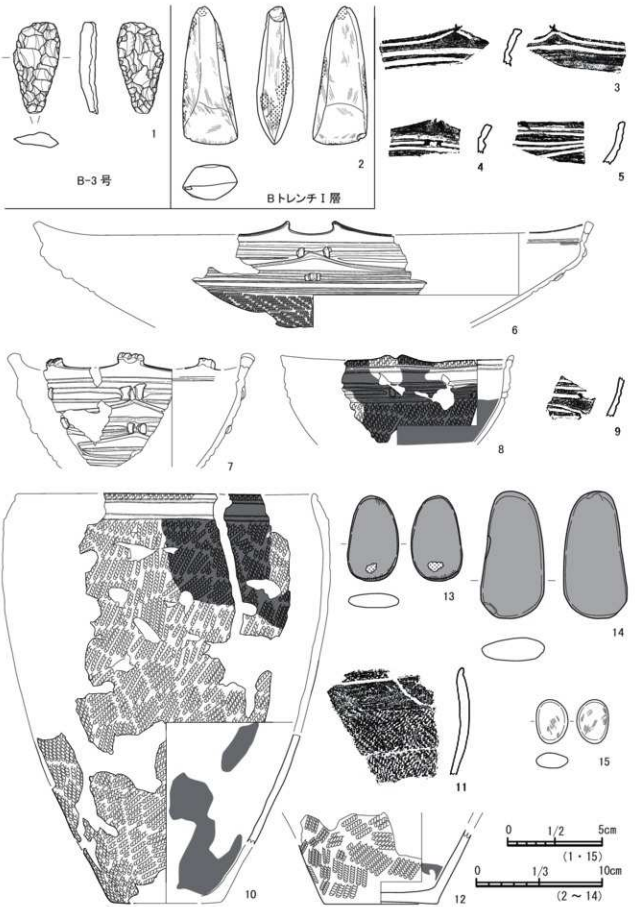



図 4-66 亀山 49-1・49-2 地点 Bトレンチ出土遺物

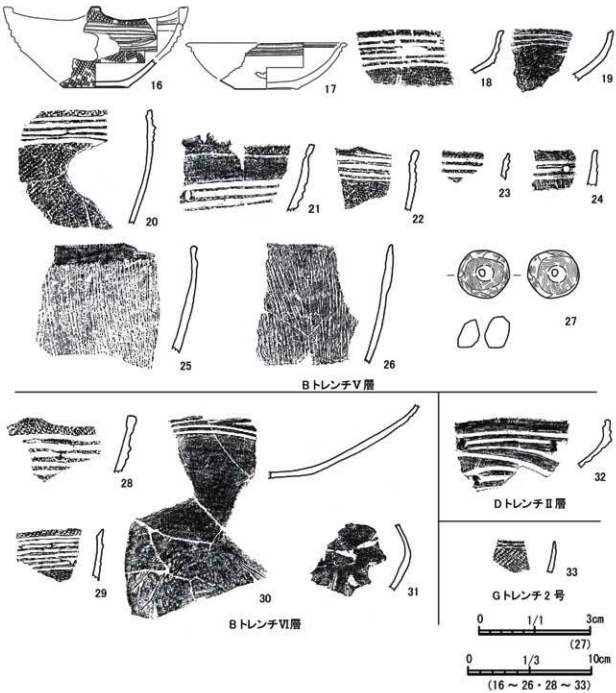



**図 4-67　亀山 49-1・49-2 地点 Bトレンチ・Dトレンチ・Gトレンチ出土遺物**

沈線のめぐる深鉢（71・72・89）、口縁部の平行沈線間に縦位の刻み目が２段施された鉢（88）、口縁部の内湾する半精製および粗製深鉢（67・77・78）、ミニチュア土器（80）、肩部に縦横の突帯を有する大型壺（81）が出土している。土製品では土偶の脚部が出土しており、４本の刻みを施して指を表現する（68）。石器は、偏平礫の端部に擦痕や敲打痕を有する磨石や敲石が出土した（82・83）。

Ｖ層からは口縁部の平行沈線や胴部の縦位の条痕文を特徴とする深鉢（91～93）に伴い、口縁に二又の大型突起を有する鉢が出土している（90）。突起基部には縦位の刻み目を有する隆帯がめぐり、突起部の両側面には三叉状の平行沈線が施文される。

Ⅵ層では、口縁部に粘土粒の貼付による結節沈線が施される鉢・深鉢（96～101）を主体とし、縦

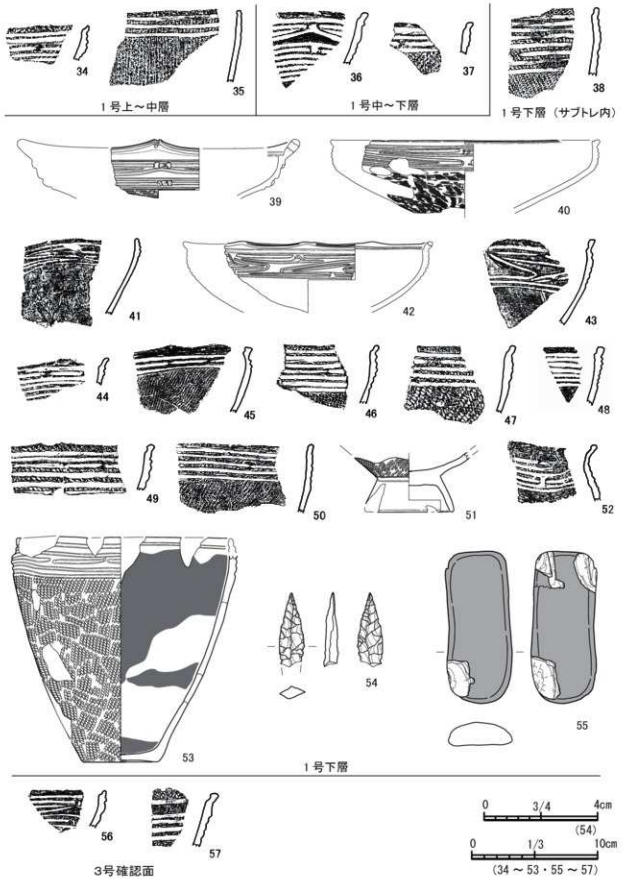



図 4-68　亀山 49-1・49-2 地点 E トレンチ遺構出土遺物

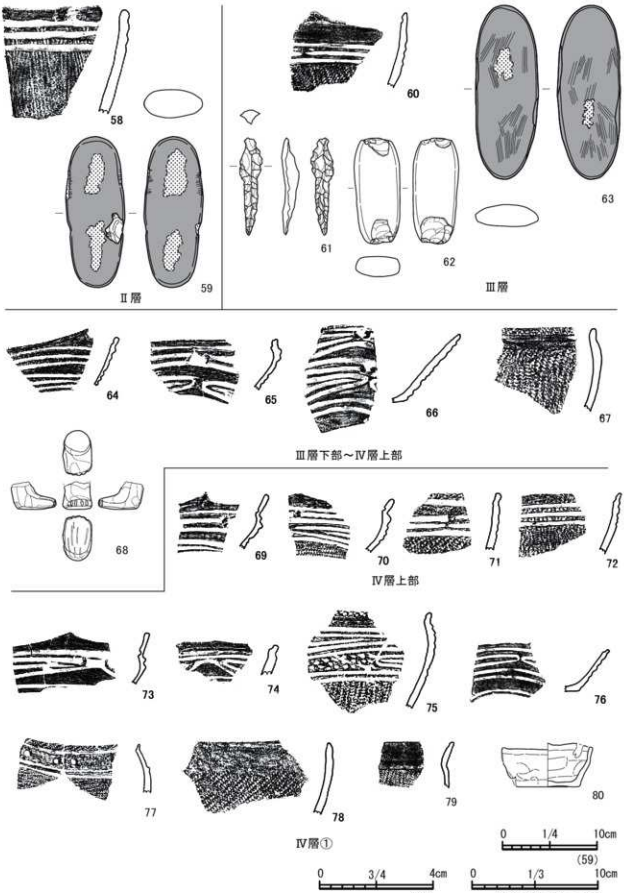



図 4-69 亀山 49-1・49-2 地点 E トレンチ遺構外出土遺物（1）

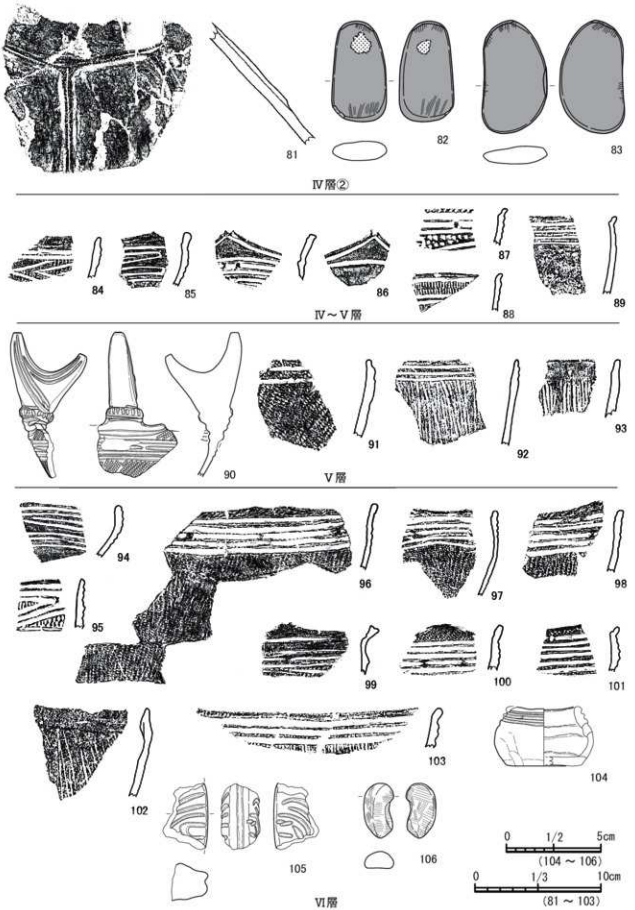



図 4-70 亀山 49-1・49-2 地点 E トレンチ遺構外出土遺物（2）

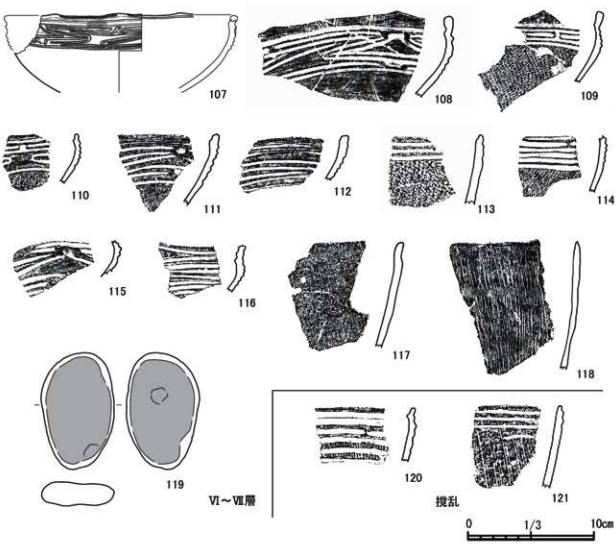



**図 4-71　亀山 49-1・49-2 地点 E トレンチ遺構外出土遺物（3）**

位の条痕が施される深鉢（102・103）や口縁部に 3 条の平行沈線がめぐるミニチュア土器（104）、変形工字文や刺突の施された砂沢式の鉢（94・95）が出土している。105 は土版の側縁部破片である。正面・裏面ともに「コ」字状の沈線を中心とする同心円状の平行沈線が施される。側縁にも 1 条の沈線が施される。石製品として緑色珪質凝灰岩製の勾玉が出土している（106）。正面が曲面に整形されるのに対して裏面は平坦であり、その端部に面取り時の整形痕が残る状況から、未成品の可能性も考えられる。

Ⅵ～Ⅶ層からは縄文時代晩期末葉を主体とする土器群が出土している。107～111 は縄文時代晩期末葉の鉢である。107・108 は波状口縁を有し、胴部上半に変形工字文が施文される。108 にはさらに変形工字文の単位文様間に斜行する平行沈線が施される。いずれも牧野Ⅱ遺跡第Ⅱ群に相当する。109 は口頸部に工字文、110～112 は変形工字文、113・114 は結節沈線あるいは平行沈線の施文された鉢であり、これに縦位の条痕が施された深鉢（117・118）が伴う。この他、115・116 は口縁から胴部にかけて変形工字文が施文された鉢であり、縄文時代晩期末葉～砂沢式期にかけての年代が考えられる。石器は、表裏面の広範囲に摩耗痕の及ぶ磨石が出土している（119）。

## 表 4-5　亀山 49-1・49-2 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-66-1 | 石器 | 石鏃 | つまみ部 | BHレンチ3号 | 3層 | 縄文晩期 | 頁岩 | 基部先端欠損、全面に黒色付着物 |
| 図4-66-2 | 石器 | 石斧 | 完形 | BHレンチ北端 | Ⅰ層 | 縄文晩期～弥生前期 | 緑色片岩 | 両側面に整形時の敲打痕 |
| 図4-66-3 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-66-4 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-66-5 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | 外面に赤色顔料 |
| 図4-66-6 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | 外面に炭化物付着 |
| 図4-66-7 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-66-8 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | 内外面に炭化物付着、補修孔 |
| 図4-66-9 | 土器 | 鉢 | 胴部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面に赤色顔料 |
| 図4-66-10 | 土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-66-11 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | | 外面に炭化物付着 |
| 図4-66-12 | 土器 | 深鉢 | 胴～底部 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | | 内面に炭化物付着 |
| 図4-66-13 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 安山岩 | |
| 図4-66-14 | 石器 | 磨石 | 完形 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 安山岩 | |
| 図4-66-15 | 石製品 | 玉 | 完形 | BHレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | ヒスイ | |
| 図4-67-16 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～底部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉 | | |
| 図4-67-17 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～底部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-67-18 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-67-19 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-67-20 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-67-21 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-67-22 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-67-23 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面沈線部に赤色顔料、内外面に炭化物付着 |
| 図4-67-24 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、補修孔あり |
| 図4-67-25 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、外面炭化物付着 |
| 図4-67-26 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、内外面炭化物付着 |
| 図4-67-27 | 石製品 | 玉 | 完形 | BHレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 緑色凝質凝灰岩 | 両面からの穿孔 |
| 図4-67-28 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-67-29 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | BHレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面に炭化物付着 |
| 図4-67-30 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～底部 | BHレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-67-31 | 土器 | 壺 | 胴部 | BHレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面に赤色顔料 |
| 図4-67-32 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～胴部 | BHレンチ | Ⅱ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-67-33 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | GHレンチ2号 | 2層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-68-34 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 上層～中層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-68-35 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 上層～中層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、内外面炭化物付着 |
| 図4-68-36 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 中～下層 | 縄文晩期末葉 | | 外面に赤色顔料 |
| 図4-68-37 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 中～下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-68-38 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 下層（サブトレ内） | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-68-39 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～胴部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-68-40 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～胴部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期後葉～末葉 | | 胎土に海綿状骨針 |
| 図4-68-41 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期後葉～末葉 | | 胎土に海綿状骨針 |
| 図4-68-42 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～胴部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉 | | |
| 図4-68-43 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉 | | 外面に赤色顔料 |
| 図4-68-44 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-68-45 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-68-46 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-68-47 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-68-48 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-68-49 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-68-50 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-68-51 | 土器 | 台付鉢 | 台部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-68-52 | 土器 | 壺 | 口縁～胴部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-68-53 | 土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内面に炭化物付着 |
| 図4-68-54 | 石器 | 石鏃 | 基部欠損 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 黒曜石 | |
| 図4-68-55 | 石器 | 磨石 | 完形 | EHレンチ1号 | 下層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 珪化木 | |
| 図4-68-56 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ3号 | 確認面 | 縄文晩期末葉 | | 外面に赤色顔料 |
| 図4-68-57 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | EHレンチ3号 | 確認面 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-68-58 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | EHレンチ | Ⅱ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、外面炭化物付着 |
| 図4-68-59 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | EHレンチ | Ⅱ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 安山岩 | |
| 図4-68-60 | 土器 | 鉢 | 胴部 | EHレンチ | Ⅲ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-69-61 | 石器 | 石錘 | 完形 | Eトレンチ | 基層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-69-62 | 石器 | 敲石 | 完形 | Eトレンチ | 基層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 安山岩 | |
| 図4-69-63 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | Eトレンチ | 基層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 安山岩 | |
| 図4-69-64 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | 基層下部～Ⅳ層上部 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-69-65 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | 基層下部～Ⅳ層上部 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-69-66 | 土器 | 浅鉢 | 胴～底部 | Eトレンチ | 基層下部～Ⅳ層上部 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-69-67 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | Eトレンチ | 基層下部～Ⅳ層上部 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-69-68 | 土製品 | 土偶 | 脚部 | Eトレンチ | 基層下部～Ⅳ層上部 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-69-69 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ西サブトレ北側 | Ⅳ層上部 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-69-70 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ西サブトレ北側 | Ⅳ層上部 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-69-71 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ西サブトレ中央 | Ⅳ層上部 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 補修孔 |
| 図4-69-72 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ西サブトレ北側 | Ⅳ層上部 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-69-73 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-69-74 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | Eトレ東西サブトレ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉 | | |
| 図4-69-75 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | 内外面炭化物付着 |
| 図4-69-76 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～底部 | Eトレンチ北側 | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | 内外面炭化物付着 |
| 図4-69-77 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 補修孔 |
| 図4-69-78 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-69-79 | 土器 | 壺 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-69-80 | 土器 | 鉢（ミニチュア土器） | 口縁～底部 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-70-81 | 土器 | 壺 | 頸部 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 縄文時代晩期末葉～弥生前期？ | | |
| 図4-70-82 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 砂岩 | |
| 図4-70-83 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | Eトレンチ | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 安山岩 | |
| 図4-70-84 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅳ層下部～Ⅴ層上部 | 縄文晩期後葉 | 大洞A式 | 内外面炭化物付着 |
| 図4-70-85 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅳ層下部～Ⅴ層上部 | 縄文晩期末葉 | | |
| 図4-70-86 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅳ層下部～Ⅴ層上部 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-70-87 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅳ層下部～Ⅴ層上部 | 弥生前期 | 砂沢式 | 外面に赤色顔料付着 |
| 図4-70-88 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅳ層下部～Ⅴ層上部 | 弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-70-89 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ南側 | Ⅳ層下部～Ⅴ層上部 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-70-90 | 土器 | 鉢 | 口縁突起 | Eトレンチ | Ⅴ層 | 縄文時代晩期後葉 | | |
| 図4-70-91 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-92 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、補修孔あり |
| 図4-70-93 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅴ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、補修孔あり |
| 図4-70-94 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ南側 | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-95 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 弥生前期 | 砂沢式 | |
| 図4-70-96 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-97 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-98 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ南側 | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-99 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-100 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-70-101 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 補修孔 |
| 図4-70-102 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、外面炭化物付着 |
| 図4-70-103 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕 |
| 図4-70-104 | 土器 | 鉢（ミニチュア土器） | 口縁～底部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-105 | 土製品 | 土偶 | 側縁 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-70-106 | 石製品 | 玉 | 完形 | Eトレンチ | Ⅵ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 緑色凝質凝灰岩 | |
| 図4-71-107 | 土器 | 鉢 | 口縁～底部 | Eトレンチ | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉 | | 外面赤色顔料塗布 |
| 図4-71-108 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | Eトレンチ南側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉 | | 竹土に海綿状骨針、内外面炭化物付着 |
| 図4-71-109 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ南側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期後葉～末葉 | | |
| 図4-71-110 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期後葉～末葉 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-71-111 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉 | | |
| 図4-71-112 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-71-113 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-71-114 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-71-115 | 土器 | 鉢 | 胴部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-71-116 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ北側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-71-117 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Eトレンチ南側 | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、外面炭化物付着 |
| 図4-71-118 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Eトレンチ | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、外面炭化物付着 |
| 図4-71-119 | 石器 | 磨石 | 完形 | Eトレンチ | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | 砂岩 | |
| 図4-71-120 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ南端 | 撹乱 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-71-121 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Eトレンチ南端 | 撹乱 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | 外面条痕、外面炭化物付着 |

## 3. 青森県立郷土館による雷電宮地区の調査

### (1)概要(図 4-60・4-72)

亀ヶ岡文化の研究を目的とした青森県立郷土館による学術調査は、昭和 55～57 年度の 3 か年に渡り実施された。丘陵上の亀山地区（沢根 83-29）は昭和 57 年度に雷電宮地区として発掘調査された。雷電宮および亀ヶ岡集会所の南側にあたる草地・杉林に 2 m単位のグリッドを設定し、調査面積は計 54 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-72・4-73・4-75)

調査地点は標高 15～16mほどの亀山丘陵南側の縁辺部に位置する。東側は沢根低湿地に向かう急傾斜面である。

縄文時代晩期の主要な遺物包含層はⅢ層であり、炭化物を多く含む。さらに色調や炭化物等の含有物の違いからⅢa～Ⅲd 層に細分される。Ⅳa 層は黄褐色土でソフトロームの地山、Ⅳb 層は黄褐色土で粘土質のローム層である。亀山地区の地山層は砂を多く含んだローム質土であり、ローム上に薄いシルト砂を含む。なお、G9・H9 区では、Ⅲc 層とⅢd 層の間に焼土層が確認された。

### (3)遺構(図 4-72～4-75、表 4-6)

E11 区を除く全てのグリッドにおいて、縄文時代晩期の遺構を計 26 基検出した。そのうち 14 号・15 号を除く 24 基が発掘された。G・H・I - 5～9 区で検出された土坑群が A 群、J - 2～4 区で検出された土坑群が B 群に区分された。A 群の遺構はⅢc・Ⅲd 層に構築される。遺構の平面形は、円形フラスコ型を呈する 1 b 号と小ピットを除いて他の多くは楕円形ないし長方形である。20・21 号等の小ピットを除く他の遺構は土坑墓と判断され、亀ヶ岡遺跡発掘調査における初の遺構検出事例となった。

土坑墓群は、主に楕円形と長方形ないし長楕円形を呈するものが多く、特に B 群で長方形ないし長楕円形の割合が高い。そして A 群では遺物集中区あるいは完形・復元可能土器の直下に遺構が検出されるのに対して、B 群では遺構付近にほとんど遺物を出土しない点が特徴に挙げられる。その他、遺構の直上にローム土を用いたマウンドを有するものが 3 基（9 a・11・12a 号）確認されており、土坑墓上に人為的な盛り土をした可能性がある。A 群と B 群の土坑墓は、平面形や覆土の色調・粒度に違いが認められるとともに、遺構内外の出土遺物量にも違いがあることから、両群には年代差が推定されている。

1 a 号（図 4-73）は楕円形の落込みであり、一応土坑墓と判断された。1 b 号と重複して検出され、それより旧い。

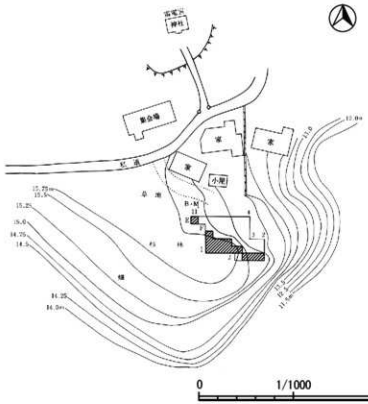
1 b 号（図 4-73）は平面形が円形を呈するフラスコ状土坑である。1 a 号と重複し、それより新しい。遺構上部の北側寄りに復元可能土器と石皿破片が集中して出土したほか、ヒスイ製丸玉が周囲から出土した。これらの遺物は、土坑を埋め戻した後に人為的に置かれた可能性がある。覆土は 7 層に分層され、5・6 層には多量の焼土が混入する。覆土中から赤色顔料が出土しており、その成分が赤鉄鉱とする X 線回折結果が得られた（青森県立郷土館 1984　第 10 章Ⅶ）。

2 号（図 4-73）は平面形が長方形ないし長楕円形を呈する土坑墓である。浅いが、壁の立ち上がりが明瞭である。

3 号（図 4-75）は平面形が長楕円形を呈する土坑墓である。6 号と重複し、それより新しい。10 号とも重複するが、その新旧関係は不明である。壁の立ち上がりは明瞭である。

4 a 号と 4 b 号（図 4-75）は当初 1 基の遺構として調査を進め、結果 2 基の重複する土坑墓と判断された。新旧関係は 4 b 号の方が新しい。4 a 号の覆土には多量の砂が均等に混入している。

5 号（図 4-75）は平面形が不整形を呈する土坑墓である。13・14 号と重複し、14 号より旧く 13



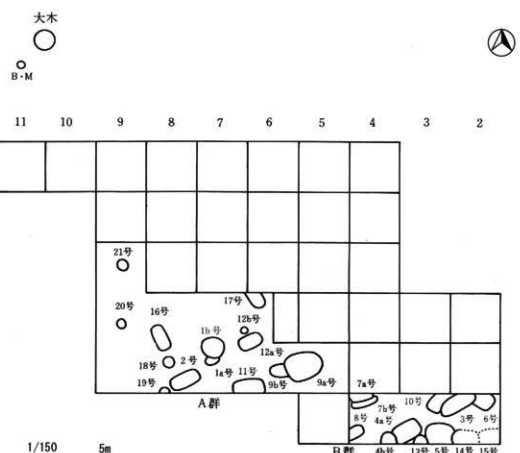




図 4-72 青森県立郷土館 雷電宮地区調査区位置図および遺構位置図（青森県立郷土館 1984）

号より新しい。覆土は２層に分層したが、１・２層はいずれも層厚が厚く砂を含む。

６号（図 4-75）は平面形が長方形を呈する土坑墓と推定されるが、３号と重複しその形状は不明である。３号より旧い。覆土は４層に分層され、いずれも均等な層厚である。覆土から赤色顔料が少量出土しており、その成分が朱とするＸ線回折結果が得られた（青森県立郷土館 1984 第 10 章Ⅶ）。

７a 号（図 4-75）は平面形が長楕円形を呈する土坑墓と推定されるが、７b 号と重複しその形状は不明である。７b 号より旧い。

７b 号（図 4-75）は土坑墓と推定されるが平面形は不明である。７a 号と重複し、それより新しい。壁や底面は明瞭である。覆土は４層に分層され、１層が非常に厚い。

８号（図 4-75）は平面形が長楕円形を呈する土坑墓と考えられる。壁の立ち上がりは明瞭で、底面はレンズ状に窪む。覆土は、上部に比較的厚い暗褐色土、下部に黒褐色土が堆積する。

９a 号（図 4-74）は平面形が楕円形を呈する土坑墓である。９b 号と重複し、それより新しい。底面は多少の凹凸がある。覆土は１層だが、上面に黄褐色の硬いロームブロックが載り、人為的な盛土と判断された。底面から土偶等の遺物が出土したほか、人骨かどうか同定困難な骨片が覆土から出土した（青森県立郷土館 1984　第 10 章Ｘ）。

９b 号（図 4-74）は平面形が楕円形を呈する土坑墓である。９a 号と重複し、それより旧い。

10 号（図 4-75）は平面形が長方形を呈する土坑墓と考えられるが、全体の形状は不明である。覆土の３・５層は炭化物を多く含む黒褐色土であり、５層中にはシルト質の砂も含む。

11 号（図 4-74）は平面形が長方形を呈すると考えられる土坑墓である。深く、壁の立ち上がりや底面が明瞭である。覆土は５層に分層される。２層は地山の土に似ており、人為的な盛土と判断された。底面東側に小範囲の朱を検出した。

12a 号（図 4-74）は平面形が楕円形を呈する土坑墓である。上面に a～c 層のロームブロックが載り、人為的な盛土と判断された。覆土には焼土・炭化物の混入が多い。底面東側に直径 30 cmほどの範囲で朱が検出された。

12b 号（図 4-74）は平面形が円形を呈する小ピットである。覆土には、12a 号と同様に焼土・炭化物が混入する。

13 号（図 4-75）は一部の検出にとどまり詳細不明である。５号と重複し、より旧いと考えられる。

14 号（図 4-75）は一部の検出にとどまるが、平面形が長楕円形を呈する土坑墓と考えられる。

15 号（図 4-75）は未調査のため、規模や時期等が不明である。

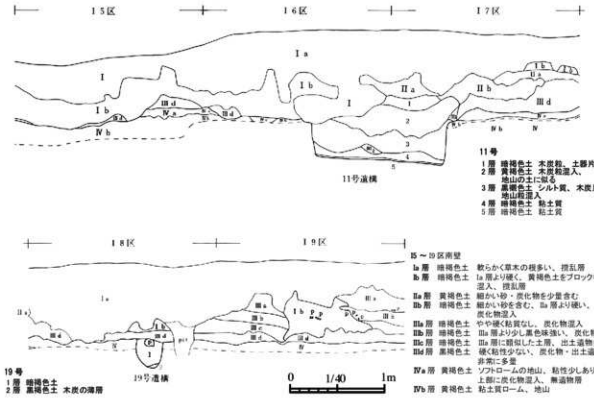
16 号（図 4-73）は平面形が長楕円形を呈する土坑墓である。壁が緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分層され、焼土・炭化物が混入する。遺構北側から完形土器および復元可能な土器が出土するが、この地点はⅢc・Ⅲd 層間の焼土層の広がりと重なる。東壁際から円板状土製品が出土した。

17 号（図 4-74）は不整形で壁の立ち上がりも不明瞭であるため、遺構ではない可能性もあるが一部のみ検出のため詳細不明である。中央部上面では自然石の立石が検出された。覆土１層は多量の焼土が混入する。

18 号（図 4-73）は平面形が円形を呈する土坑であり、その南西側に完形土器や復元可能土器が一括出土している。

19 号（図 4-73）は一部の検出のみでほぼ未調査である。

20・21 号（図 4-74）は柱穴状のピットである。その間には焼土層があり、建物跡の可能性を考慮のうえ精査したが、他の柱穴や壁の立ち上がりは確認されなかった。




15～19区南壁土層断面図

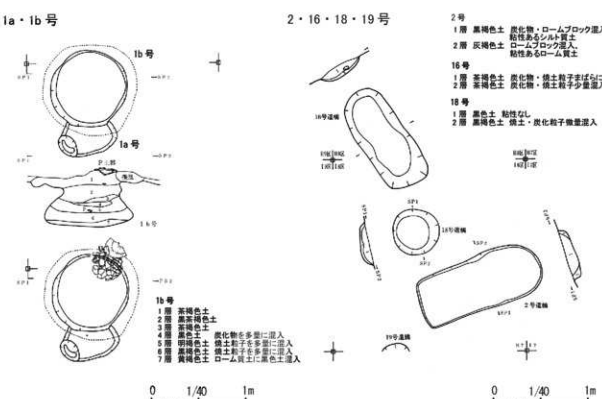
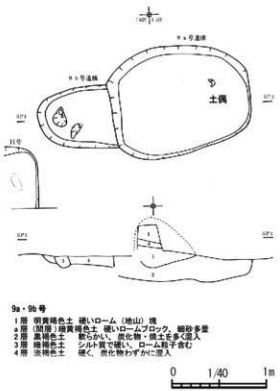
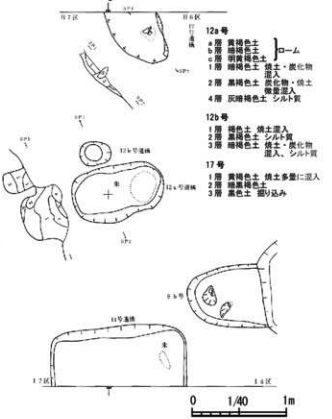



図 4-73 青森県立郷土館 雷電宮地区土層断面図および遺構平面・断面図（青森県立郷土館 1984）

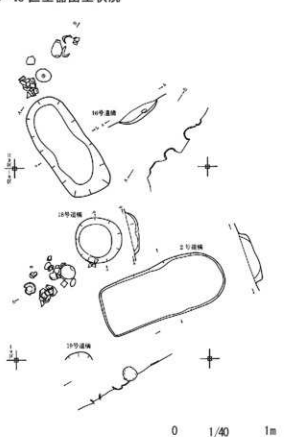
9a・9b 号




11・12a・12b・17 号




H8・I8 区土器出土状況




20・21 号

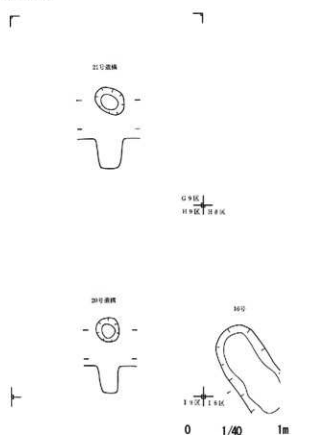



図 4-74 青森県立郷土館 雷電宮地区遺構平面・断面図（青森県立郷土館 1984）

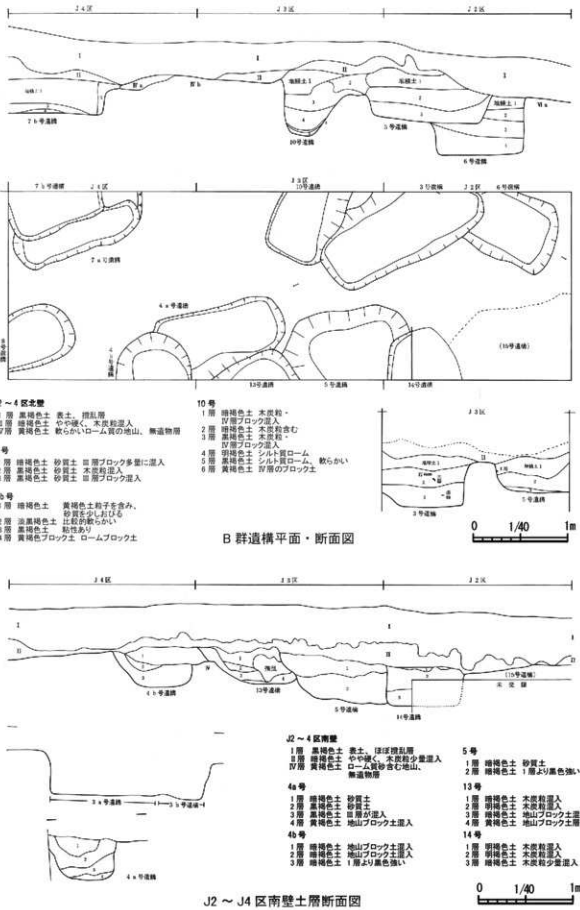



図 4-75 青森県立郷土館 雷電宮地区土層断面図および遺構平面・断面図（青森県立郷土館 1984）

**表 4-6　雷電宮地区検出遺構一覧表**

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 軸方向 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-73 | 1a号 | 土坑 | 楕円形 | 59 | 40 | 6 | — | 縄文晩期中葉(大洞C1式期) | 1b号より旧 |
| 図4-73 | 1b号 | 土坑墓 | 円形 | 76(開口部)<br>94(底部) | 80(開口部)<br>98(底部) | 48 | — | 縄文晩期中葉(大洞C1式期) | 1a号より新 |
| 図4-73 | 2号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 131 | 58 | 12 | **N-79° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C1式期) | |
| 図4-75 | 3号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 179 | 87 | 30 | **N-69° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C2式期) | 6号より新、10号との新旧不明 |
| 図4-75 | 4a号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 140 | 64 | 35 | **N-84° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C2式期) | 4b号より旧 |
| 図4-75 | 4b号 | 土坑墓 | — | (25) | 80 | 39 | **N-9° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C2式期) | 4a号より新 |
| 図4-75 | 5号 | 土坑墓 | 楕円形 | 128 | (80) | 45 | **N-89° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C1～C2式期) | 13号より新・14号より旧 |
| 図4-75 | 6号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (95) | 74 | 57 | **N-56° -W** | 縄文晩期中葉(大洞C1～C2式期) | 赤色顔料少量、3号より旧 |
| 図4-75 | 7a号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 138 | 37 | 27 | **N-80° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C1～C2式期) | 7b号より旧 |
| 図4-75 | 7b号 | 土坑墓 | 楕円形？ | (130) | (52) | 20 | **N-79° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C1式期) | 7a号より新 |
| 図4-75 | 8号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (72) | (64) | 30 | **N-81° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C1～C2式期) | |
| 図4-74 | 9a号 | 土坑墓 | 楕円形 | 144 | 116 | 21 | **N-87° -W** | 縄文晩期前～中葉(大洞BC～C1式期) | ローム マウンド、9b号より新、底面から土偶出土 |
| 図4-74 | 9b号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (70) | 63 | 8 | **N-85° -W** | 縄文晩期中葉(大洞C1～C2式期) | 小ピット、9a号より旧 |
| 図4-75 | 10号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (75) | 64 | 58 | **N-35° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C1～C2式期) | 3号との新旧不明 |
| 図4-74 | 11号 | 土坑墓 | 隅丸長方形 | 142 | 62 | 46 | **N-83° -W** | 縄文晩期前～中葉(大洞BC～C1式期) | ローム マウンド、底面に赤色顔料 |
| 図4-74 | 12a号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 96 | 60 | 36 | **N-87° -E** | 縄文晩期中葉(大洞C1式期) | ローム マウンド |
| 図4-74 | 12b号 | ピット | 楕円形 | 33 | 25 | 25 | — | 不明 | |
| 図4-75 | 13号 | 土坑墓 | — | (80) | (40) | 24 | — | 不明 | 5号より旧 |
| 図4-75 | 14号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (82) | (52) | 42 | **N-5° -E** | 不明 | 5号より新 |
| 図4-75 | 15号 | 不明 | — | — | — | — | — | 不明 | プラン検出のみ |
| 図4-74 | 16号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 114 | 49 | 8 | **N-23° -W** | 縄文晩期中葉(大洞C1式期) | |
| 図4-74 | 17号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (70) | 54 | 7 | **N-11° -W** | 縄文晩期中葉(大洞C1式期) | 立石 |
| 図4-73 | 18号 | 土坑 | 円形 | 48 | 48 | 10 | — | 不明 | |
| 図4-74 | 19号 | ピット | 円形？ | 30 | (8) | 31 | — | 不明 | |
| 図4-74 | 20号 | ピット | 円形 | 25 | 20 | 35 | — | 不明 | |
| 図4-74 | 21号 | ピット | 楕円形 | 33 | 26 | 31 | — | 不明 | |

### (4)遺物

#### 遺構出土遺物（図 4-76～4-78）

調査した 24 基の遺構のうち 20 基から遺物が出土している。A 群遺構からの遺物出土量が多く、B 群遺構では少量である。大洞 BC～C2 式期の土器・円板状土製品・土偶・籃胎漆器・石鏃・石錐等が出土した。

1 a 号からは、大洞 C1 式期を主体とする土器片 11 点、剥片数点が出土した。

1 b 号からは、土器片 189 点、剥片 19 点、石皿 1 点（11）、丸玉 1 点が遺構覆土およびその上部から出土した。7 の口縁には B 突起が連続的に配され、口頸部に平行沈線とその間を上下交互に刺突列がめぐる。10 は大洞 C1 式期の台付鉢である。口縁部は端面への刻みにより小波状を呈し、口縁上端には刺突列がめぐる。その下位には上下を平行沈線で区画された文様帯に磨消縄文手法による大腿骨文が施文される。5 は外面に条痕が施される。12 の丸玉はヒスイ製で、両面穿孔である。

2 号からは、口頸部の細い沈線間に羊歯状文の崩れた刻目文を施文する大洞 C1 式期の鉢が出土した（13）。その他に粗製の鉢等が出土しているが型式不詳である。

3 号からは復元土器 1 点、土器片 87 点、円板状土製品 2 点（20・21）、剥片 14 点、籃胎漆器片多数が出土した。粗製の壺（15）は、口縁に 2 個 1 対の小突起が貼付され、内部全体に朱が付着している。16 は鉢の口縁部破片である。籃胎漆器は細片であるが、やや外反する口縁は平坦で、底部は角に突起を有する。X 線回折の結果、籃胎漆器表面に塗布された赤色顔料の成分が朱とする結果が得られた（青森県立郷土館 1984 第 10 章Ⅶ、PL89）。

4 a・4 b 号からは土器片 65 点、剥片 3 点、円板状土製品 2 点（27・28）、漆器の微細片が出土した（前掲 PL89）。

5 号からは大洞 C1・C2 式期の土器片 7 点と剥片 4 点、6 号からは粗製土器が出土した。

7 a 号からは大洞 C2 式期の鉢（33）をはじめ型式不詳の土器片 12 点、剥片 2 点が出土した。

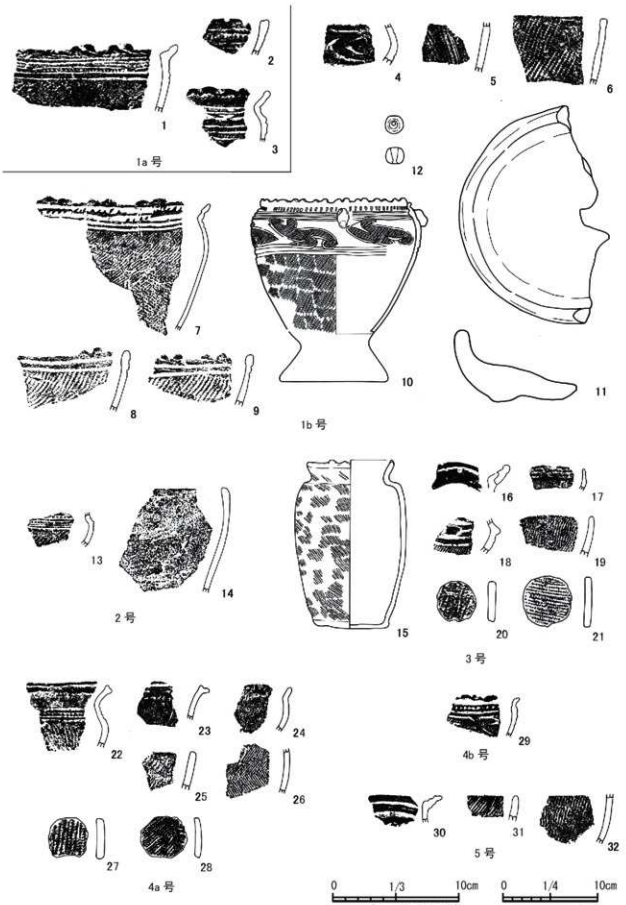



図 4-76 青森県立郷土館 雷電宮地区遺構出土遺物(1)

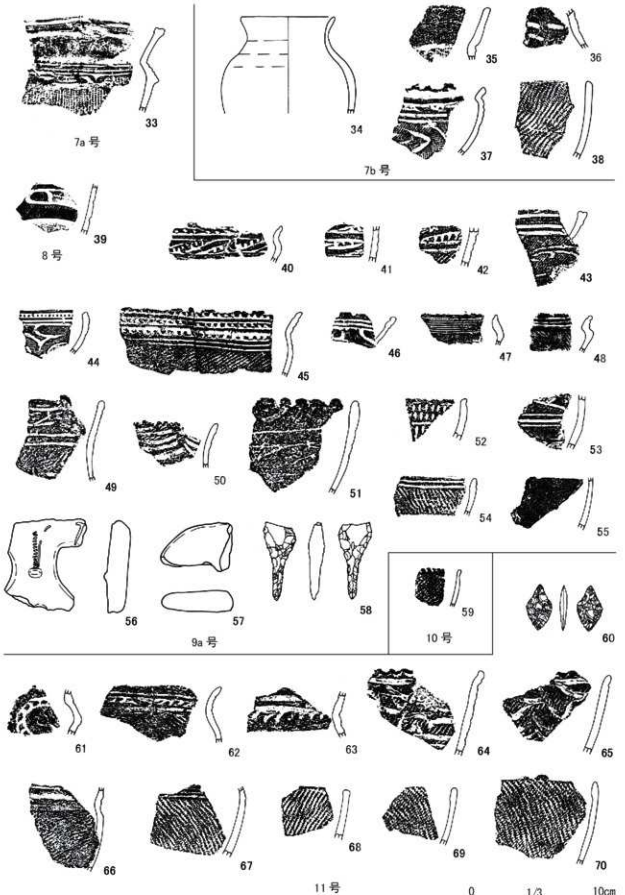



図 4-77　青森県立郷土館　雷電宮地区遺構出土遺物 (2)

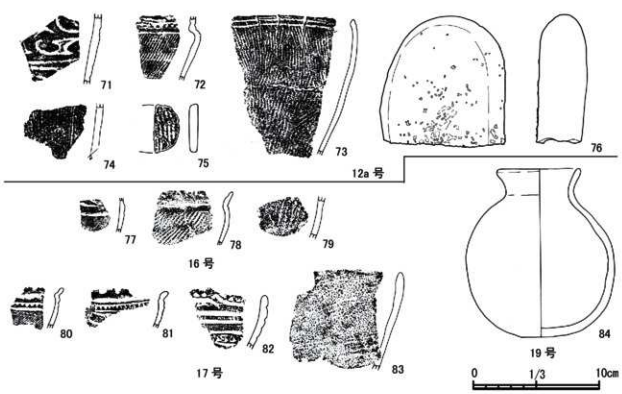



**図 4-78　青森県立郷土館　雷電宮地区遺構出土遺物 (3)**

7b 号からは土器片 74 点、剥片 1 点、籃胎漆器片少量が出土した。37 の鉢は口頸部に羊歯状文の崩れた連続刻み目を施し、胴部には磨消縄文手法による入組文が施文される。34～36 は壺であり、35・36 は頸部あるいは肩部に短線状刻目文が施文される。

8 号からは型式不詳の土器片 5 点、剥片 2 点が出土した。

9a 号からは土器片 234 点、土偶 1 点、石錐 1 点、剥片 45 点、偏平な岩板状石製品 1 点が出土した。口縁部に羊歯状文が施文された 40～42、弧線文が施文された 49～51 は晩期前葉であるが、その他ほとんどは大洞 C1 式期に属すると報告されている。43・46 は C 字文が施文された鉢である。45 は口縁部に彫刻手法による連続刻み目帯が 2 条めぐる。52 は口縁部に横沈線を挟んで 3 条の刺突文がめぐる。56 は遺構底面から出土した土偶であり、頭部・右腕・脚部を欠損する。腕部と腹部に沈線文を施文し、腹部には垂直方向に刻み目文を施すほか、へそを表現した突起が貼付される。

9b 号からは条痕の施された土器片 1 点と剥片 3 点、10 号からは時期不詳の土器片 9 点が出土した。

11 号からは土偶 1 点、土器片 78 点、石鏃 1 点、剥片 13 点、木炭が出土した。61 は遮光器土偶の乳房部であり、大洞 BC 式期の意匠を示す。62・63 は口縁部に羊歯状文の崩れた刻み目帯がめぐる。64・65 は幅広の沈線による入組三叉文が施文される。70 は粗製の深鉢であり、口縁に 2 個 1 対の突起を有する。

12a 号からは土器片 126 点、円板状土製品 1 点（75）、石器 2 点が出土した。土器片は大洞 C1 式期が主体であり、71 は胴部に入組文、72 は口頸部が「く」字状に屈折し、沈線間に刺突列がめぐる鉢、73 は口縁部に 2 条の平行沈線をめぐらす粗製の鉢、74 は条痕の施される粗製土器である。76 は礫の平坦面に敲打痕が認められる。

16 号からは土器片 31 点、剥片 14 点、円板状土製品 1 点が出土した。

17 号からは土器片 172 点が出土した。その多くは表面が風化しており型式判別が困難である。80・81 は口縁部に刻目文が施文される大洞 C1 式期の鉢である。

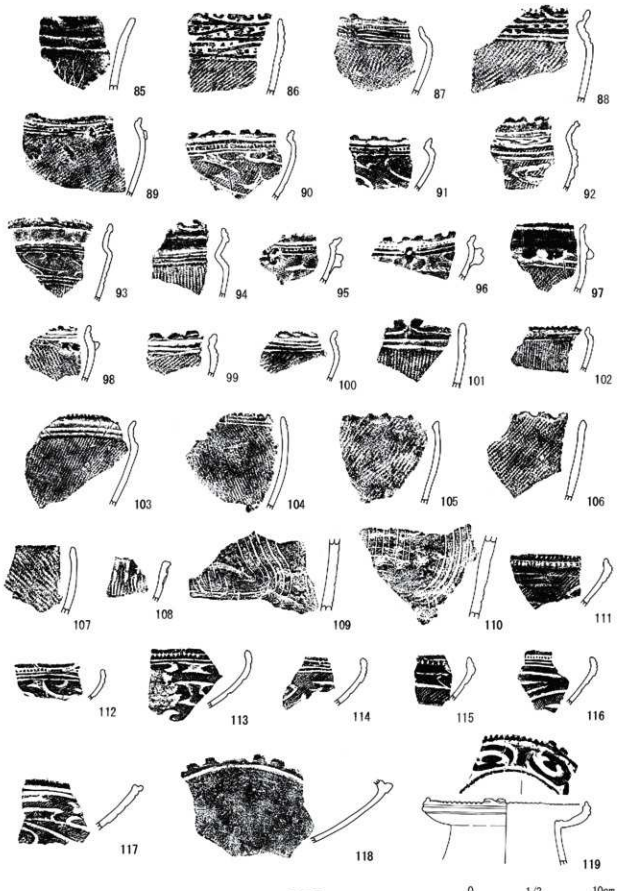



図 4-79 青森県立郷土館 雷電宮地区遺構外出土遺物（1）

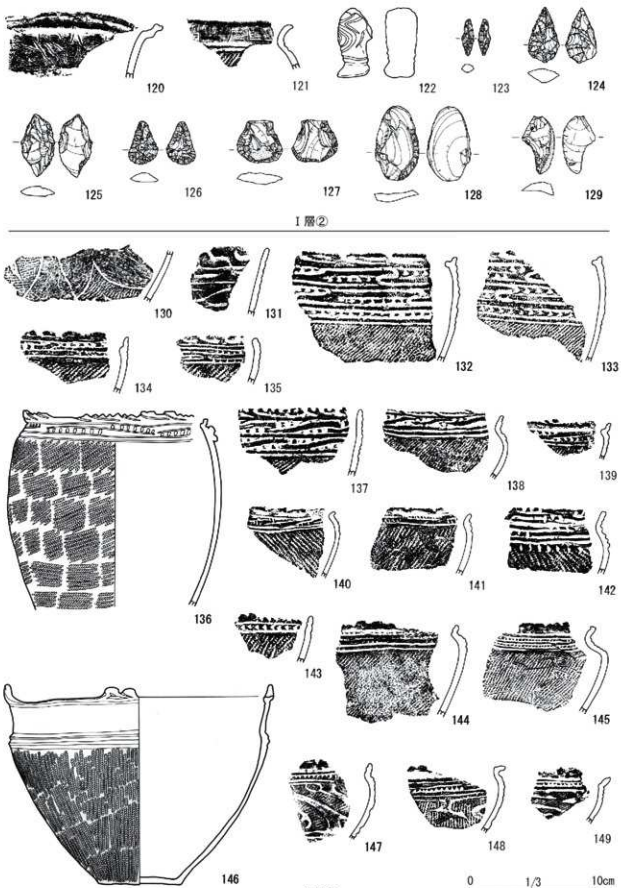



図 4-80 青森県立郷土館 雷電宮地区遺構外出土遺物（2）

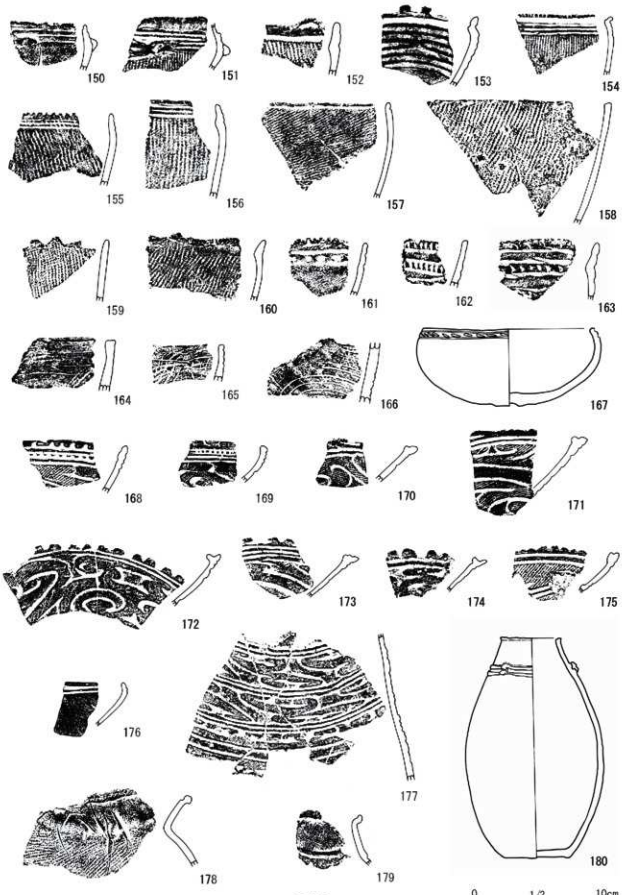



図 4-81 青森県立郷土館 雷電宮地区遺構外出土遺物（3）

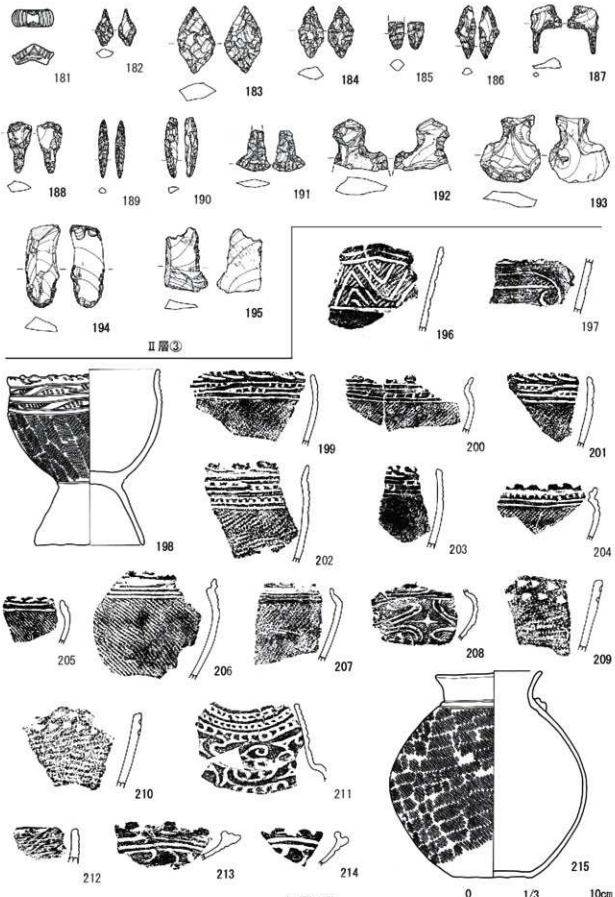



図 4-82 青森県立郷土館 雷電宮地区遺構外出土遺物（4）

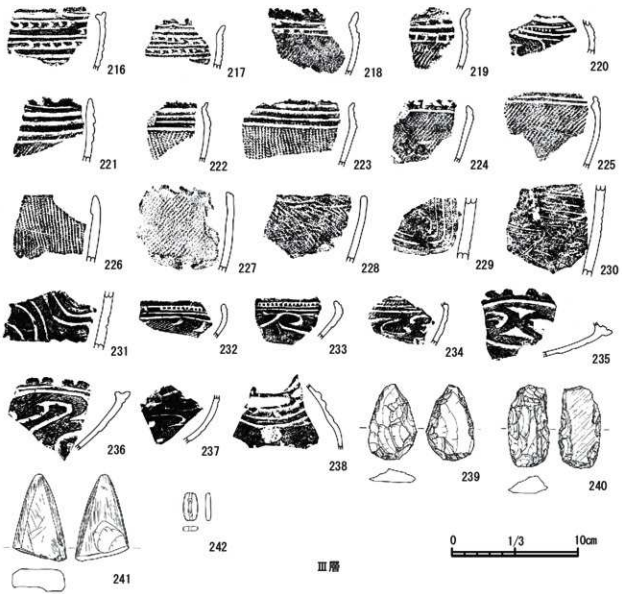



**図 4-83 青森県立郷土館 雷電宮地区遺構外出土遺物（5）**

18 号からは粗製土器の底部破片が 1 点出土した。

19 号からは完形の壺 1 点のほか、土器片 2 点が出土した。84 は表面が風化した無文の粗製壺であり、大洞 C1 式期と考えられる。

**遺構外出土遺物（図 4-79～4-83）**

主要な遺物包含層はⅡ・Ⅲ層であるが、所により Ⅰ 層が地山のⅣ層に達するとの調査所見があるように、本来Ⅱ・Ⅲ層に包含されていた多くの遺物が後世の撹乱の影響により Ⅰ 層から出土している。

**土器**

本報告にあたり雷電宮地区の包含層出土遺物を層位別に検討したところ、Ⅰ・Ⅱ層においては大洞 BC～C2 式期を中心とし、Ⅱ層下面とⅢ層においては大洞 BC・C1 式期を中心とする。この他、縄文時代後期の十腰内Ⅰ・Ⅳ群の土器が少量、晩期の大洞 A 式期の土器がごくわずかに出土した。主要な器種は浅鉢・台付浅鉢、深鉢、壺等であり、漆塗土器も多数出土した。図 4-79～4-83 では出土遺物を層位別に配置したが、その内容に層位ごとの変化があまり認められないことから、以下では各層の

遺物をまとめて記載する。

縄文時代後期の土器はⅠ～Ⅱ層下面で少量出土した。85は十腰内Ⅰ式期の深鉢口縁部で、平行沈線の下位に網目状撚糸文を施文している。130・197は磨消縄文手法による入組文が施文される。十腰内Ⅲ群に類似する。196は口縁部にV字状の沈線文が施文される。

縄文時代晩期の土器はⅠ～Ⅲ層で出土した。86～110・131～166・198～210・216～231は鉢・台付鉢あるいは深鉢である。86・137～140は口縁部に羊歯状文が1段ないし2段施文される。87～89・141～145・199～203は口縁部に平行沈線と刺突列ないし刻み目帯がめぐる。この刺突列は、1列に施される場合と一定数の刺突が上下交互に施される場合があり、いずれも羊歯状文が退化した文様と考えられる。132と133は同一個体で、平行線化した羊歯状文端部の連接により生じたと考えられる入組沈線文と、刻み目帯あるいは刺突列が口縁部にめぐる。90・91・147～149は口頸部に沈線間の刻み目帯を有し、胴部に雲形文が施文される。94・146は口縁にB突起を有し、口頸部に幅広の無文帯がめぐり胴部には縦走縄文が施される。95～98・150・151は、口頸部と胴部の境に2個1対の突起あるいはB突起が貼付される。153は口縁に2個1対の突起が貼付され、胴部に工字文が施文される。102～104・154～157・206・207・221～225は口端部の刻みと口縁部の平行沈線を特徴とし、そのいずれかのみの個体もある。105～107・158～160・226～228は口縁部から胴部にかけて縄文のみ施され、平坦口縁と押圧による波状口縁がある。108・161～163・209・210は口縁部に刺突文ないし刻み目文が2段施文され、このうち161～163は平行沈線が伴う。109・110・164～166・229～231は器面全体に数条の沈線文が直線状あるいは曲線状に施文される。

111～117・167～176・213・214・232～234・236・237は浅鉢あるいは皿である。167は口縁部に2条の平行沈線とその間に刺突列がめぐり、胴部は無文である。111～116・168・169・232～234は口縁部に沈線間刻み目を有し、胴部に磨消縄文手法による雲形文等が施文される。172～174・213・214・235・236は口縁部が肥厚し、その端面にB突起が連続的に貼付される。胴部には磨消縄文手法による雲形文が施文される。

119～121・177～180・215・238は壺である。177は長胴壺で、幅広の胴部文様帯にX字文やC字文が展開する。119は口縁部が強く屈曲し、口唇部にB突起と刻み目を有し、口縁内面にC字文が施文される。180・215は頸部と胴部の境が平行沈線で区画され、その上からB突起が貼付される。

211は口頸部が内傾する丸底の注口土器であり、口頸部には3条の沈線間刻み目帯とその下位に渦巻文が施文される。118・235はB突起を有する鍔状突帯がめぐる注口土器である。

**土製品**

Ⅰ層から土偶1点（122）、Ⅱ層からイモ虫型土製品1点（181）が出土した。122は土偶の脚部破片で弧状の沈線文が施文される。181は「く」字状に屈曲し、左右対称に短沈線文が施文される。

**石器**

Ⅰ～Ⅲ層にかけて石鏃・石槍・石錐・石篦・石匙・スクレイパー・磨製石斧・敲石・凹石・磨石・石皿・台石・砥石等が出土した。123・182は石鏃でいずれも有茎である。124・125・183～186は石槍で、不整形で刃部加工が粗いものもある。187～190は石錐で、つまみ部が作出されるもの（187・188）と棒状のもの（189・190）とがある。126・127・191は石篦であり、191は撥形を呈する。192・193は石匙で刃部の加工が粗い。128・129・194・195・239・240はスクレイパーである。241は磨製石斧で刃部側を欠損する。

この他、黒曜石の原石および剥片が368点出土している（青森県立郷土館1984　PL99下）。

**石製品**

Ⅲ層から有孔石製品が1点出土した（242）。長方形を呈し、中央部に長楕円状の孔と1条の溝を有する。玉類は未成品1点、その関連資料として緑色珪質凝灰岩の原石7点が主にⅡ層から出土した。

## 4. 沢根 83-32 地点の調査

### (1)概要(図 4-60)

沢根低湿地に面した亀山丘陵南端部の旧耕地で、平成 25 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。この調査地点は史跡範囲の南西端部にあたり、東側の丘陵南端部には青森県立郷土館の雷電宮地区が位置する。調査面積は 22 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-84)

調査地は、丘陵南端部の標高 14～15mほどの南向き緩斜面上に位置する。ただし、土層断面の観察から、縄文時代晩期前葉～中葉頃の遺物包含層の堆積する旧地形はほぼ平坦であったことが分かる。

### (3)遺構(図 4-84、表 4-7)

竪穴状遺構 1 基と土坑墓 2 基の計 3 基の遺構が検出された。

1 号は一部の検出にとどまるが、長径 260 ㎝、深さ 70 ㎝の規模を有する竪穴状遺構である。底面は壁に向かい緩やかに立ち上がる。壁際でピット 1 基が検出され、竪穴状遺構に付属すると判断された。なお、底面で焼土範囲等は確認されなかった。出土遺物から、縄文時代晩期前葉～中葉頃の年代が推定される。

2 号は北半部が 1 号に切られて平面形状が不明だが、長楕円形を呈する土坑墓と判断された。未調査だが、同じく土坑墓と考えられる 3 号とは長軸方向を違えて切り合い関係を有し、3 号より新しい。

3 号は平面形が長楕円形を呈する土坑墓であり、長径 192 ㎝、短径 108 ㎝、深さ 26 ㎝の規模を有する。遺構確認面でロームブロックと炭化物が広がり、その中心域には焼土・炭化物範囲が確認された。

2・3 号から遺物は出土していないが、1 号との切り合い関係や包含層出土遺物から、いずれも縄文時代晩期前葉～中葉頃の年代が推定される。

### (4)遺物(図 4-85・4-86、表 4-8)

1 号(竪穴状遺構)の覆土中層からは、鉢・台付鉢・ミニチュア土器等が出土した。1(巻頭写真 5 右上)は台付鉢で、口縁部に 3 条の平行沈線と沈線間に刻み目帯がめぐり、台部には円形の透かし孔と三叉文による意匠構成が 4 単位展開する。2 は口縁に小突起を有する鉢で、口縁部に 4 条の細い平行沈線が施される。3 は片口のミニチュア土器であり、内面には指頭痕とナデ調整痕が認められる。

遺構外からは、主にⅢ層からⅣ層にかけて遺物が出土し、縄文時代晩期前葉から中葉頃にかけて形成された遺物包含層である。

Ⅰ層からは口縁部に刺突文が 2 段に施された鉢が出土した(4)。

Ⅲ層からは大洞 B～C2 式期の遺物が出土した。5～7 はいずれも口縁部が外反し、上下に幅広い文様帯を構成する深鉢である。5 は口縁直下に連弧文、口縁部から胴部にかけては平行沈線と入組三叉文が展開する。6・7 は口縁部に入組三叉文と平行沈線の組み合わせが 2 段に展開する。8・9 は口縁に小突起と刻み目を有し、口頸部に羊歯状文の施文された鉢である。10～13 は口頸部が屈曲する鉢であり、沈線間に刺突列が配される。15 は口縁に A 突起を有し、口縁部に平行沈線がめぐり、2 個 1 対の粘土粒が貼付される。16・17 は口端部に刻みを有する鉢で、16 は 3 条の平行沈線間に刺突文を 3 段、17 は口縁部に 3 段の刺突文を配する。18～22 は縄文のみ施された深鉢あるいは鉢であり、口縁部文様帯を有さない。23 は胴部に縦位の条痕が施文された深鉢であり、条痕施文後に口縁部に横方向のミガキ調整が施される。24 は口縁に 2 個 1 対の B 突起を有する浅鉢であり、口縁部には三叉文が展開する。胴部は無文でミガキ調整が施される。25 は片口を有する深鉢で、口端部に刻み、口縁部

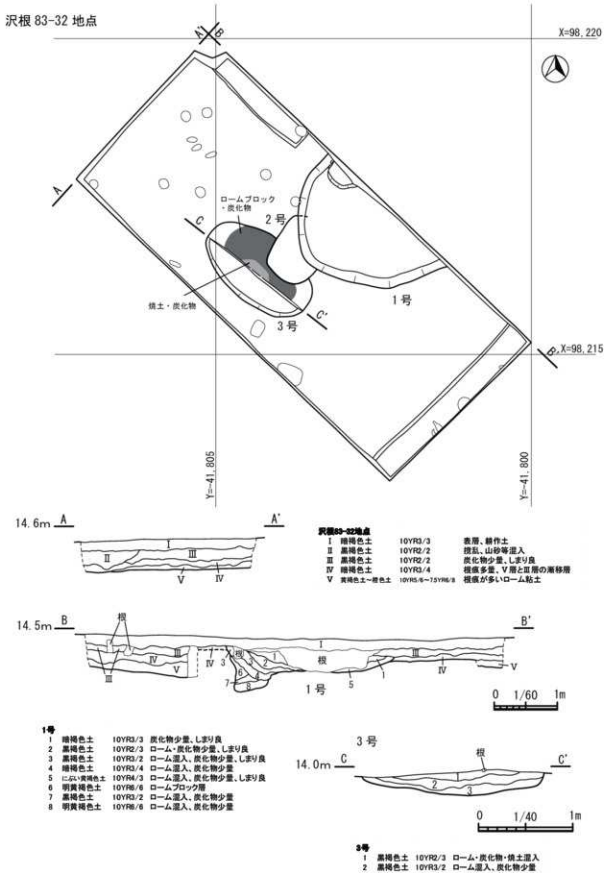



図 4-84　沢根 83-32 地点調査区平面・断面図

に平行沈線が施される。26は注口土器の口縁部破片であり、横位沈線と刺突列が多段に配される。27～30はいずれも壺であり、平行沈線の施される30を除けばいずれも無文である。28の内外面と29・30の外面には赤色顔料が塗布される。

土製品は、円板状土製品が2点出土した（31・32）。いずれも土器破片を円形に整形し、その中心を内外面から穿孔したものである。

石器は、石鏃が比較的多数出土した（33～36）。33～35は有茎で、このうち33・35は茎部先端を欠損する。36は無茎だが、33～35に比べ厚手であり、未成品あるいは石槍の可能性も考えられる。

Ⅲ～Ⅳ層にかけては縄文時代晩期中葉頃の遺物が出土した。37は縦位の条痕を有する深鉢口縁である。38は壺の胴部であり、外面に赤色顔料が塗布される。

Ⅳ層からは主に大洞BC～C1式期の遺物が出土した。39～41は口端部に刻みを有し、口縁部に羊歯状文が施文された鉢である。42は、口頸部に入組沈線文とその上下に並行沈線および刺突列がめぐる鉢である。43・44は口頸部に平行沈線と刺突列が配された鉢である。45は口頸部に把手状の大型突起を有する鉢で、平行沈線と刺突列がめぐる。46は鉢で、上下を沈線で区画された胴部文様帯に浮文化された雲形文が施文される。49は浅鉢で、胴部に平行沈線と弧線による入組帯状文が展開する。50は口縁部に連続する爪形文を2段配した深鉢である。

石器は石鏃が2点出土した（51・52）。いずれも有茎で、52は茎部両面に黒色物質が厚く付着している。

**表4-7　沢根83-32地点検出遺構一覧表**

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 軸方向 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-84 | 1号 | 竪穴状遺構 | — | 260 | (148) | 70 | — | 縄文晩期前葉～中葉 | 2号より新 |
| 図4-84 | 2号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (96) | 80 | — | N-51° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 1号より旧、3号より新 |
| 図4-84 | 3号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 192 | 108 | 26 | N-41° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 2号より旧、検出面に焼土・炭化物範囲 |

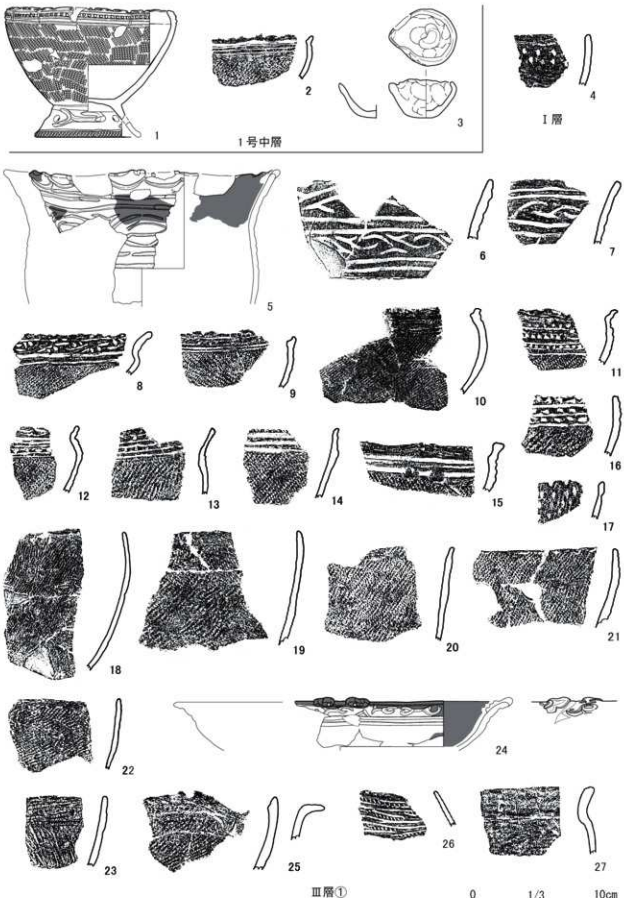



図 4-85 沢根 83-32 地点遺構内・遺構外出土遺物

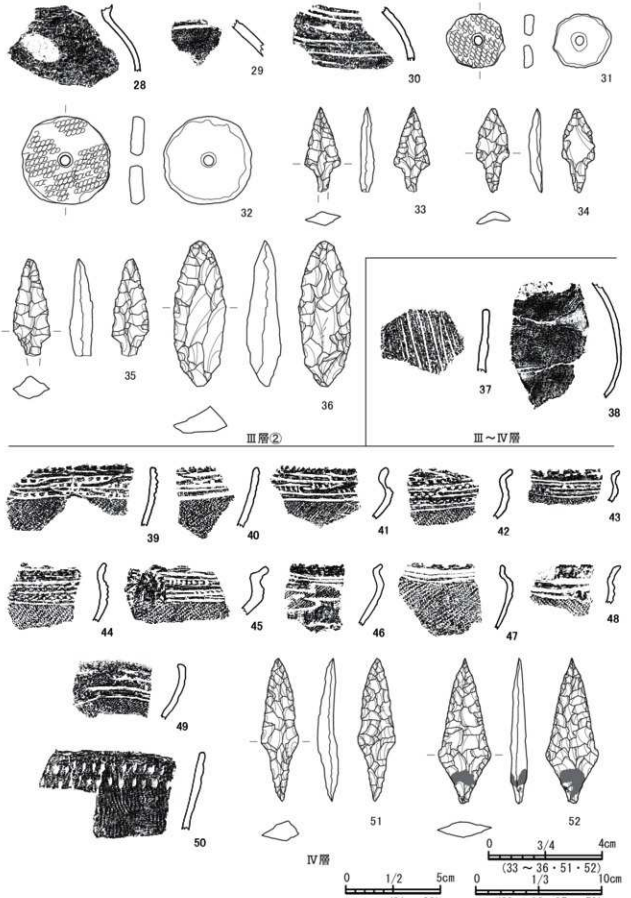



図 4-86 沢根 83-32 地点遺構外出土遺物

## 表 4-8　沢根 83-32 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-85-1 | 土器 | 台付鉢 | 口縁～台部 | 1号 | 中層(北側) | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | 台部に穿孔 |
| 図4-85-2 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 1号 | 中層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | |
| 図4-85-3 | 土器 | 鉢(ミニチュア土器) | 口縁～底部 | 2号 | 中層(北側) | 縄文晩期中葉 | | 片口 |
| 図4-85-4 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 調査区南側 | 1層 | 縄文晩期前～中葉 | | 刺突文(北海道系) |
| 図4-85-5 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞B式 | 内面炭化物付着 |
| 図4-85-6 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞B式 | |
| 図4-85-7 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞B式 | 胎土に海綿状骨針、外面炭化物付着 |
| 図4-85-8 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | 胎土に海綿状骨針 |
| 図4-85-9 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-85-10 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | 内外面炭化物付着 |
| 図4-85-11 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 調査区中部 | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-85-12 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | |
| 図4-85-13 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-85-14 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-85-15 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | 外面炭化物付着 |
| 図4-85-16 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | 刺突文(北海道系) |
| 図4-85-17 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | 刺突文(北海道系) |
| 図4-85-18 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-85-19 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | |
| 図4-85-20 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 調査区北半 | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | |
| 図4-85-21 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-85-22 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 調査区北半 | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-85-23 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 調査区北半 | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | | 外面に条痕 |
| 図4-85-24 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞B式 | |
| 図4-85-25 | 土器 | 片口深鉢 | 口縁～胴部 | 調査区中部 | Ⅲ層 | 縄文晩期前～中葉 | | 片口 |
| 図4-85-26 | 土器 | 注口土器 | 口縁部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | 胎土に海綿状骨針 |
| 図4-85-27 | 土器 | 壺 | 口縁～胴部 | 調査区北端 | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-86-28 | 土器 | 壺 | 肩部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | | 内外面赤色顔料 |
| 図4-86-29 | 土器 | 壺 | 肩部 | 調査区北端 | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | | 外面赤色顔料 |
| 図4-86-30 | 土器 | 壺 | 肩部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | | 内外面赤色顔料 |
| 図4-86-31 | 土製品 | 円板状土製品 | － | 調査区中部 | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | |
| 図4-86-32 | 土製品 | 円板状土製品 | － | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | |
| 図4-86-33 | 石器 | 石鏃 | 基部先端欠 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | 珪質頁岩 | 基部に黒色付着物微量 |
| 図4-86-34 | 石器 | 石鏃 | 完形 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | 珪質頁岩 | 全面に明褐色付着物 |
| 図4-86-35 | 石器 | 石鏃 | 基部欠 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | 珪質頁岩 | 基部に黒色付着物微量 |
| 図4-86-36 | 石器 | 石鏃 | 完形 | 調査区北端 | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | 珪質頁岩 | |
| 図4-86-37 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 3号土部付近 | Ⅱ～Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | 外面に条痕、外面炭化物付着 |
| 図4-86-38 | 土器 | 壺 | 胴部 | 1号土部付近 | Ⅱ～Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | 外面に赤色顔料 |
| 図4-86-39 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-86-40 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-86-41 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-86-42 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-86-43 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-86-44 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | |
| 図4-86-45 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | 外面に赤色顔料 |
| 図4-86-46 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | 外面炭化物付着 |
| 図4-86-47 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | 内外面炭化物付着 |
| 図4-86-48 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | |
| 図4-86-49 | 土器 | 浅鉢 | 口縁～胴部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期中前葉 | 大洞B式 | |
| 図4-86-50 | 縄文土器 | 鉢 | 口縁部 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前～中葉 | | 爪形文(北海道系)、内外面炭化物付着 |
| 図4-86-51 | 石器 | 石鏃 | 完形 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前～中葉 | 珪質頁岩 | |
| 図4-86-52 | 石器 | 石鏃 | 完形 | 1号土部付近 | Ⅳ層 | 縄文晩期前～中葉 | 珪質頁岩 | 基部に黒色付着物 |

## 5. 沢根 83-35 地点の調査

### (1) 概要(図 4-60)

沢根低湿地に面する亀山丘陵南縁部で平成 25 年度に内容確認調査を実施した。この調査地点は史跡範囲の南西端部にあたり、調査面積は 32 ㎡である。

### (2) 地形・層序(図 4-87)

調査地は、丘陵南端部の標高 15～16mほどの南向き緩斜面上に位置する。土層断面からも、沢根低湿地に向かい南向きに傾斜する旧地形が確認された。

### (3) 遺構・遺物

この地点では遺構は確認されなかった。遺物は、Ⅲ層上部から縄文時代晩期の遺物が少量出土した。

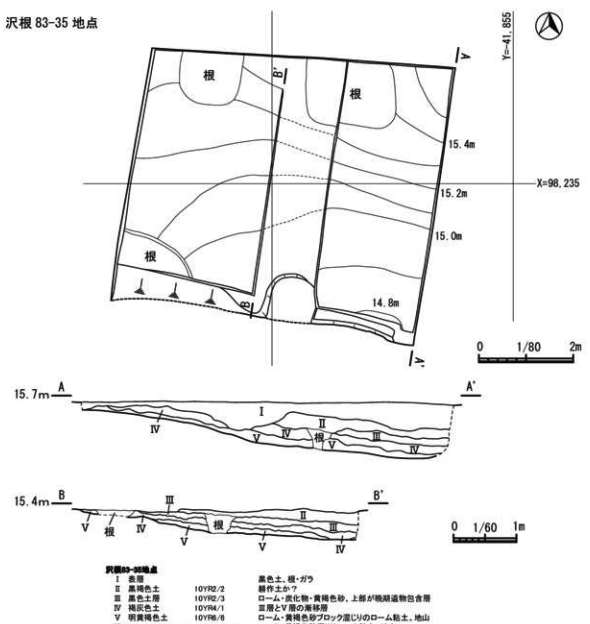



図 4-87　沢根 83-35 地点調査区平面・断面図

## 6. 亀山 57 地点、沢根 83-2 地点の調査

### (1)概要(図 4-60)

沢根低湿地に北面する丘陵北縁の斜面地において、平成 26 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を 2 地点で実施した。これらの調査地点は史跡範囲の南西隣接地にあたり、調査面積は計 15 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-88)

調査地は、沢根低湿地の沢頭付近に面する丘陵北縁部の標高 9～11mほどの北向き斜面上に位置する。亀山 57 地点ではⅣ～Ⅶ層が北東向きに急傾斜で堆積し、下方が泥炭化する。Ⅳ層上部までは縄文時代と近世の遺物が混在し、Ⅳ層下部で縄文時代後期の遺物が少量出土した。沢根 83-2 地点ではⅤ層中に白頭山火山灰（B-Tm）の堆積が確認され、Ⅳ～Ⅶ層から縄文時代後期の遺物が少量出土した。

### (3)遺構

亀山 57 地点、沢根 83-2 地点とも遺構は確認されなかった。

### (4)遺物(図 4-89、表 4-9)

亀山 57 地点では縄文時代晩期中葉から近世以降までの遺物が出土した。ただし、Ⅱ・Ⅳ層上部では縄文時代の遺物と近世以降の遺物が混在して出土することから、Ⅳ層上部までは近世以降の堆積層と判断された。なお、Ⅳ層下位からは縄文時代後期の遺物が少量出土した。1・2 は口縁部に 3 条の平行沈線が施された深鉢である。8 は大洞 C1 式期の壺である。頸部と肩部の境に 2 条の突帯がめぐり、突帯上に B 突起が貼付される。10・11 は磨石であり、11 には全面に摩耗痕がおよぶ。12 は全面に摩耗痕がおよび、側縁に敲打痕と擦痕が認められる。

沢根 83-2 地点では、Ⅳ層からⅤ層にかけて縄文時代中～後期の遺物が出土した。13 は折り返し口縁を有する粗製の深鉢である。14 は 2 条の平行沈線が 2 段に施された深鉢である。15 のスクレイパーは、偏平な礫の全周に両面から二次加工が施されて刃部が作り出される。平坦面には敲打痕と擦痕が認められる。16 は石皿の破片資料で、篩理面に沿った割れが数条認められる。

**表 4-9　亀山 57・沢根 83-2 地点出土遺物観察表**

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 調査地点 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-89-1 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 亀山57 | Ⅰ～Ⅱ層 | 縄文晩期後葉 | | |
| 図4-89-2 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 亀山57 | Ⅰ～Ⅱ層 | 縄文晩期後葉 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-89-3 | 陶器 | 擂鉢 | 胴部 | 亀山57 | Ⅱ層 | 18～19C | | 須佐唐津か |
| 図4-89-4 | 陶器 | 擂鉢 | 胴部 | 亀山57 | Ⅱ層 | 18C後～19C中 | | 肥前 |
| 図4-89-5 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 亀山57 | Ⅱ～Ⅲ層(南西部) | 縄文晩期 | | |
| 図4-89-6 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 亀山57 | Ⅱ～Ⅲ層(南西部) | 縄文晩期 | | |
| 図4-89-7 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 亀山57 | Ⅱ～Ⅲ層(北側) | 縄文晩期 | | 外面に炭化物付着 |
| 図4-89-8 | 土器 | 壺 | 肩部 | 亀山57 | Ⅱ～Ⅲ層(北側) | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | |
| 図4-89-9 | 陶器 | 壺 | 胴～底部 | 亀山57 | Ⅳ層上位 | 近世以降 | | 産地不明 |
| 図4-89-10 | 石器 | 磨石 | 完形 | 亀山57 | Ⅳ層上位 | 縄文 | 安山岩 | |
| 図4-89-11 | 石器 | 磨石 | 完形 | 亀山57 | Ⅳ層上部 | 縄文 | 安山岩 | |
| 図4-89-12 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | 亀山57 | Ⅳ層上部 | 縄文 | 安山岩 | |
| 図4-89-13 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 沢根83-2 | Ⅳ～Ⅴ層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-89-14 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-2 | Ⅳ～Ⅴ層 | 縄文後期 | | |
| 図4-89-15 | 石器 | スクレイパー | 完形 | 沢根83-2 | Ⅴ層 | 縄文後期 | 安山岩 | |
| 図4-89-16 | 石器 | 石皿 | 一部欠損 | 沢根83-2 | Ⅴ層 | 縄文後期 | 安山岩 | |

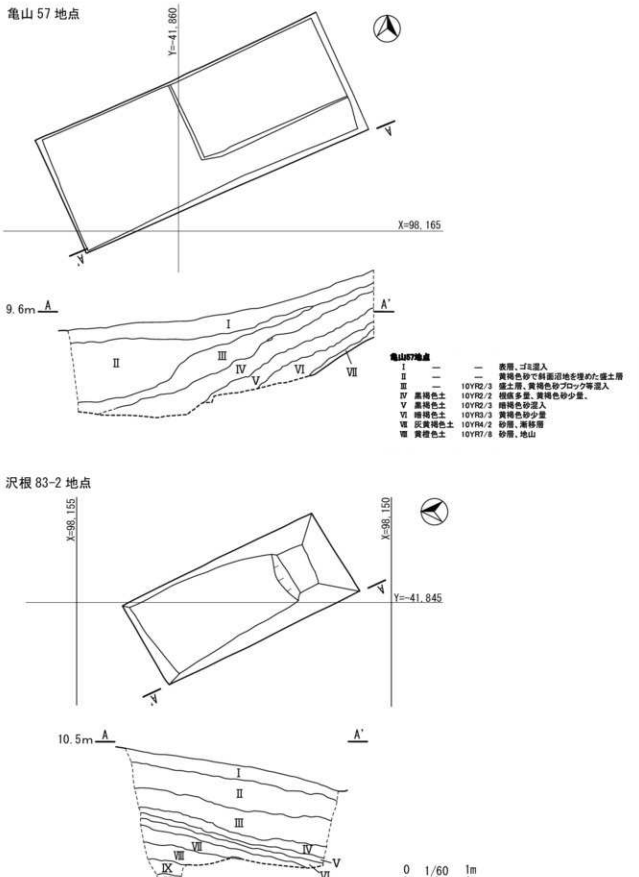



図 4-88　亀山 57 地点、沢根 83-2 地点調査区平面・断面図

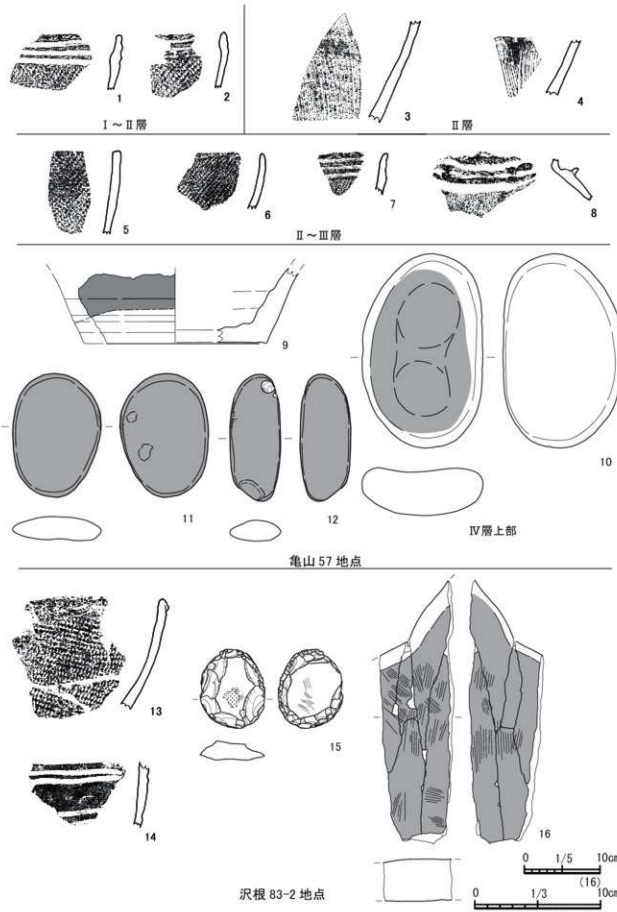



図 4-89 亀山 57 地点、沢根 83-2 地点出土遺物

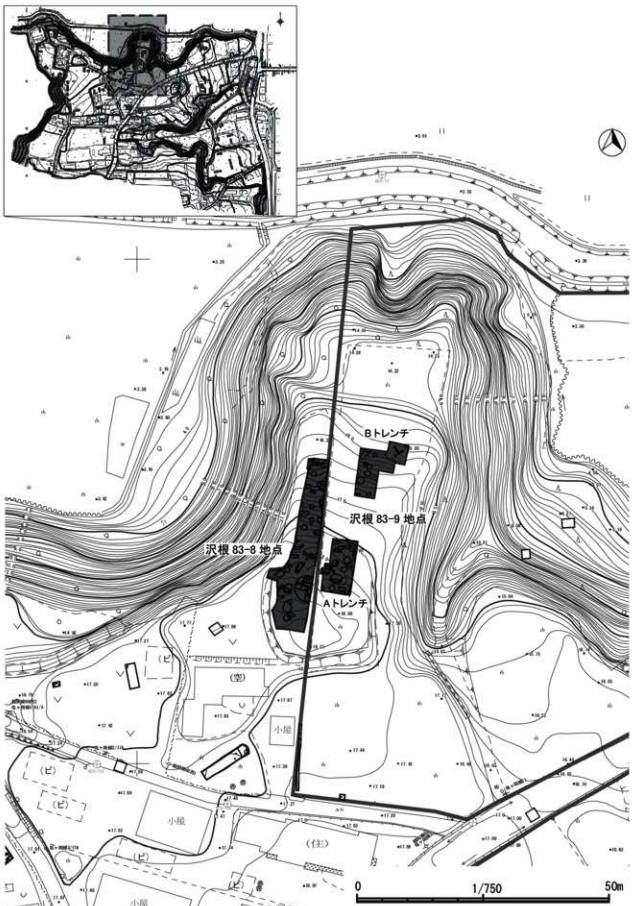



図 4-90　沢根 83-8 地点、83-9 地点調査区位置図

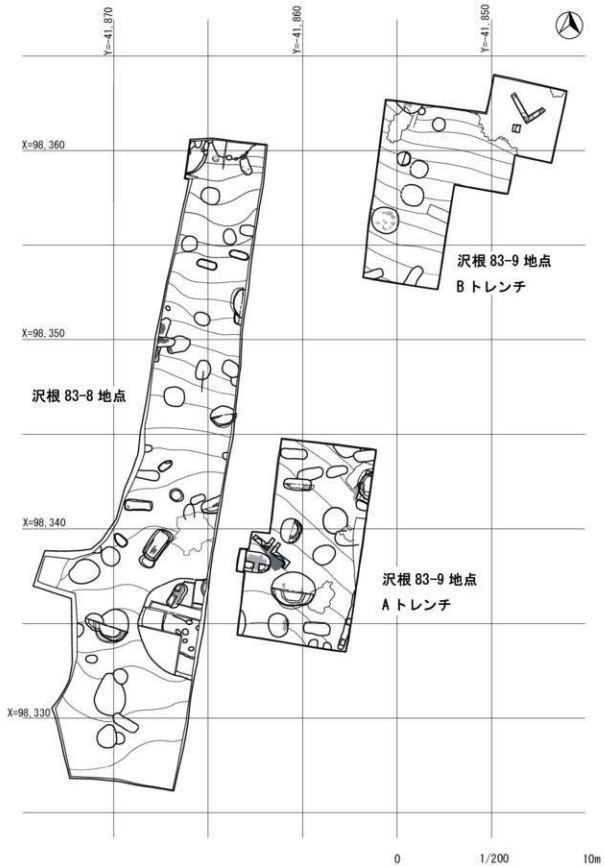



図 4-91　沢根 83-8 地点、83-9 地点調査区配置図

## 7. 沢根 83-9 地点の調査

### (1)概要(図 4-90)

近江野沢低湿地に面した亀山丘陵北端部の旧宅地内で、平成 29 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。この調査地点は史跡範囲の北西端部にあたる。休耕地の南側に A トレンチ、北側に B トレンチを設定した。調査面積は計 120 ㎡である。なお、丘陵東側の近江野沢低湿地には、昭和 25 年に慶應義塾大学により発掘調査の実施された C・D 地点が位置する。

### (2)地形・層序(図 4-91・4-92・4-95)

調査地は、北に張り出す舌状丘陵地の標高 16～18mほどの北向き緩斜面上に位置する。A・B トレンチ東側は近江野沢低湿地に向かう急傾斜面となる。A トレンチ南東側および南側には急崖があり、かつて宅地造成のために削平された箇所である。なお、A トレンチ南側付近は、亀山丘陵で最も標高の高い地点である。

A トレンチは地表下 10～20 ㎝に層厚 10～15 ㎝ほどの暗褐色土層(Ⅱ層)が堆積し、以下漸移層(Ⅲ層)となる。Ⅱ層に遺物はほとんど含まれないが、付近の調査地点との層序対比から縄文時代晩期の堆積層と判断された。遺構検出面は主にⅢ層上面である。B トレンチは表土下 20～30 ㎝が漸移層(Ⅲ層)となり、A トレンチより丘陵部の削平が深く及んだ状況が確認された。A トレンチ同様、遺構検出面は主にⅢ層上面である。B トレンチの北東部は広範囲に撹乱が及んでいる。

### (3)遺構(図 4-92～4-96、表 4-10)

縄文時代前期～晩期の遺構 32 基を検出した。主な遺構は縄文時代中期の竪穴建物跡 1 軒、縄文時代前期～中期のフラスコ状土坑 13 基、縄文時代晩期の土坑墓 12 基であり、このほか土坑 3 基、焼土遺構と溝跡が各 1 基確認された。フラスコ状土坑の分布は A・B 両トレンチに広範に及ぶが、土坑墓は南側の A トレンチを分布の中心とし、北側の B トレンチでは南端部でのみ検出された。このうち 8 基を半裁あるいはトレンチ調査した。

#### 竪穴建物跡 (図 4-92)

A トレンチ 19 号は一部を検出したに過ぎないが、検出位置と覆土の特徴から、西側に隣接する沢根 83-8 地点の 1 号と同一遺構と判断された。遺構の特徴は、沢根 83-8 地点 1 号の記載を参照されたい。

#### フラスコ状土坑

フラスコ状土坑のほとんどは平面形が楕円形あるいは円形を呈する。開口部の長軸長 70～230 ㎝、短軸長 57～190 ㎝、深さ 34～166 ㎝であり、規模にばらつきが認められる。遺構確認面あるいは覆土上部に焼土ブロック層やロームブロック層が検出されることから、いずれも遺構廃絶後の窪地に廃棄された土層と考えられる。いずれの遺構からも遺物の出土は少なく、覆土下部は粘質土壌でしまりが弱い傾向にある。

A トレンチ 3 号(図 4-92)は、長径 125 ㎝、短径 106 ㎝で開口部平面形は楕円形を呈する。未調査だが、遺構確認面において、遺構内外に広がる焼土範囲を検出した。

A トレンチ 6 号(図 4-93)は亀ヶ岡遺跡で検出されたフラスコ状土坑の中では中規模のものである。開口部長径 130 ㎝、底部長径 100 ㎝、深さ 70 ㎝の規模で、開口部平面は楕円形を呈する。中層および最下層から円筒下層 d1 式の口縁部破片が出土しており、遺構年代は縄文時代前期末葉頃と判断された。このほか、底面付近から破損した石皿が出土した。9 層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定結果(4,610±30yrBP、第 5 章第 1 節)は、縄文時代前期後葉頃の年代値を示す。

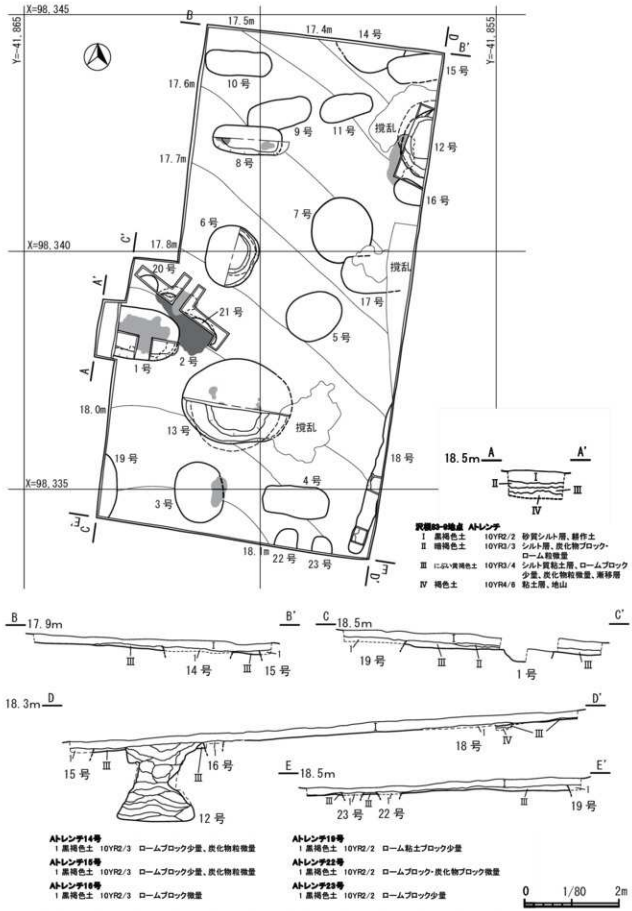
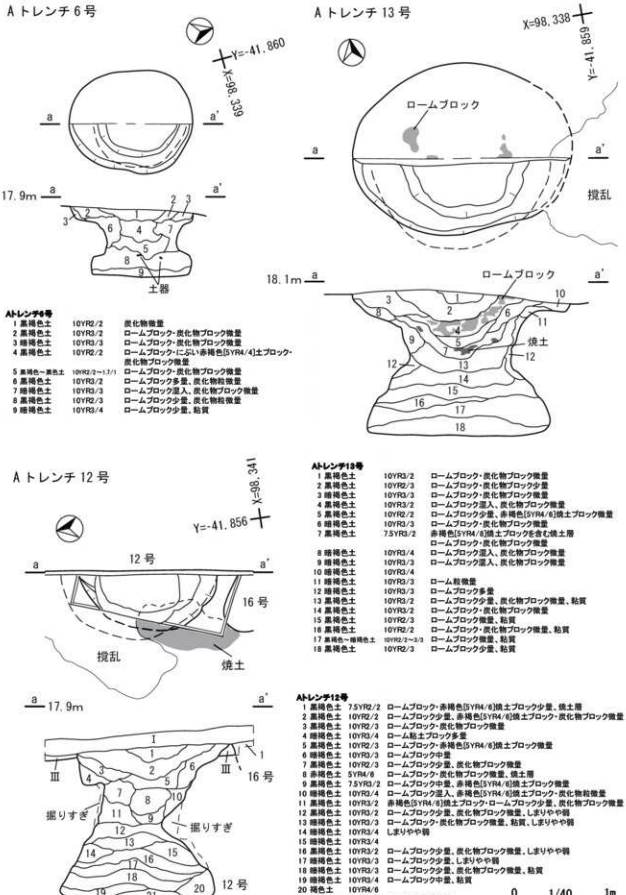



図 4-92　沢根 83-9 地点 A トレンチ平面・断面図




**Aトレンチ6号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物微量 |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 3 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 4 黒褐色土 | 10YR2/2 | ロームブロック・にぶい赤褐色(5YR4/4)土ブロック・炭化物ブロック微量 |
| 5 黒褐色～黒色土 | 10YR2/2～1.7/1 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 6 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック多量、炭化物粒微量 |
| 7 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック混入、炭化物ブロック微量 |
| 8 黒褐色土 | 10YR2/3 | ロームブロック少量、炭化物粒微量 |
| 9 暗褐色土 | 10YR3/4 | ロームブロック少量、粘質 |

**Aトレンチ13号**

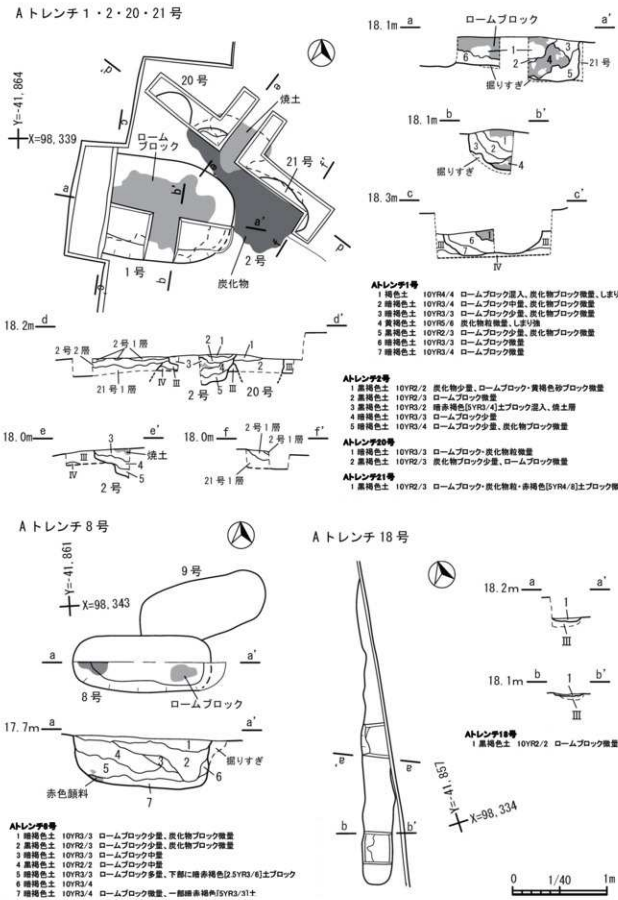
| | | |
|---|---|---|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 2 黒褐色土 | 10YR2/3 | ロームブロック・炭化物ブロック少量 |
| 3 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 4 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック混入、炭化物ブロック微量 |
| 5 黒褐色土 | 10YR2/2 | ロームブロック少量、赤褐色(5YR4/6)焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 7 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 赤褐色(5YR4/8)焼土ブロックを含む焼土層 |
| | | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 8 暗褐色土 | 10YR3/4 | ロームブロック混入、炭化物ブロック微量 |
| 9 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック混入、炭化物ブロック微量 |
| 10 暗褐色土 | 10YR3/4 | |
| 11 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒微量 |
| 12 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック多量 |
| 13 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック少量、炭化物ブロック微量、粘質 |
| 14 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 15 黒褐色土 | 10YR2/3 | ロームブロック微量、粘質 |
| 16 黒褐色土 | 10YR2/2 | ロームブロック・炭化物ブロック微量、粘質 |
| 17 黒褐色～暗褐色土 | 10YR2.5～3/3 | ロームブロック少量、粘質 |
| 18 黒褐色土 | 10YR2/3 | ロームブロック少量、粘質 |

**Aトレンチ12号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 黒褐色土 | 7.5YR2/2 | ロームブロック・赤褐色(5YR4/6)焼土ブロック少量、焼土層 |
| 2 黒褐色土 | 10YR2/2 | ロームブロック少量、赤褐色(5YR4/6)焼土ブロック・炭化物ブロック微量 |
| 3 黒褐色土 | 10YR2/3 | ロームブロック・炭化物ブロック微量 |
| 4 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒土ブロック多量 |
| 5 黒褐色土 | 10YR2/3 | ロームブロック・赤褐色(5YR4/6)焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色土 | 10YR2/3 | ロームブロック少量、炭化物ブロック微量 |
| 8 赤褐色土 | 5YR4/8 | ロームブロック・炭化物ブロック微量、焼土塊 |
| 9 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | ロームブロック中量、赤褐色(5YR4/6)焼土ブロック微量 |
| 10 暗褐色土 | 10YR3/4 | ロームブロック混入、赤褐色(5YR4/6)焼土ブロック・炭化物粒微量 |
| 11 黒褐色土 | 10YR3/2 | 赤褐色(5YR4/6)焼土ブロック・ロームブロック少量、炭化物ブロック微量 |
| 12 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック少量、炭化物ブロック微量、しまりやや弱 |
| 13 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック・炭化物ブロック微量、粘質、しまりやや弱 |
| 14 暗褐色土 | 10YR3/4 | しまりやや弱 |
| 15 暗褐色土 | 10YR3/4 | |
| 16 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック少量、炭化物ブロック微量、しまりやや弱 |
| 17 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック少量、しまりやや弱 |
| 18 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック少量、炭化物ブロック微量、粘質 |
| 19 暗褐色土 | 10YR3/4 | ロームブロック中量、粘質 |
| 20 褐色土 | 10YR4/6 | |
| 21 暗褐色土 | 10YR4/3 | ロームブロック少量 |

0 1/40 1m

図 4-93　沢根 83-9 地点 A トレンチ フラスコ状土坑平面・断面図




**Aトレンチ1号**
1 褐色土　10YR4/4　ロームブロック混入、炭化物ブロック微量、しまり強
2 暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック中量、炭化物ブロック微量
3 暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量、炭化物ブロック微量
4 黄褐色土　10YR5/6　炭化物粒微量、しまり強
5 黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック少量、炭化物ブロック微量
6 暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量、炭化物ブロック微量
7 暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック微量

**Aトレンチ2号**
1 黒褐色土　10YR2/2　炭化物少量、ロームブロック・黄褐色砂ブロック微量
2 黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック微量
3 黒褐色土　10YR3/2　暗赤褐色[5YR3/4]土ブロック混入、焼土層
4 暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量
5 暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック少量、炭化物ブロック微量

**Aトレンチ20号**
1 暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック・炭化物粒微量
2 黒褐色土　10YR2/3　炭化物ブロック少量、ロームブロック微量

**Aトレンチ21号**
1 黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック・炭化物粒・赤褐色[5YR4/8]土ブロック微量

**Aトレンチ8号**
1 暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量、炭化物ブロック微量
2 黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック少量、炭化物ブロック微量
3 暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック中量
4 黒褐色土　10YR2/2　ロームブロック中量
5 暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック多量、下部に暗赤褐色[2.5YR3/6]土ブロック
6 暗褐色土　10YR3/4
7 暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック微量、一部暗赤褐色[5YR3/3]土

**Aトレンチ18号**
1 黒褐色土　10YR2/2　ロームブロック微量

図 4-94　沢根 83-9 地点 A トレンチ土坑墓および溝跡平面・断面図

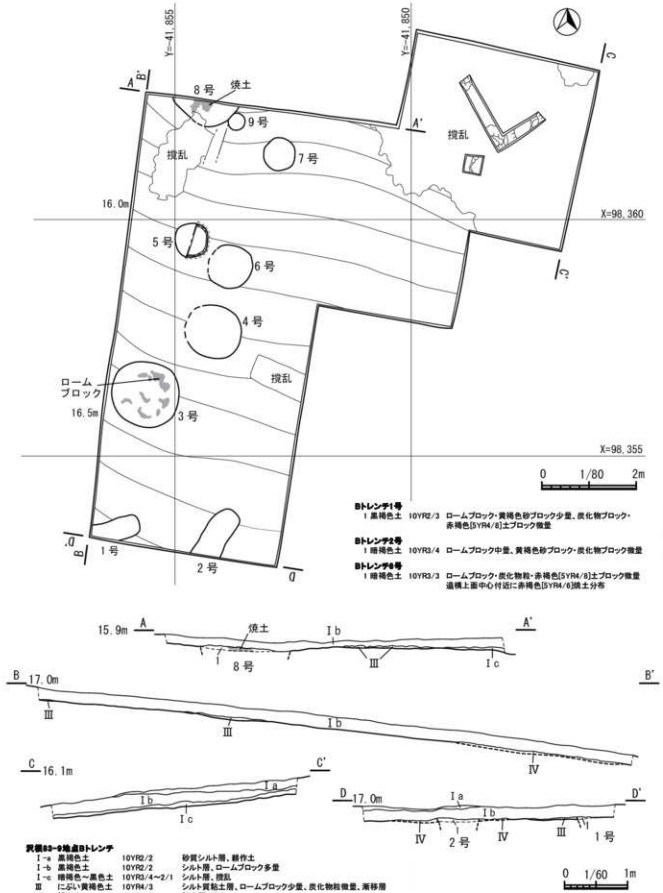



図 4-95 沢根 83-9 地点 B トレンチ平面・断面図

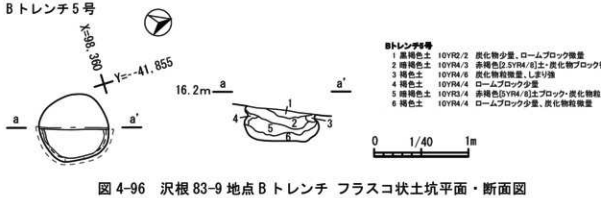



**図 4-96　沢根 83-9 地点 B トレンチ フラスコ状土坑平面・断面図**

A トレンチ 12 号（図 4-93）は亀ヶ岡遺跡で検出されたフラスコ状土坑の中では最大規模のものであり、開口部長径 148 ㎝、深さ 166 ㎝である。確認面で遺構内外におよぶ焼土範囲が検出されたほか、中位に焼土ブロック層（8 層）が確認された。16 層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定結果（4,790±20yrBP、第 5 章第 1 節）は、縄文時代前期末葉頃の年代値を示す。

A トレンチ 13 号（図 4-93）は 12 号同様、最大規模のものである。開口部の長径 231 ㎝、短径 190 ㎝、底部径 182 ㎝、深さ 190 ㎝の規模で、開口部平面形は楕円形を呈する。覆土上位にロームブロックが多量に含まれる層（4 層）や焼土層（7 層）がある。出土遺物は 5 層出土の円筒下層 d1 式の土器片少数のみだが、ほぼ同様の規模・特徴を有する沢根 83-8 地点 2 号（フラスコ状土坑）底面から出土した炭化物の年代測定結果（第 5 章第 1 節）を考慮すれば、縄文時代前期末葉頃の年代が推定される。

B トレンチ 3 号（図 4-95）は未調査だが、遺構確認面でロームブロックの分布が確認された。平面形は径 150 ㎝ほどの円形を呈する。

B トレンチ 5 号（図 4-96）は小規模なフラスコ状土坑であり、開口部平面形は楕円形を呈する。断面形状の観察から、遺構上部が大きく削平されたと考えられる。開口部径 74 ㎝、底部径 81 ㎝、深さ 34 ㎝の規模を有する。遺物は出土していない。

B トレンチ 8 号（図 4-95）は未調査だが、遺構確認面で焼土の分布が確認された。

**土坑墓**

土坑墓のほとんどは平面形が長楕円形を呈する。規模は長軸長 114～146 ㎝、短軸長 42～108 ㎝であり、亀山 36-1 地点に比べて長軸長にまとまりが認められる。長軸長：短軸長の比率が 2：1 を前後するものがほとんどである。長軸方向については東西を軸とするものが目立つが、南北を軸とするものも若干数ある。土坑墓上部の特徴として、1 号上面にロームマウンドが確認された。底面はほとんどが平坦であり、半裁した土坑墓にはいずれも底部の壁溝が認められない。赤色顔料の分布は 8 号底面で 1 か所認められた。いずれの土坑墓も出土遺物が少なく、明確な副葬品は出土していない。

A トレンチ 1 号（図 4-94）は、かつての水道管敷設により西側が破壊されており、長軸長 132 ㎝以上、短軸長 108 ㎝、深さ 46 ㎝の楕円形を呈する。2・21 号と重複し、両遺構より新しい。上面にロームマウンドが構築され、底面は東側に傾斜する。底部付近に多量のロームブロックが堆積する状況や底面の傾斜など、他の土坑墓には認められない特徴を有し、風倒木痕の可能性も想定されるが、本報告では土坑墓として扱う。

A トレンチ 8 号（図 4-94）は長軸長 146 ㎝、短軸長 60 ㎝、深さ 53 ㎝の長楕円形を呈する土坑墓である。9 号と重複し、9 号より新しい。遺構確認面で東側にロームブロックが検出された。また、底面の西端部付近で赤色顔料が検出された。成分分析の結果、この赤色顔料はベンガラと同定されている（第 5 章第 2 節）。なお、土層断面の傾斜から、覆土が西側から埋め戻された状況が推定される。

### 焼土遺構（図 4-94）

Aトレンチ２号は調査区西側で検出された。１・20・21 号と重複し、１号より旧く、20・21 号より新しい。150×80 cmほどの範囲に焼土と炭化物が広がる。この焼土遺構の北西部では深さ 30 cmほどの掘り込みが検出され、焼土の厚く堆積する層（３層）も確認された。

### 溝跡（図 4-94）

Aトレンチ南東端部において、南北方向に延びる溝跡（18 号）を１条検出した。南端が途切れており、長さが 320 cm以上、幅 30 cm、深さ４cmの規模を有する。遺物が出土せず、他調査地点にも類例がないことから年代は不明である。

**表 4-10　沢根 83-9 地点 A・B トレンチ検出遺構一覧表**

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 地点 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 軸方向 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-94 | 1号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 楕円形 | (132) | 108 | 46 | N-80° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | ローム マウンド、2・21号より新、風倒木痕の可能性あり |
| 図4-94 | 2号 | 焼土遺構 | Aトレンチ | — | 154 | 80 | 32 | — | 縄文晩期前葉～中葉 | 1号より旧、20・21号より新 |
| 図4-92 | 3号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 125 | 106 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-92 | 4号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 142 | 67 | — | N-84° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-92 | 5号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 122 | 98 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-93 | 6号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 132（開口部）99（底部） | 109（開口部）－（底部） | 72 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-92 | 7号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 円形 | 140 | 130 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 19号より旧 |
| 図4-94 | 8号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 146 | 60 | 53 | N-85° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | 底面に赤色顔料、9号より新 |
| 図4-92 | 9号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 140 | 63 | — | N-77° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 8号より旧 |
| 図4-92 | 10号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 142 | 52 | — | N-87° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-92 | 11号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | 114 | 56 | — | N-78° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-93 | 12号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 148（開口部）60（底部） | 164（開口部）68（底部） | 166 | — | 縄文前期前葉～中葉 | |
| 図4-93 | 13号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 231（開口部）182（底部） | 190（開口部）－（底部） | 154 | — | 縄文前期末葉 | |
| 図4-92 | 14号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 楕円形？ | (150) | 57 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 15号より旧 |
| 図4-92 | 15号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | (119) | 60 | — | N-85° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 14号より新 |
| 図4-92 | 16号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | (68) | 49 | — | N-64° -W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-92 | 17号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | (95) | (75) | — | N-88° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | 7号より新 |
| 図4-94 | 18号 | 溝跡 | Aトレンチ | — | (324) | 31 | 4 | — | 不明 | |
| 図4-92 | 19号 | 竪穴建物跡 | Aトレンチ | 円形 | — | — | — | — | 縄文中期中葉 | 沢根83-8地点1号と同一遺構 |
| 図4-94 | 20号 | 土坑 | Aトレンチ | 円形？ | 46 | 20 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 2号より旧 |
| 図4-94 | 21号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形？ | 73 | (25) | — | — | 縄文前期前葉～中葉 | 1・2号より旧 |
| 図4-92 | 22号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形 | (41) | 50 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-92 | 23号 | 土坑墓 | Aトレンチ | 長楕円形？ | (40) | 42 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-95 | 1号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | (106) | 47 | — | N-74° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-95 | 2号 | 土坑墓 | Bトレンチ | 長楕円形 | (125) | 57 | — | N-33° -E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-95 | 3号 | フラスコ状土坑 | Bトレンチ | 円形 | 149 | 140 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-95 | 4号 | フラスコ状土坑 | Bトレンチ | 円形 | 122 | 112 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-96 | 5号 | フラスコ状土坑 | Bトレンチ | 円形 | 74（開口部）81（底部） | 71（開口部）－（底部） | 34 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-95 | 6号 | フラスコ状土坑 | Bトレンチ | 円形 | 98 | 94 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-95 | 7号 | フラスコ状土坑 | Bトレンチ | 円形 | 70 | 66 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-95 | 8号 | フラスコ状土坑 | Bトレンチ | 楕円形？ | 141 | (50) | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-95 | 9号 | 土坑 | Bトレンチ | 円形 | (36) | 36 | — | — | 不明 | |

### (4)遺物(図 4-97・4-98)

縄文時代前期～中期および晩期の土器・石器が出土した。遺構外出土遺物は僅少である。

Aトレンチ６号（フラスコ状土坑）からは、円筒下層 d1 式の口縁部破片（2・3）とともにスクレイパー（４）や石皿が出土した。石皿（６）は中央付近で折損しているが、長さ 20 cm以上、幅 29 cmであり、皿状に窪んだ面には広範囲の摩耗痕と一部範囲に敲打痕が認められた。

Aトレンチ 11 号（土坑墓）の上面からは晩期の深鉢胴部破片（７）が出土した。

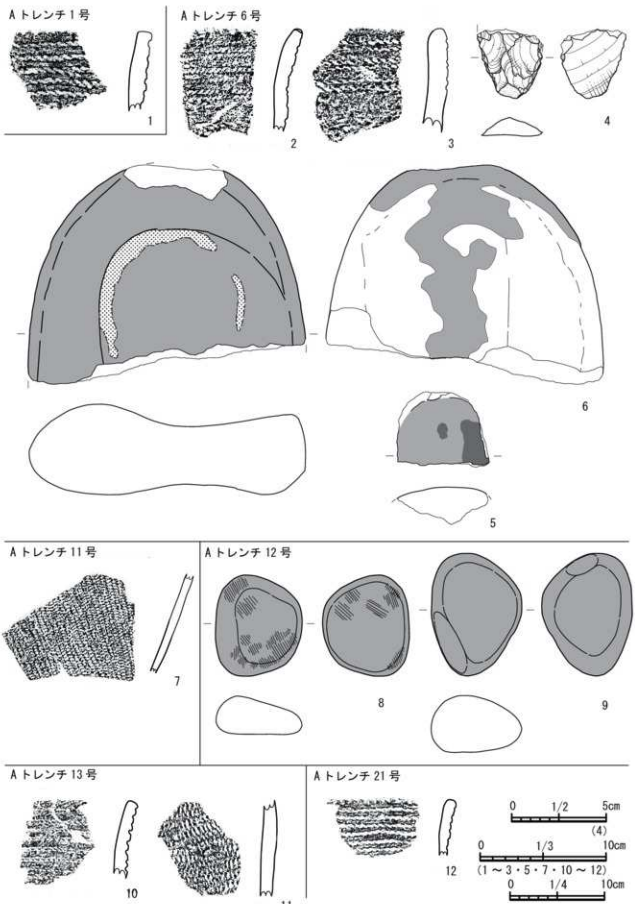



図 4-97　沢根 83-9 地点 A トレンチ遺構出土遺物

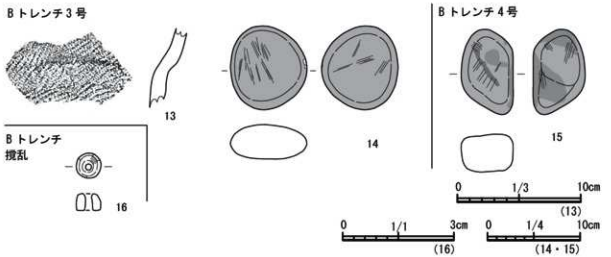



**図 4-98　沢根 83-9 地点 B トレンチ遺構内・遺構外出土遺物**

A トレンチ 12 号（フラスコ状土坑）の底面付近からは磨石 2 点が出土した。8 は全面に摩耗痕が及び、表裏面の平坦部を中心とした範囲に一定方向の擦痕が観察された。9 も全面に摩耗痕が及ぶが擦痕は認められない。

A トレンチ 13 号（フラスコ状土坑）の中層からは円筒下層 d1 式の口縁部破片が出土した（10）。

B トレンチ 3 号は未調査だが、遺構検出面から中期の円筒上層式土器片（13）と磨石（14）が出土した。磨石は全面に摩耗痕が及び、表裏面の平坦部を中心とした範囲に擦痕が認められた。

B トレンチ 4 号も未調査だが、遺構検出面から磨石（15）が出土した。磨石は全面に摩耗痕が及び、表裏面の平坦部に擦痕が観察された。

**表 4-11　沢根 83-9 地点 A・B トレンチ出土遺物観察表**

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-97-1 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ1号 | 3層 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d1式 | |
| 図4-97-2 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ6号 | 5層 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d1式 | |
| 図4-97-3 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ6号 | 9層 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d1式 | |
| 図4-97-4 | 石器 | スクレイパー | 上半欠 | Aトレンチ6号 | 8層 | 縄文前期 | 頁岩 | |
| 図4-97-5 | 石器 | 磨石 | 破片 | Aトレンチ6号 | 遺構上面 | 縄文前期 | 安山岩 | |
| 図4-97-6 | 石器 | 石皿 | 半欠 | Aトレンチ6号 | 8層 | 縄文前期 | 安山岩 | |
| 図4-97-7 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Aトレンチ11号 | 遺構上面 | 縄文晩期 | | |
| 図4-97-8 | 石器 | 磨石 | 完形 | Aトレンチ12号 | 18層 | 縄文 | 安山岩 | |
| 図4-97-9 | 石器 | 磨石 | 完形 | Aトレンチ12号 | 21層 | 縄文 | 石英斑岩 | |
| 図4-97-10 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ13号 | 5層 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d1式 | |
| 図4-97-11 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Aトレンチ13号 | 5層 | 縄文前期 | | |
| 図4-97-12 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ21号 | 1層 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d1式 | |
| 図4-98-13 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Bトレンチ3号 | 遺構上面 | 縄文中期 | | |
| 図4-98-14 | 石器 | 磨石 | 完形 | Bトレンチ3号 | 遺構上面 | 縄文 | 花崗岩 | |
| 図4-98-15 | 石器 | 磨石 | 完形 | Bトレンチ4号 | 遺構上面 | 縄文 | 安山岩 | |
| 図4-98-16 | 石製品 | 玉 | 完形 | Bトレンチ撹乱 | — | 縄文晩期 | ヒスイ | |

## 8. 沢根 83-8 地点の調査

### (1) 概要(図 4-90)

近江野沢低湿地に面した亀山丘陵北端部の休耕地で、平成 28 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。調査地点は史跡北西端部に隣接する。南北方向に長く調査区を設定し、調査面積は計 188 ㎡である。

### (2) 地形・層序(図 4-90・4-99)

調査地は、北に張り出す舌状丘陵地の標高 16～18mほどの北向き緩斜面上に位置する。北西側は低湿地に向かう急傾斜面となる。調査区南西側から南側にかけては急崖があり、かつて整地のために削平された箇所である。なお、この削平を受けて一段下がった平地に調査区（沢根 83-50 地点）を設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。

厚さ 10～20 ㎝ほどの表土下では、所により層厚 5 ～10 ㎝ほどの暗褐色土層（Ⅱ層）が確認され、以下漸移層（Ⅲ層）となる。付近の調査地点との層序対比から、Ⅱ層は縄文時代晩期の堆積層と判断された。調査区北側と南側では表土下が漸移層あるいは地山となっており、部分的に削平を受けた状況が認められた。遺構検出面は主にⅢ層上面である。

### (3) 遺構(巻頭写真2上、図 4-99～4-104、表 4-12)

縄文時代前期～晩期の遺構 60 基を検出した。主な遺構は縄文時代前期～中期の竪穴建物跡 2 軒、縄文時代前期～中期のフラスコ状土坑 14 基、縄文時代晩期の土坑墓 25 基であり、このほか主に縄文時代前期～中期と考えられる土坑 11 基、縄文時代晩期と考えられるピット 8 基が検出された。このうち 17 基を半裁あるいはトレンチ調査した。

#### 竪穴建物跡

1 号（図 4-100）は調査区南東部で検出した竪穴建物跡である。平成 28 年度調査では遺構西半部のみの検出であったが、平成 29 年度の東側隣接地点の調査で同一遺構の東端部を検出した。この結果、長径 570 ㎝、短径 540 ㎝ほどの規模で、平面形は不整円形を呈すると判断された。床面はテラス状の段を有し、遺構確認面からの深さは最大 64 ㎝ある。一段低い床面にはピット 6 基と土坑 1 基が確認された。ピットの中には主柱穴が含まれると推定されるが、一部のトレンチ調査のため柱穴配置の詳細は不明である。土坑 1 基についても部分的な検出にとどまり、建物跡の付属施設を想定しているが、別遺構の可能性もある。炉跡は未検出である。床面の一部には、固くしまった粘土質の貼床が確認された。床面付近からは円筒上層 d 式の土器片が複数出土した。また、最下層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定の結果（4,470±30yrBP、第 5 章第 1 節）からも、1 号の年代は縄文時代中期中葉と判断された。

覆土のうち、焼土・炭化物層である 6 層からは縄文時代晩期中葉の壺形土器が出土し、2 層上部に白頭山火山灰（B-Tm）が検出された。このことから、縄文時代中期の遺構廃絶以降、平安時代に至るまでの長期間に及ぶ埋積過程が理解される。なお、縄文時代晩期にはこの建物跡に重複して 2 基の土坑墓（3・6 号）が構築されている。

47 号（図 4-100）は調査区北西端部で検出された竪穴建物跡である。一部のみの検出であり規模は不明であるが、壁溝が認められる。調査区壁際には、建物跡に付属すると考えられるピットも検出された。遺物は出土していないが、晩期の土坑墓に掘り込まれており、縄文時代前期末葉～中期頃の年代と推定される。

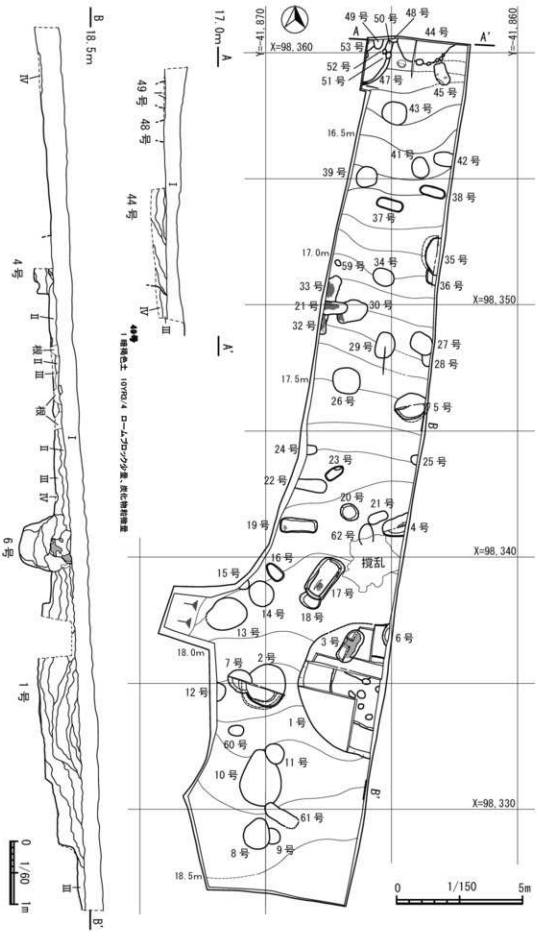
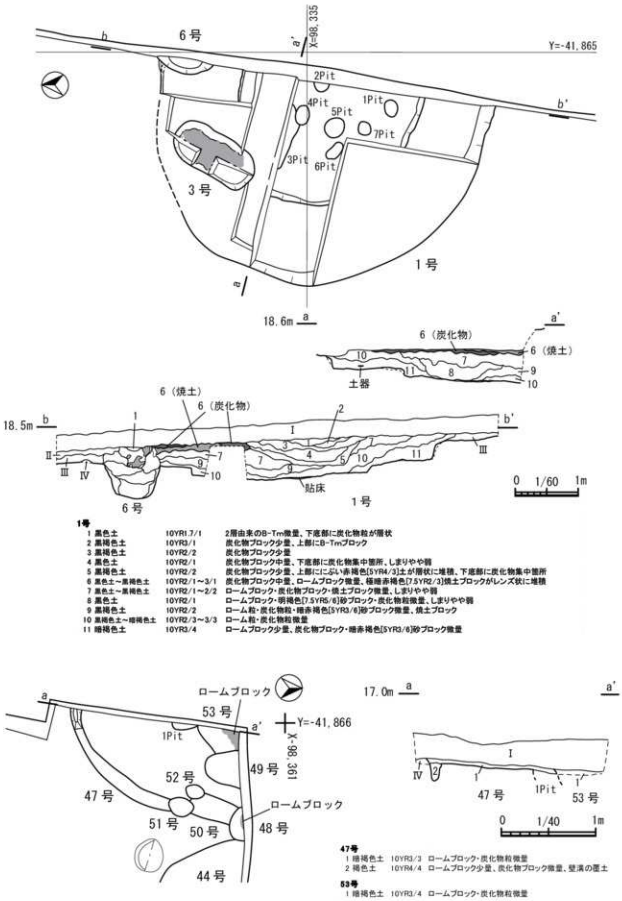



図 4-99　沢根 83-8 地点調査区平面・断面図




**1号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 黒色土 | 10YR1.7/1 | 2層由来のB-Tm微量、下底部に炭化物粒が層状 |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/1 | 炭化物ブロック少量、上部にB-Tmブロック |
| 3 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物ブロック少量 |
| 4 黒色土 | 10YR2/1 | 炭化物ブロック中量、下底部に炭化物集中箇所、しまりやや弱 |
| 5 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物ブロック少量、上部ににぶい赤褐色[5YR4/3]土が層状に堆積、下底部に炭化物集中箇所 |
| 6 黒色土～黒褐色土 | 10YR2/1～3/1 | 炭化物ブロック中量、ロームブロック微量、極暗赤褐色[7.5YR2/3]焼土ブロックがレンズ状に堆積 |
| 7 黒色土～黒褐色土 | 10YR2/1～2/2 | ロームブロック・炭化物ブロック・焼土ブロック微量、しまりやや弱 |
| 8 黒色土 | 10YR2/1 | ロームブロック・明褐色[7.5YR5/6]砂ブロック・炭化物粒微量、しまりやや弱 |
| 9 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒・炭化物粒・暗赤褐色[5YR3/6]砂ブロック微量、焼土ブロック |
| 10 黒褐色土～暗褐色土 | 10YR2/3～3/3 | ローム粒・炭化物粒微量 |
| 11 暗褐色土 | 10YR3/4 | ロームブロック少量、炭化物ブロック・暗赤褐色[5YR3/6]砂ブロック微量 |

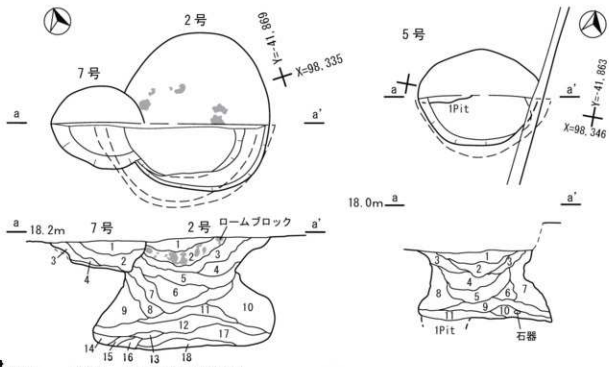
**47号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 暗褐色土 | 10YR3/3 | ロームブロック・炭化物粒微量 |
| 2 褐色土 | 10YR4/4 | ロームブロック少量、炭化物ブロック微量、壁溝の埋土 |

**53号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 暗褐色土 | 10YR3/4 | ロームブロック・炭化物粒微量 |

図 4-100　沢根 83-8 地点竪穴建物跡平面・断面図




**2号**

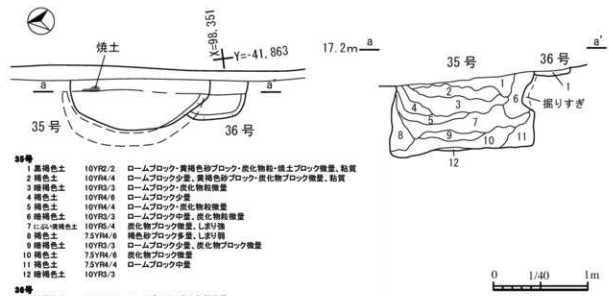
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ロームブロック少量、炭化物粒微量 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR2/3 褐色(10YR4/6)ロームブロック混入、炭化物粒微量 |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR2/2 ロームブロック・炭化物粒・明褐色砂ブロック微量、粘質 |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ロームブロック少量、炭化物粒微量 |
| 5 | 黒褐色土 | 10YR2/2 ローム粒・炭化物粒・明褐色砂ブロック微量、粘質 |
| 6 | 黒色土 | 10YR2/1 ローム粒・炭化物粒微量、粘質 |
| 7 | 黒褐色土～暗褐色土 | 10YR2/2～3/3 ローム粒少量、炭化物粒微量、粘質 |
| 8 | 暗色土～暗褐色土 | 10YR4/4～3/3 粘質、上部はローム粘土層 |
| 9 | 褐色土 | 10YR4/4 炭化物粒微量 |
| 10 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ロームブロック中量、炭化物粒微量 |
| 11 | 黒褐色土 | 10YR2/2 ロームブロック少量、粘質 |
| 12 | 黒褐色土～暗褐色土 | 10YR2/2～3/3 明褐色砂(7.5YR5/4)ブロック少量、炭化物粒微量、粘質 |
| 13 | 黄褐色土 | 10YR5/6 明褐色砂ブロック少量、炭化物粒微量 |
| 14 | 暗褐色土 | 10YR3/3 炭化物粒微量 |
| 15 | 黒色土 | 10YR2/1 粘質 |
| 16 | 暗褐色土 | 10YR3/3 明褐色砂ブロック混入 |
| 17 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ロームブロック・明褐色砂ブロック少量、炭化物粒微量 |
| 18 | 黒褐色土 | 10YR3/3 明褐色砂ブロック少量、炭化物粒微量 |

**5号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ロームブロック・炭化物粒微量 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ローム粒少量、炭化物粒微量、粘質 |
| 3 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物粒微量 |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR2/2 ロームブロック・炭化物粒微量、粘質 |
| 5 | 黒褐色土～暗褐色土 | 10YR2/3～3/3 ロームブロック少量、炭化物粒微量、粘質 |
| 6 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ロームブロック中量、炭化物粒微量 |
| 7 | 褐色土 | 10YR4/6 ロームブロック中量、炭化物粒微量 |
| 8 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ロームブロック少量、炭化物粒微量、しまり弱 |
| 9 | 黒褐色土 | 10YR2/2 ロームブロック少量、炭化物粒微量、粘質 |
| 10 | 暗褐色土 | 10YR3/4 ロームブロック中量、明褐色砂ブロック少量、しまり弱 |
| 11 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ロームブロック微量、しまり弱 |

**7号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ローム粒・炭化物粒微量 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR2/3 ロームブロック少量、炭化物粒微量 |
| 3 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ローム粒微量 |
| 4 | 暗褐色土 | 10YR3/4 |




**35号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR2/2 ロームブロック・黄褐色砂ブロック・炭化物粒・焼土ブロック微量、粘質 |
| 2 | 褐色土 | 10YR4/4 ロームブロック少量、黄褐色砂ブロック・炭化物ブロック微量、粘質 |
| 3 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ロームブロック・炭化物粒微量 |
| 4 | 褐色土 | 10YR4/6 ロームブロック少量 |
| 5 | 褐色土 | 10YR4/4 ロームブロック・炭化物粒微量 |
| 6 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ロームブロック中量、炭化物粒微量 |
| 7 | に品い黄褐色土 | 10YR5/4 炭化物ブロック微量、しまり強 |
| 8 | 褐色土 | 7.5YR4/6 褐色砂ブロック多量、しまり弱 |
| 9 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ロームブロック少量、炭化物ブロック微量 |
| 10 | 褐色土 | 7.5YR4/6 炭化物ブロック微量 |
| 11 | 褐色土 | 7.5YR4/4 ロームブロック中量 |
| 12 | 暗褐色土 | 10YR3/3 |

**36号**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色土 | 10YR3/3 ロームブロック・炭化物粒微量 |

0 1/40 1m

図 4-101 沢根 83-8 地点フラスコ状土坑平面・断面図

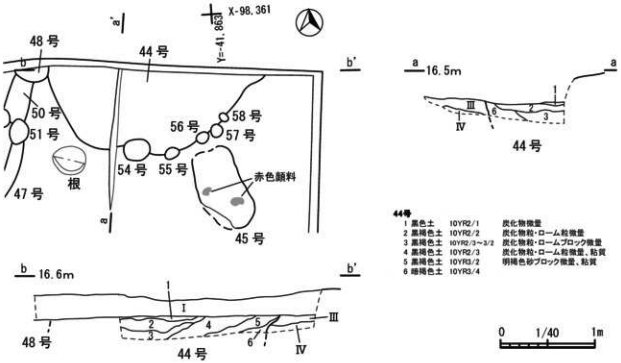



**図 4-102　沢根 83-8 地点フラスコ状土坑平面・断面図**

**フラスコ状土坑**

フラスコ状土坑のほとんどは平面形が楕円形あるいは円形を呈する。開口部の長軸長 89～230 ㎝、短軸長 74～164 ㎝、深さ 74～116 ㎝であり、規模にばらつきが認められる。遺構確認面あるいは覆土上部に焼土ブロック層やロームブロック層が検出されることから、これらは遺構廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。いずれの遺構からも遺物の出土は少なく、覆土下部は粘質土壌でしまりが弱い傾向にある。

2 号（図 4-101）は調査区南側で検出された。開口部の長径 167 ㎝、短径 154 ㎝、底部径 192 ㎝、深さ 116 ㎝の規模で、開口部平面形は不整円形を呈する。上位にロームブロックが多量に含まれる層（2 層）がある。出土遺物は石鏃と磨石のみであり、底面出土炭化物の放射性炭素年代測定結果（4,650 ±30yrBP、第 5 章第 1 節）から縄文時代前期末葉頃の年代が想定される。7 号と重複し、7 号より旧い。

5 号（図 4-101）は調査区中央部で検出された。開口部の長径 128 ㎝、短径 102 ㎝、底部径 146 ㎝、深さ 74 ㎝の規模で、開口部平面形は楕円形を呈する。底面西側に掘り込みを確認しており付属ピットと推定されるが、一部の検出にとどまり詳細不明である。下層から縄文時代前期の土器片が出土しており、遺構も同年代と考えられる。

35 号（図 4-101）は調査区北部で遺構西半が検出された。開口部径 148 ㎝、底部径 152 ㎝、深さ 78 ㎝の規模である。上層から縄文時代前期～中期頃の土器片が出土している。また、遺構確認面で焼土の広がりが確認された。36 号と重複し、36 号より新しい。

44 号（図 4-102）は調査区北端部で遺構南半が検出された。長径 230 ㎝である。遺構上部のみの検出だが、平面規模やボーリング調査からフラスコ状土坑と判断された。48・54～58 号と重複し、いずれの遺構よりも旧い。

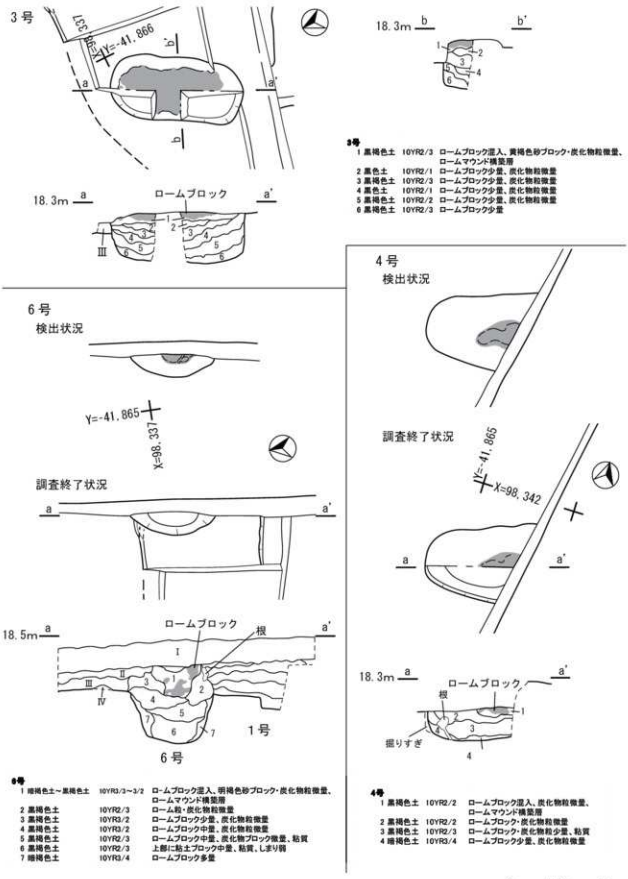



図 4-103　沢根 83-8 地点土坑墓平面・断面図

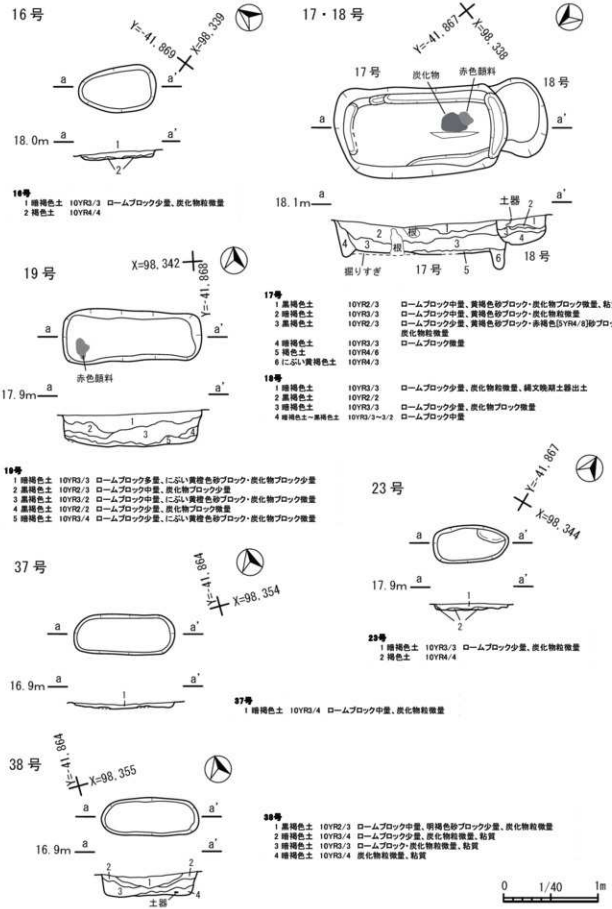



図 4-104　沢根 83-8 地点土坑墓平面・断面図

表 4-12　沢根 83-8 地点検出遺構一覧表

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 軸方向 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-100 | 1号 | 竪穴建物跡 | 不整円形 | 570 | 535 | 64 | — | 縄文中期中葉 | テラス状の段を有する。3・6号より旧 |
| 図4-101 | 2号 | フラスコ状土坑 | 不整円形 | 167(開口部)<br>192(底部) | 154(開口部)<br>－(底部) | 116 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 7号より旧 |
| 図4-103 | 3号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 140 | 69 | 56 | N-33° －E | 縄文晩期前葉～中葉 | ロームマウンド、1号より新 |
| 図4-103 | 4号 | 土坑墓 | 長楕円形 | (118) | 82 | 34 | N-73° －E | 縄文晩期前葉～中葉 | ロームマウンド |
| 図4-101 | 5号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 128(開口部)<br>146(底部) | 102(開口部)<br>－(底部) | 74 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-103 | 6号 | 土坑墓 | — | (23) | 72 | 82 | — | 縄文晩期前葉～中葉 | ロームマウンド、1号より新 |
| 図4-101 | 7号 | 土坑 | 楕円形 | 100 | 88 | 34 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 2号より新 |
| 図4-99 | 8号 | フラスコ状土坑 | 不整楕円形 | 124 | 105 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 9号より新 |
| 図4-99 | 9号 | 土坑 | 楕円形 | (64) | 60 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 8号より旧 |
| 図4-99 | 10号 | フラスコ状土坑 | 不整楕円形 | 224 | 164 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 2基の遺構の重複か、11・61号より旧 |
| 図4-99 | 11号 | 土坑 | 楕円形 | 82 | 71 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 10号より新 |
| 図4-99 | 12号 | 土坑 | — | 77 | (35) | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 13号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 162 | 124 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 14号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 103 | 93 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 15号 | 土坑墓？ | — | (26) | 48 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-104 | 16号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 80 | 47 | 8 | N-45° －W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-104 | 17号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 182 | 98 | 32 | N-37° －E | 縄文晩期前葉～中葉 | 壁溝、底面に赤色顔料・炭化物、18号より旧 |
| 図4-104 | 18号 | 土坑墓 | 楕円形 | 84 | 52 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | 17号より新 |
| 図4-104 | 19号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 147 | 59 | 36 | N-87° －W | 縄文晩期前葉～中葉 | 底面に赤色顔料 |
| 図4-99 | 20号 | 土坑 | 楕円形 | 76 | 63 | 18 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 21号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 82 | 40 | — | N-69° －E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-99 | 22号 | 土坑墓 | 長楕円形 | (126) | 52 | — | N-82° －W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-104 | 23号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 80 | 40 | 7 | N-56° －E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-99 | 24号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (40) | 38 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-99 | 25号 | 土坑墓？ | 長楕円形？ | (28) | 40 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-99 | 26号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 115 | 105 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 27号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 99 | 78 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 28号より新 |
| 図4-99 | 28号 | 土坑 | — | (50) | (33) | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 27号より旧 |
| 図4-99 | 29号 | フラスコ状土坑？ | 不整楕円形 | 106 | 74 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 30号 | フラスコ状土坑？ | 不整楕円形 | 125 | 86 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 31号より旧 |
| 図4-99 | 31号 | 土坑墓 | 長楕円形 | (97) | 54 | — | N-88° －E | 縄文晩期前葉～中葉 | 30・32・33号より新 |
| 図4-99 | 32号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (84) | (22) | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | ロームマウンド、31号より旧 |
| 図4-99 | 33号 | 土坑墓？ | 長楕円形？ | (110) | (50) | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | 31号より旧 |
| 図4-99 | 34号 | 土坑 | 楕円形 | 87 | 66 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-101 | 35号 | フラスコ状土坑 | 楕円形？ | 148(開口部)<br>152(底部) | (54)(開口部)<br>－(底部) | 78 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 36号より新 |
| 図4-101 | 36号 | 土坑 | — | (70) | (42) | 6 | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 35号より旧 |
| 図4-104 | 37号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 106 | 43 | 6 | N-74° －W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-104 | 38号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 103 | 41 | 24 | N-75° －W | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-99 | 39号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 89 | 82 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 40号(欠番) | — | — | — | — | — | — | — | |
| 図4-99 | 41号 | 土坑 | 楕円形 | 84 | 65 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 42号 | 土坑墓 | 長楕円形？ | (72) | 56 | — | N-81° －E | 縄文晩期前葉～中葉 | |
| 図4-99 | 43号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 99 | 90 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-102 | 44号 | フラスコ状土坑 | 楕円形？ | 230 | (86) | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | 48・54～58号より旧 |
| 図4-102 | 45号 | 土坑墓 | 不整長楕円形 | 90 | 52 | — | N-20° －W | 縄文晩期前葉～中葉 | 赤色顔料 |
| 図4-99 | 46号(欠番) | — | — | — | — | — | — | — | |
| 図4-100 | 47号 | 竪穴建物跡 | — | (184) | (98) | — | — | 縄文前期末葉～中期 | 壁周溝、48～53号より旧 |
| 図4-99 | 48号 | 土坑墓？ | — | (16) | 36 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | ロームマウンド？、44・50号より新 |
| 図4-99 | 49号 | 土坑墓？ | 長楕円形？ | (40) | 40 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | 47・53号より新 |
| 図4-99 | 50号 | 土坑 | 長楕円形？ | (51) | 26 | — | — | 縄文晩期？ | 49・51・52号より旧 |
| 図4-99 | 51号 | ピット | 楕円形 | 26 | 20 | — | — | 縄文晩期？ | 47・50号より新 |
| 図4-99 | 52号 | ピット | 楕円形 | 20 | 14 | — | — | 縄文晩期？ | 47・50号より新 |
| 図4-99 | 53号 | 土坑墓？ | — | (48) | (28) | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | ロームマウンド？ |
| 図4-99 | 54号 | ピット | 楕円形 | 28 | 23 | — | — | 縄文晩期？ | 44号より新 |
| 図4-99 | 55号 | ピット | 楕円形 | 16 | 11 | — | — | 縄文晩期？ | 44号より新 |
| 図4-99 | 56号 | ピット | 楕円形 | 14 | 12 | — | — | 縄文晩期？ | 44号より新 |
| 図4-99 | 57号 | ピット | 楕円形 | 14 | 13 | — | — | 縄文晩期？ | 44号より新 |
| 図4-99 | 58号 | ピット | 楕円形 | 10 | 8 | — | — | 縄文晩期？ | 44号より新 |
| 図4-99 | 59号 | ピット | 楕円形 | 26 | 20 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 60号 | 土坑 | 楕円形 | 60 | 41 | — | — | 縄文前期末葉～中期初頭 | |
| 図4-99 | 61号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 146 | 55 | — | N-57° －W | 縄文晩期前葉～中葉 | 10号より新 |
| 図4-99 | 62号 | 土坑墓？ | — | (58) | 57 | — | — | 縄文晩期前葉～中葉 | |

**土坑墓**

土坑墓のほとんどは平面形が長楕円形を呈する。長軸長 80～182 ㎝、短軸長 36～98 ㎝であり規模のばらつきが大きい。長軸長：短軸長の比率が 2：1 を前後するものがほとんどである。長軸方向は東西を軸とするものが目立つが、南北あるいはその他の方角を軸とするものも若干数ある。土坑墓上部の特徴として、3・4・6・32 号の上面にはローム マウンドが確認された。底面はほぼ平坦であり、17 号で底部に壁溝が検出された。赤色顔料の分布は 17・19 号の底面で 1 か所、45 号で 2 か所認められた。いずれの遺構も出土遺物が少なく、19 号の壺形土器を除いて明確な副葬品は出土していない。

3 号（巻頭写真 2 下、図 4-103）は調査区南部に位置し、1 号（竪穴建物跡）を掘り込む土坑墓である。長軸長 140 ㎝、短軸長 69 ㎝、深さ 56 ㎝で平面形は長楕円形を呈する。上面にはローム マウンドが構築される。縄文時代中期頃の土器片が 1 点出土した。

4 号（図 4-103）は調査区中央部の東壁際に位置し、遺構西半が検出された。長軸長 118 ㎝以上、短軸長 82 ㎝、深さ 34 ㎝で平面形は長楕円形を呈する。上面にはローム マウンドが構築される。頁岩製の二次加工ある剥片が 1 点出土した。

6 号（図 4-103）は調査区南部の東壁際に位置し、遺構西端部が検出された。1 号（竪穴建物跡）を掘り込む。上面にはローム マウンドが構築される。土坑墓は Ⅲ 層を掘り込み、後に Ⅱ 層に埋積された状況が土層断面から観察される。縄文時代前期～中期の土器片が出土した。

17 号（図 4-104）は調査区中央部に位置し、長軸長 182 ㎝、短軸長 98 ㎝、深さ 32 ㎝の長楕円形を呈する土坑墓である。18 号と重複し、18 号より旧い。底部に壁溝が検出された。壁溝の深さは部分により異なり、最深部で 20 ㎝程度である。底面南西部で赤色顔料と炭化物の分布が確認された。

18 号は調査区中央部で検出された。17 号と重複し、17 号より新しい。長径 80 ㎝ほどの楕円形を呈し、覆土上部から 1 個体の深鉢が潰れた状態で出土した。副葬品あるいは埋設土器の可能性も考えられる。

19 号（図 4-104）は調査区中央部に位置し、長軸長 147 ㎝、短軸長 59 ㎝、深さ 36 ㎝の長楕円形を呈する土坑墓である。底面西部で赤色顔料の分布が確認され、底面東部では壺の上半部が出土した。

16・23・37・38 号（図 4-104）は平面形が長楕円形を呈する土坑墓であり、長軸長 80～106 ㎝、短軸長 40～47 ㎝と比較的小規模な一群である。副葬品や赤色顔料は検出されない。

**(4) 遺物(図 4-105～4-108、表 4-13)**

**遺構出土遺物**

縄文時代前期～中期および晩期の土器・石器が出土した。

1 号（竪穴建物跡）では、覆土下層および最下層から円筒上層 d 式の深鉢口縁・胴部破片が出土した（5・6）。上部に堆積している焼土・炭化物層（6 層）からは、大洞 C 1 式期の壺の口縁・頸部破片と胴部破片が 1 か所から出土した（1）。胴部上半を欠失するが、同一個体と判断された。頸部と胴部の境に 3 条の微隆帯がめぐり、隆帯上に突起が貼付されていたと考えられる。外面の広範囲および内面の口縁から頸部にかけて赤色顔料の塗布が認められた。そのほか、覆土上層から中層にかけて、前期～中期頃の深鉢胴部破片が出土した（2～4）。

石器は、下層の 9～11 層から石鏃・石匙・二次加工ある剥片等の剥片石器や石核、半円状扁平打製石器・磨石・敲石・砥石・石皿等の礫石器が出土した。7 の石鏃は茎部の両面に黒色付着物が認められる。11 の砥石は表裏とも広範に破損しているが、並行する細い溝状の痕跡が一端に認められる。13 の半円状扁平打製石器は底面に摩耗痕が認められる。14 の磨・敲石は一端に敲打痕が集中し、平坦面には摩耗痕が認められる。こうした使用痕とともに若干の赤変や微量の炭化物付着が確認された。15 の石皿は、表裏面の摩耗痕とともに若干の赤変が広範囲に認められた。

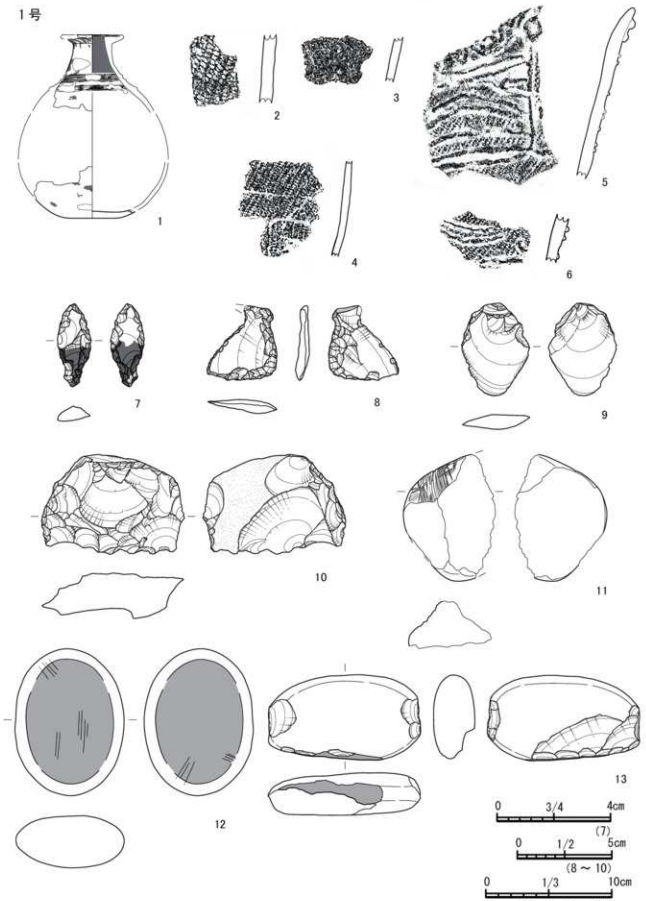



図 4-105　沢根 83-8 地点遺構出土遺物

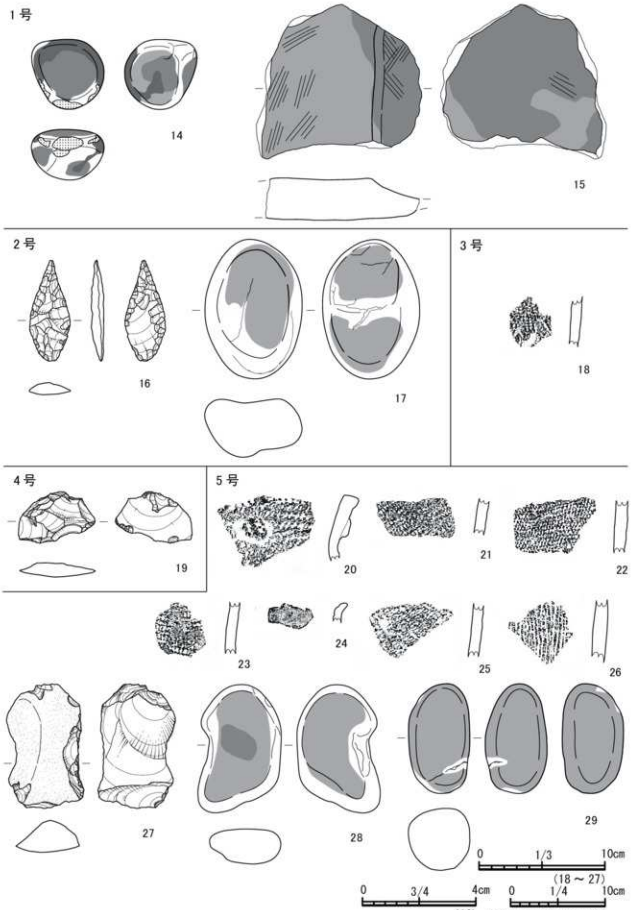



図 4-106　沢根 83-8 地点遺構出土遺物

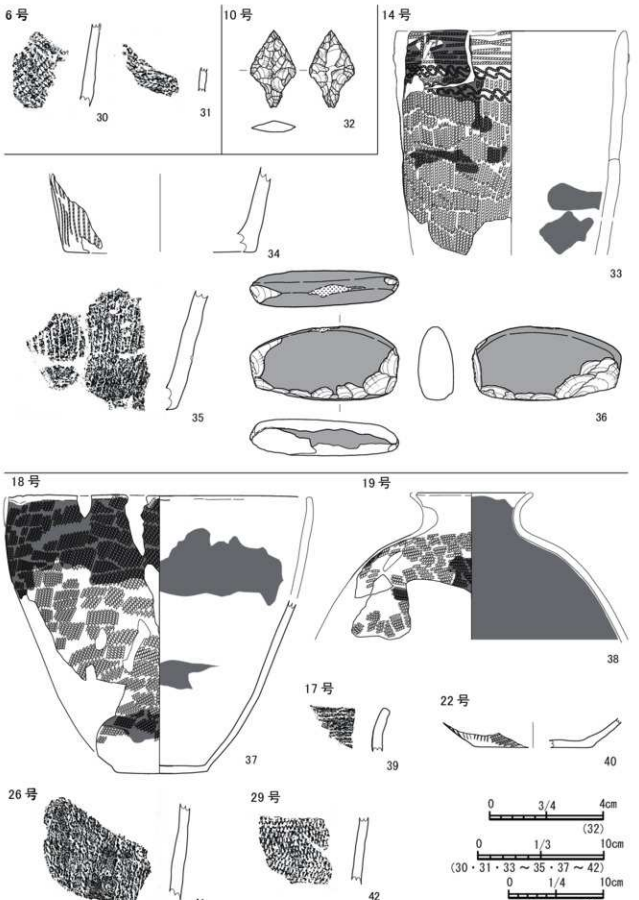



図 4-107　沢根 83-8 地点遺構出土遺物

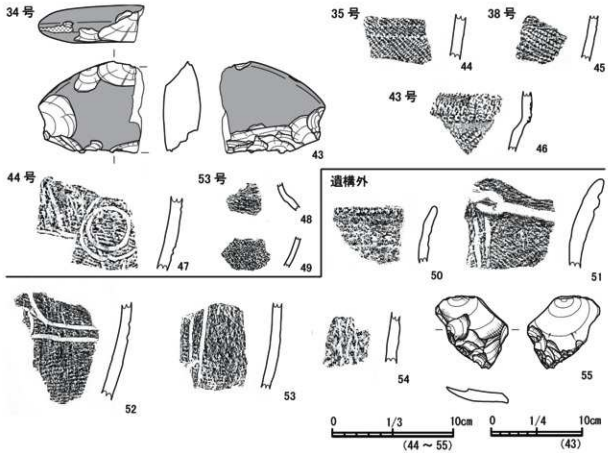



**図 4-108　沢根 83-8 地点遺構内・遺構外出土遺物**

2号（フラスコ状土坑）では、1層から石鏃（16）、覆土中位の 11 層から表裏面に摩耗痕のある磨石（17）が出土した。

3号（土坑墓）では、覆土中位の3層から中期頃の深鉢胴部破片（18）が出土した。

4号（土坑墓）では、覆土上位の2層から二次加工ある剥片（19）が出土した。

5号（フラスコ状土坑）では、1層から前期および中期の土器片（20～23）が出土するほか、8層や最下層の 11 層から前期の深鉢胴部破片（25・26）が出土した。石器では、スクレイパー（27）が覆土下部から、表裏面に摩耗痕のある磨石（28・29）が覆土中部や最下層から出土した。

6号（土坑墓）では、覆土上・中部から前期～中期の深鉢胴部破片が出土した（30・31）。

14 号（フラスコ状土坑）は未調査ながら、遺構確認面で円筒下層 d1 式の深鉢口縁～胴部破片（33）や、表裏面および底面の広範囲に摩耗痕が及ぶ半円状扁平打製石器（36）が出土した。

17 号（土坑墓）では、晩期の土器胴部破片が出土するとともに、前期末葉～中期初頭頃の深鉢口縁部破片（39）が出土した。

18 号（土坑墓）から出土した1個体分の深鉢形土器（37）は口縁部にかけてゆるやかに内湾し、口縁から胴部下半にかけて斜行縄文が施される。年代は、晩期前葉～中葉頃と考えられる。

19 号（土坑墓）では、覆土中～下部の3層から、晩期前葉～中葉頃と考えられる壺が1個体出土した（38）。下半部を欠損するが、内面の広範囲に赤色顔料の付着が認められる。

**遺構外出土遺物**

遺構外から出土した遺物は僅少であるが、調査区北部の表土中から榎林式の口縁部および胴部破片

が複数出土した（51～53）。Ⅲ層中からは前期末葉～中期初頭頃の胴部破片が出土した（54）。なお、Ⅱ層の出土遺物もごくわずかであり堆積年代の判定は困難だが、本調査区の南側に設定した沢根83-51地点では、このⅡ層に対応する遺物包含層から大洞C2式期を主体とする晩期中葉の土器が一定量出土している。

**表4-13　沢根83-8地点出土遺物観察表**

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-105-1 | 土器 | 壺 | 口縁～底部 | 1号 | 6層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C1式 | 外面に赤色顔料塗布 |
| 図4-105-2 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 1号 | 3層 | 縄文前期 | | |
| 図4-105-3 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 1号 | 5層 | 縄文中期？ | | |
| 図4-105-4 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 1号 | 7層 | 縄文中期？ | | |
| 図4-105-5 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 1号 | 9層 | 縄文中期中葉 | 円筒上層d式 | |
| 図4-105-6 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 1号 | 10層 | 縄文中期中葉 | 円筒上層d式 | |
| 図4-105-7 | 石器 | 石鏃 | 完形 | 1号 | 11層 | 縄文中期 | 珪質頁岩 | 基部側に黒色付着物 |
| 図4-105-8 | 石器 | 石匙 | 完形 | 1号 | 10層 | 縄文中期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-105-9 | 石器 | スクレイパー | － | 1号 | 11層 | 縄文中期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-105-10 | 石器 | 石核 | － | 1号 | 10層 | 縄文中期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-105-11 | 石器 | 磨石 | 一部破損 | 1号 | 3層 | 縄文 | 安山岩 | 被熱？ |
| 図4-105-12 | 石器 | 磨石 | 完形 | 1号 | 9層 | 縄文中期 | 花崗岩 | |
| 図4-105-13 | 石器 | 半円状扁平打製石器 | 完形 | 1号 | 10層 | 縄文中期 | 花崗岩 | |
| 図4-106-14 | 石器 | 磨石、敲石 | 完形 | 1号 | 11層 | 縄文中期 | 石英斑岩 | 被熱 |
| 図4-106-15 | 石器 | 石皿 | 一部欠損 | 1号 | 11層 | 縄文中期 | 安山岩 | |
| 図4-106-16 | 石器 | 石鏃 | 完形 | 2号 | 1層 | 縄文 | 珪質頁岩 | |
| 図4-106-17 | 石器 | 磨石 | 完形 | 2号 | 12層 | 縄文前期～中期 | 石英斑岩 | |
| 図4-106-18 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 3号 | 3層 | 縄文中期？ | | |
| 図4-106-19 | 石器 | 二次加工ある剥片 | － | 4号 | 2層 | 縄文 | 珪質頁岩 | |
| 図4-106-20 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 5号 | 1層 | 縄文中期初頭 | 円筒上層a式 | 72と同一個体か？ |
| 図4-106-21 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 5号 | 1層 | 縄文中期 | | 71と同一個体か？ |
| 図4-106-22 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 5号 | 1層 | 縄文前期 | | |
| 図4-106-23 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 5号 | 1層 | 縄文前期 | | |
| 図4-106-24 | 土器 | 壺 | 口縁部 | 5号 | 1～2層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-106-25 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 5号 | 8層 | 縄文前期 | | |
| 図4-106-26 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 5号 | 11層 | 縄文前期 | | |
| 図4-106-27 | 石器 | スクレイパー | | 5号 | 9層 | 縄文 | 珪質頁岩 | |
| 図4-106-28 | 石器 | 磨石 | 完形 | 5号 | 5層 | 縄文 | 安山岩 | |
| 図4-106-29 | 石器 | 磨石 | 完形 | 5号 | 10層 | 縄文 | 安山岩 | |
| 図4-107-30 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 6号 | 2～5層 | 縄文前期～中期 | | |
| 図4-107-31 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 6号 | 5層 | 縄文前期～中期 | | |
| 図4-107-32 | 石器 | 石鏃 | 完形 | 10号 | 上面 | 縄文 | 珪質頁岩 | 茎部に黒色付着物 |
| 図4-107-33 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 14号 | 上面 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d1式 | |
| 図4-107-34 | 土器 | 深鉢 | 胴部～底部 | 14号 | 上面 | 縄文前期 | | 76と同一個体か |
| 図4-107-35 | 土器 | 深鉢 | 胴部～底部 | 14号 | 上面 | 縄文前期 | | 75と同一個体か |
| 図4-107-36 | 石器 | 半円状扁平打製石器 | 完形 | 14号 | 上面 | 縄文前期 | 安山岩 | |
| 図4-107-37 | 土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | 18号 | 1層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | |
| 図4-107-38 | 土器 | 壺 | 口縁～胴部 | 19号 | 3層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | 内面に赤色顔料付着 |
| 図4-107-39 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 17号 | 2層 | 縄文前期末葉～中期初頭 | | |
| 図4-107-40 | 土器 | 深鉢？ | 胴部～底部 | 22号 | 上面 | 縄文晩期 | | |
| 図4-107-41 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 26号 | 上面 | 縄文前期 | | |
| 図4-107-42 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 29号 | 上面 | 縄文前期～中期 | | |
| 図4-108-43 | 石器 | 半円状扁平打製石器 | 半欠 | 34号 | 上面 | 縄文前期 | 安山岩 | 未成品？ |
| 図4-108-44 | 土器 | 深鉢 | | 35号 | 1層 | 縄文中期？ | | |
| 図4-108-45 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 38号 | 4層 | 縄文中期？ | | |
| 図4-108-46 | 土器 | 深鉢 | | 43号 | 上面 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d2式 | |
| 図4-108-47 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 44号 | 3層 | 縄文中期後葉 | 榎林式 | |
| 図4-108-48 | 土器 | 壺 | 頸部～胴部 | 53号 | 1層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-108-49 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 53号 | 1層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-108-50 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | － | Ⅰ層 | 縄文前期末葉 | 円筒下層d1式 | |
| 図4-108-51 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | － | Ⅰ層 | 縄文中期後葉 | 榎林式 | |
| 図4-108-52 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | － | Ⅰ層 | 縄文中期後葉 | 榎林式 | |
| 図4-108-53 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | － | Ⅰ層 | 縄文中期後葉 | 榎林式 | |
| 図4-108-54 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文前期末葉～中期初頭 | 円筒下層d2～円筒上層a式 | |
| 図4-108-55 | 石器 | スクレイパー | － | － | Ⅰ層 | 縄文 | 珪質頁岩 | |

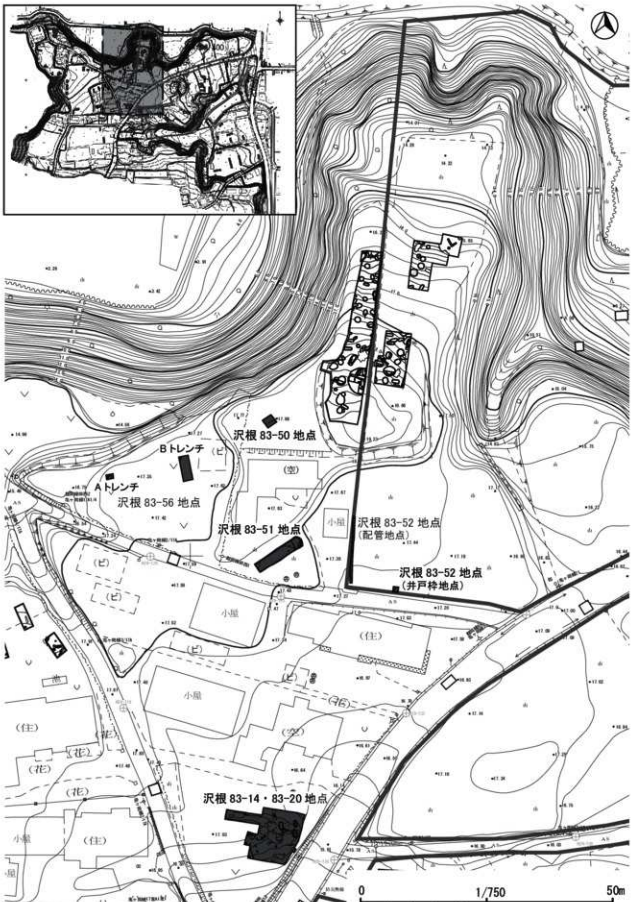



図 4-109　沢根 83-50、83-51、83-52、83-56、83-14・83-20 地点調査区位置図

## 9. 沢根 83-52 地点の調査

### (1)概要(図 4-109)

史跡範囲の西側境界地点において、居住者の生活用水確保のため、井戸掘削と井戸枠の設置および井戸から住宅までの配管工事が計画されたため、つがる市教育委員会による事前確認調査が平成 25 年度に実施された。調査面積は計 9 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-110)

調査地は、北に張り出す舌状丘陵地の付け根付近に位置する。調査の結果、配管地点は南向きの緩斜面上に位置し、縄文時代晩期には遺物包含層が形成されたことが確認された。

### (3)遺構

配管地点と井戸枠地点いずれからも遺構は検出されなかった。

### (4)遺物(図 4-111、表 4-14)

縄文時代晩期前葉の土器片等がⅠ～Ⅲ層中より出土した。1は口端部に刻みを有する鉢で、口縁部に羊歯状文が施文される。2・3も鉢で、口端部に刻みを有し、口縁部に平行沈線と刺突列がめぐる。いずれも大洞 BC 式期の遺物である。

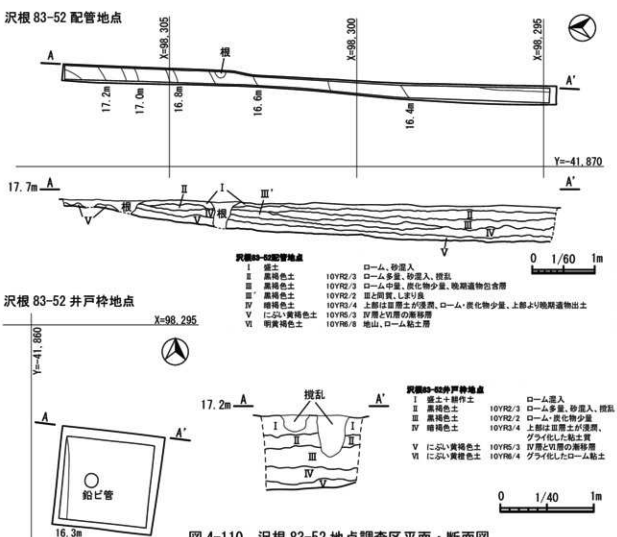



図 4-110 沢根 83-52 地点調査区平面・断面図

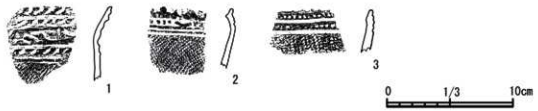



図 4-111　沢根 83-52 地点出土遺物

表 4-14　沢根 83-52 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-111-1 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | 配管地点 | Ⅰ～Ⅱ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | 外面炭化物付着 |
| 図4-111-2 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 配管地点 | Ⅰ～Ⅱ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | 内外面炭化物付着 |
| 図4-111-3 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 配管地点 | Ⅰ～Ⅱ層 | 縄文晩期前葉 | 大洞BC式 | 内外面炭化物付着 |

## 10. 沢根 83-51 地点の調査

### (1)概要(図 4-109)

史跡範囲の西隣の休耕地で、平成 28 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。北西側の亀山丘陵縁辺に沿って細長く調査区を設定し、調査面積は計 23 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-109・4-112)

調査地は、北に張り出す舌状丘陵地の付け根付近に位置する。調査の結果、Ⅳ層で縄文時代晩期中葉の土器集中地点が検出され、東側の沢根 83-52 地点にまで広がる縄文時代晩期前葉～中葉頃の遺物包含層の形成が確認された。

### (3)遺構

この調査区で遺構は確認されなかった。

### (4)遺物(図 4-113・4-114、表 4-15)

Ⅲ～Ⅳ層から晩期中葉、大洞 C2 式期の遺物が出土した。3・7・8・13・14 は平行沈線と C 字文や三叉文が施文された鉢・浅鉢である。12 は鉢等の口頸部あるいは胴部に貼付される A 突起である。鉢・浅鉢・深鉢のほかにも壺が一定量出土し、11 は口頸部、15 は平行沈線が施された肩部、16・17 は斜行縄文が施された肩部の破片資料である。この他、深鉢等の胴下半部に施された縦走縄文が目立つ（5・9・18）。6・19 は磨・敲石である。6 は偏平礫の側縁部や端部に敲打痕と敲打時の衝撃により生じた剥離痕が集中し、表裏面に摩耗痕が広がる。一部に黒色付着物が認められる。19 は平坦面と側面の一定範囲に敲打痕が集中し、その他広範囲に摩耗痕と擦痕が広がる。20 は台石である。正面中央部に凹孔が形成され、その周囲に磨耗痕が広がる。一部に赤変が認められる。

Ⅴ層からは縄文時代後期の土器が出土した。21 は波状口縁を有する鉢で、口縁直下に 2 条の平行沈線が施される。

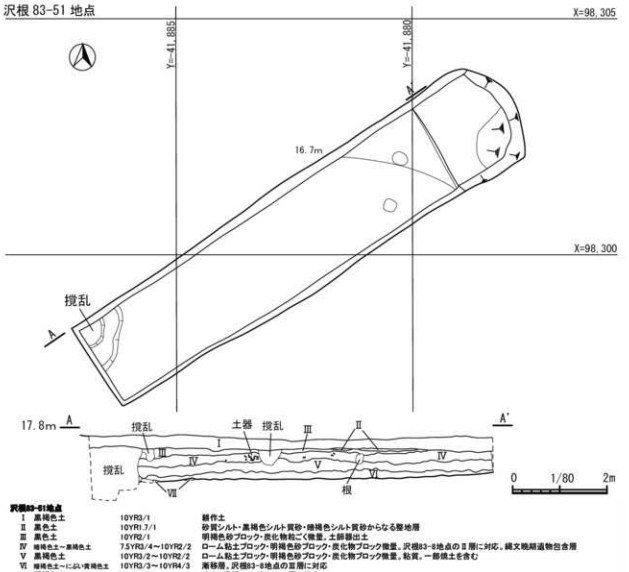



図 4-112　沢根 83-51 調査区地点平面・断面図

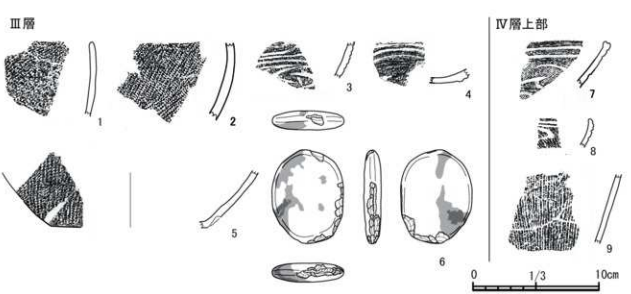



図 4-113　沢根 83-51 地点出土遺物（１）

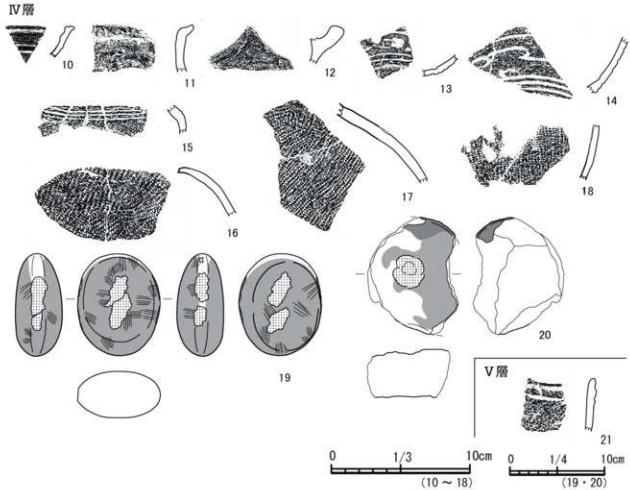



図 4-114　沢根 83-51 地点出土遺物（２）

表 4-15　沢根 83-51 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-113-1 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | |
| 図4-113-2 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期前葉～中葉 | | |
| 図4-113-3 | 土器 | 鉢 | 胴部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | 内面に炭化物か漆付着 |
| 図4-113-4 | 土器 | 皿 | 胴部～底部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | | 内外面に赤漆付着 |
| 図4-113-5 | 土器 | 深鉢 | 胴部～底部 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | |
| 図4-113-6 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | － | Ⅲ層 | 縄文晩期 | 安山岩 | |
| 図4-113-7 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | － | Ⅳ層上部 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | |
| 図4-113-8 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | － | Ⅳ層上部 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | |
| 図4-113-9 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | － | Ⅳ層上部 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | 補修孔に黒色物質付着 |
| 図4-114-10 | 土器 | 浅鉢 | 口縁部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-114-11 | 土器 | 壺 | 口縁～頸部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-114-12 | 土器 | 深鉢 | 口縁部突起 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-114-13 | 土器 | 浅鉢 | 胴部～底部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | |
| 図4-114-14 | 土器 | 鉢 | 口縁～胴部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | 内外面に赤色漆付着、黒漆・赤漆重ね塗り |
| 図4-114-15 | 土器 | 壺 | 頸部～胴部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 大洞C2式 | |
| 図4-114-16 | 土器 | 壺 | 肩部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-114-17 | 土器 | 壺 | 肩部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-114-18 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-114-19 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 安山岩 | |
| 図4-114-20 | 石器 | 台石 | 破片 | － | Ⅳ層 | 縄文晩期中葉 | 安山岩 | |
| 図4-114-21 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | － | Ⅴ層 | 縄文後期 | | |

## 11. 沢根 83-50 地点、沢根 83-56 地点の調査

### (1)概要(図 4-109)

史跡範囲西隣の亀山丘陵上の休耕地において、丘陵の北側縁辺部につがる市教育委員会が 3 か所の調査区を設定して内容確認調査を実施した。沢根 83-56 地点 A・B トレンチは平成 26 年度に計 17 ㎡、沢根 83-50 地点は平成 28 年度に 4 ㎡を調査した。

### (2)地形・層序(図 4-115・4-116)

調査地は、北に張り出す舌状丘陵地の付け根付近の丘陵縁辺部に位置する。調査の結果、最も西側の沢根 83-56 地点 A トレンチで表土下に暗褐色土層と漸移層が確認されたが、他の 2 地点では表土下に上部の削平された砂質ローム層が確認された。

### (3)遺構

これらの調査区で遺構は確認されなかった。

### (4)遺物(図 4-115・4-116、表 4-16・4-17)

沢根 83-50 地点 I 層から磨製石斧の刃部破片が出土した。沢根 83-56 地点 B トレンチの根痕から磨・敲石が出土した。全面に摩耗痕がおよび、平坦面中央部に敲打痕とそれに伴う擦痕、端部や側縁部に敲打痕が認められる。

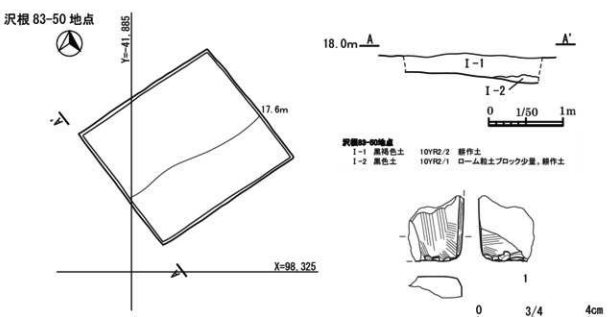



図 4-115　沢根 83-50 地点調査区平面・断面図および出土遺物

表 4-16　沢根 83-50 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-115-1 | 石器 | 磨製石斧 | 刃部 | - | I 層 | 縄文 | 黒色片岩 | |

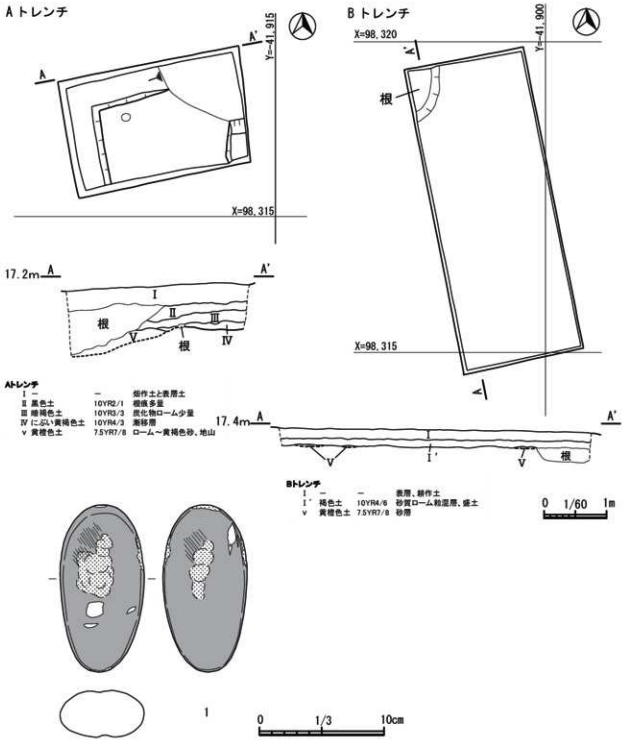



図 4-116　沢根 83-56 地点調査区平面・断面図および B トレンチ出土遺物

表 4-17　沢根 83-56 地点 B トレンチ出土遺物遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-116-1 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | — | 北西隅根痕 | 縄文 | 安山岩 | |

## 12. 沢根 83-14・83-20 地点の調査

### (1) 概要(図 4-109)

史跡範囲の西隣地域の丘陵上において、平成 20 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施し、縄文時代晩期の土坑墓計3基を検出したことから（つがる市教育委員会 2010）、平成 28 年度には墓域の把握を目的として北側・南側隣接地に新たに調査区を設定した。2か年の調査面積は計 78 ㎡である。

### (2) 地形・層序(図 4-117)

調査区を設定した畑地は、沢根低湿地の沢頭北側に位置する。地山面の傾斜から、旧地形は標高 16.4 mほどの緩やかな尾根状であったと判断された。浅い場所では地表面から 20 cmほどで縄文時代晩期頃の堆積層、50 cmほどで地山面に達する。

### (3) 遺構(図 4-117・4-118、表 4-18)

10 基の遺構を検出した。調査区北東部では土坑墓が3基（1～3号）まとまって検出された。いずれも平面形は長楕円形を呈し、南北方向を長軸とする。

1号（図 4-117）は長軸長 148 cm、短軸長 70 cm、2号は長軸長 128 cm、短軸長 62 cm、深さ 17 cm、3号は長軸長 156 cm、短軸長 78 cm、深さ 29 cmである。半裁して調査した2・3号（図 4-118）では、いずれも確認面および覆土中にローム粘土や砂質ローム土の混入が認められ、人為的に埋積された状況が窺われた。加えて3号では、6・7層中に凝灰岩片が含まれる。出土遺物から縄文時代晩期中葉の年代が推定される。1～3号の周辺域では他の土坑墓は検出されず、点在する小ピットが確認された（図 4-118）。この調査区では撹乱が激しく、上記以外にも遺構の可能性を求めて半裁調査したが、結果的に撹乱と判断した地点が複数箇所あった。

### (4) 遺物(図 4-119、表 4-19)

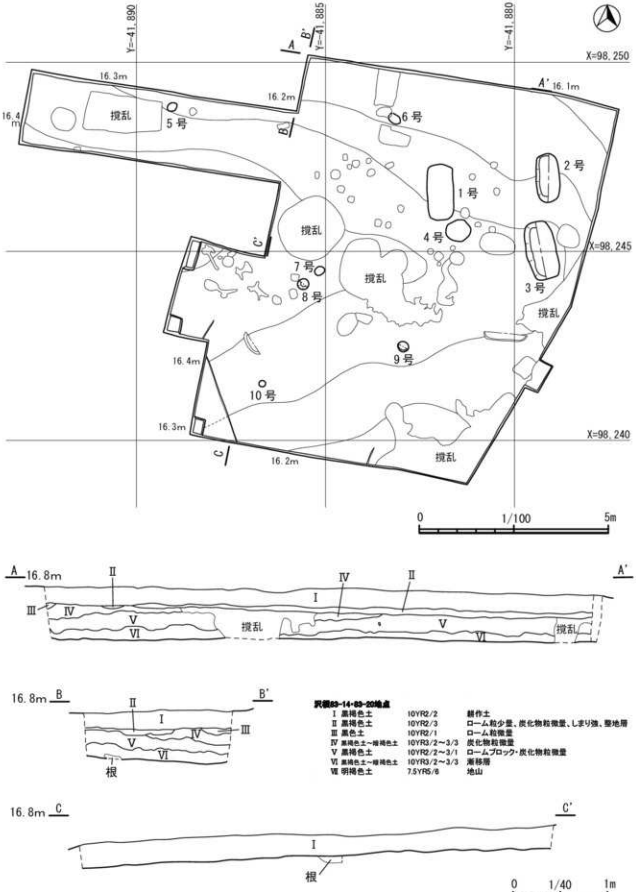
2・3号からは覆土より縄文時代晩期の鉢の口縁・胴部破片が少量出土した。いずれも縦走縄文が施され、3は口縁部に3条の平行沈線が施される。石器では、撹乱層から砥石と玉が出土した。5は角柱状の砥石で、溝状の研磨痕が表裏面に、擦痕が全面に認められる。6は珪質凝灰岩製の玉で、穿孔されないが全面に研磨が及ぶ。

**表 4-18　沢根 83-14・83-20 地点検出遺構一覧**

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 軸方向 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-117 | 1号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 148 | 70 | — | N-3° -W | 縄文晩期中葉 | |
| 図4-118 | 2号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 128 | 62 | 17 | N-4° -W | 縄文晩期中葉 | |
| 図4-118 | 3号 | 土坑墓 | 長楕円形 | 156 | 78 | 29 | N-13° -W | 縄文晩期中葉 | |
| 図4-117 | 4号 | 屋内炉跡？ | 不整円形 | 68 | 56 | 36 | — | 近現代 | |
| 図4-117 | 5号 | ピット | 楕円形 | 28 | 22 | — | — | 縄文？ | |
| 図4-117 | 6号 | ピット | 楕円形 | (32) | 22 | — | — | 縄文？ | |
| 図4-117 | 7号 | ピット | 楕円形 | 27 | 22 | — | — | 縄文？ | |
| 図4-118 | 8号 | ピット | 円形 | 30 | 28 | 12 | — | 縄文？ | |
| 図4-118 | 9号 | ピット | 円形 | 30 | 28 | 12 | — | 縄文？ | |
| 図4-117 | 10号 | ピット | 円形 | 18 | 17 | — | — | 縄文？ | |

**表 4-19　沢根 83-14・83-20 地点出土遺物観察表**

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-119-1 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 2号 | 1層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-119-2 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 2号 | 1層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-119-3 | 土器 | 鉢 | 胴～底部 | 3号 | 1層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-119-4 | 石器 | 石錐 | 完形 | — | Ⅶ層 | 縄文晩期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-119-5 | 石器 | 砥石 | 半欠 | — | 撹乱 | 縄文晩期 | 砂岩 | |
| 図4-119-6 | 石製品 | 玉 | 完形 | — | 撹乱 | 縄文晩期 | 珪質凝灰岩 | |




沢根83-14・83-20地点

| | | | |
|---|---|---|---|
| Ⅰ | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 耕作土 |
| Ⅱ | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒少量、炭化物粒微量、しまり強、整地層 |
| Ⅲ | 黒色土 | 10YR2/1 | ローム粒微量 |
| Ⅳ | 黒褐色土～暗褐色土 | 10YR3/2～3/3 | 炭化物粒微量 |
| Ⅴ | 黒褐色土 | 10YR2/2～3/1 | ロームブロック・炭化物粒微量 |
| Ⅵ | 黒褐色土～暗褐色土 | 10YR3/2～3/3 | 漸移層 |
| Ⅶ | 明褐色土 | 7.5YR5/8 | 地山 |

図 4-117　沢根 83-14・83-20 地点調査区平面・断面図

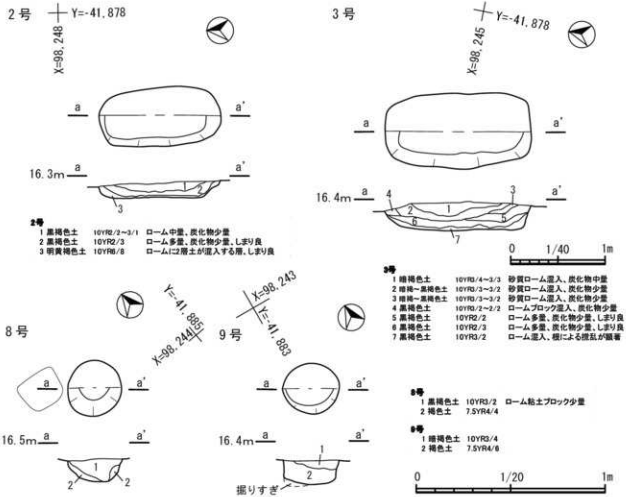



図 4-118　沢根 83-14・83-20 地点土坑墓およびピット平面・断面図

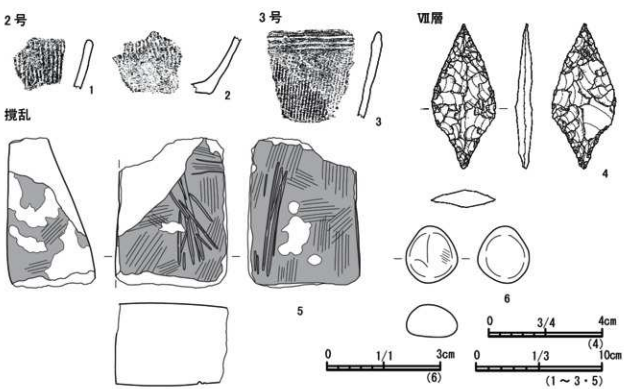



図 4-119　沢根 83-14・83-20 地点出土遺物

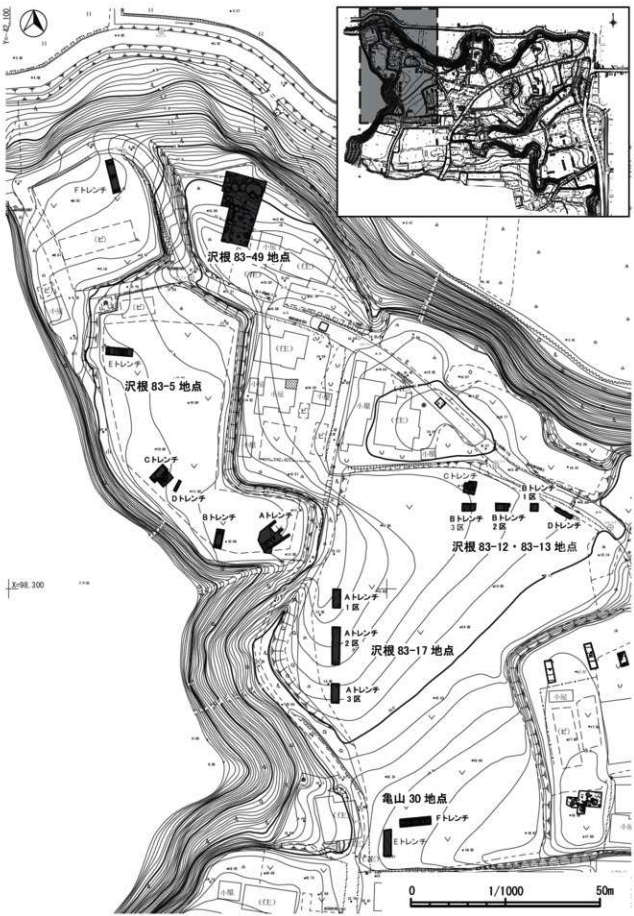



図 4-120　沢根 83-49、83-5、83-17、83-12・83-13、亀山 30 地点調査区位置図

## 13. 沢根 83-49 地点の調査

### (1)概要(図 4-120・4-121)

史跡範囲西端から西へ 200mほどの位置にある丘陵西北端部の宅地内で、平成 21 年度および 29 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した（つがる市教育委員会 2010）。平成 21 年度に南北方向に設定した調査区をＡトレンチ、Ａトレンチ北東側隣接地に拡張した調査区をＢトレンチ、平成 29 年度に南東側隣接地に設定した調査区をＣトレンチと呼称する。調査面積は計 169 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-121・4-122)

調査地は宅地内の休耕地で、丘陵の平坦面から北の低湿地へと向かう標高 12～13mほどの北向き緩斜面上に位置する。地表面から 20～40 ㎝程度で遺物包含層や遺構確認面に達するが、調査区南半部では地表下 20 ㎝ほどで地山面に達し、遺構上部が大きく削平されている状況が認められた。これは耕作による削平に加えて、調査区北部の表層下にみられる近年の盛土（Ⅱ層）をおこなうため、調査区南半部の土を削った結果と考えられた。包含層出土遺物から、Ⅵ～Ⅶ層は縄文時代後期初頭頃、Ⅷ層は縄文時代中期中葉頃に形成されたと判断された。

### (3)遺構(図 4-121・4-123・4-124、表 4-20)

縄文時代中期から晩期の遺構 66 基を検出した。検出遺構の一部はⅧ層を掘り込んで構築され、Ⅶ層に覆われている。このことから、遺構群の年代は縄文時代中期中葉から後期初頭の年代幅を有するが、遺構出土遺物の特徴から、中心年代は後期初頭頃と判断された。遺構の種別はそのほとんどが土坑・ピットであり、調査区北半部にフラスコ状土坑を含む土坑群、南半部にピット群が分布する。この他、調査区北側で縄文時代晩期の竪穴建物跡が 1 軒検出された。このうち 9 基を半裁あるいはトレンチ調査した。

#### 竪穴建物跡（巻頭写真 1 下、図 4-123）

Ｂトレンチ 1 号は北西－南東方向に軸を持ち、長径 4.4m、短径 4.1mの楕円形を呈する竪穴建物跡である。一部を掘削した結果、遺構確認面から床面までの深さは 20～50 ㎝程度を測る。西部で縄文時代中期～後期の遺構（Ｂトレンチ 2・3 号）を掘り込み、北端部は上半を撹乱されている。覆土は 7 層に分層されるが、特に 4 ～ 7 層は人為的に埋め戻された状況が見られる。床面は平坦で、北に向け若干傾斜している。柱穴跡と考えられる数基のピットのほか、床面に焼土や炭化物の分布が見られる。中央の焼土は炉跡であり、炉内のピットは土器を埋設した跡であると考えられることから、土器埋設炉をもつ竪穴建物跡であると判断した。なお、南東部床面直上より、縄文時代晩期中葉の壺形土器が潰れた状態で出土した。このほか、礫石器や縄文時代中期～晩期の土器細片がごく少量出土した。

#### フラスコ状土坑・土坑

Ａトレンチ 2 号（図 4-124）は開口部平面形が不整楕円形を呈する縄文時代中期中葉のフラスコ状土坑で、開口部の長径 150 ㎝、短径 142 ㎝、底部径 130 ㎝、深さ 70 ㎝である。

Ｃトレンチ 1 号と 8 号（図 4-124）は縄文時代後期初頭頃の土坑であり、長径 100～120 ㎝ほどの平面規模に比して深さが 10～20 ㎝ほどと浅い。遺構上部が大幅に削平されたものと推定される。

なお、調査区北側に分布するＡトレンチ 1・3・4 号、Ｂトレンチ 2・3 号はいずれも比較的大規模である。未調査のため遺構種別を土坑としたが、Ａトレンチ 2 号同様、フラスコ状土坑の可能性も考えられる。

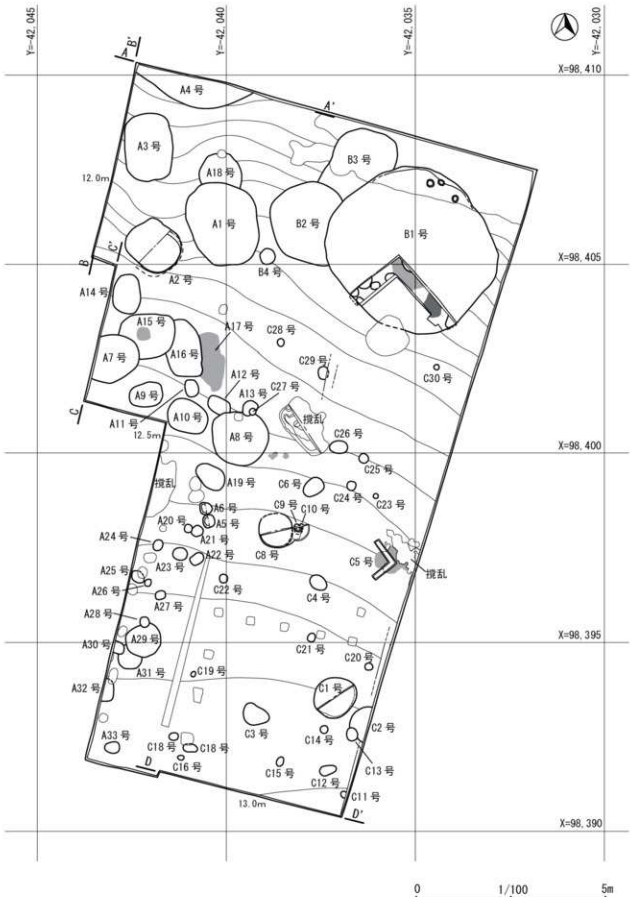



図 4-121　沢根 83-49 地点調査区平面図

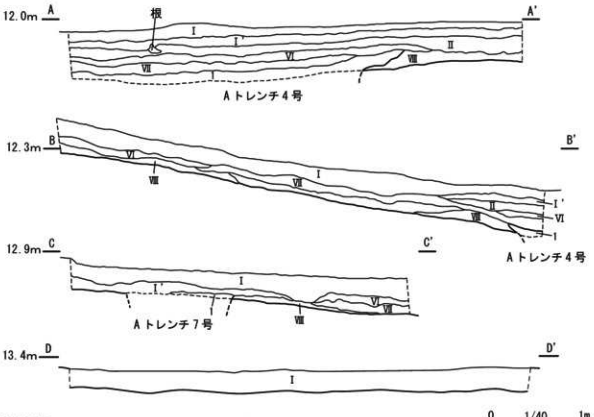


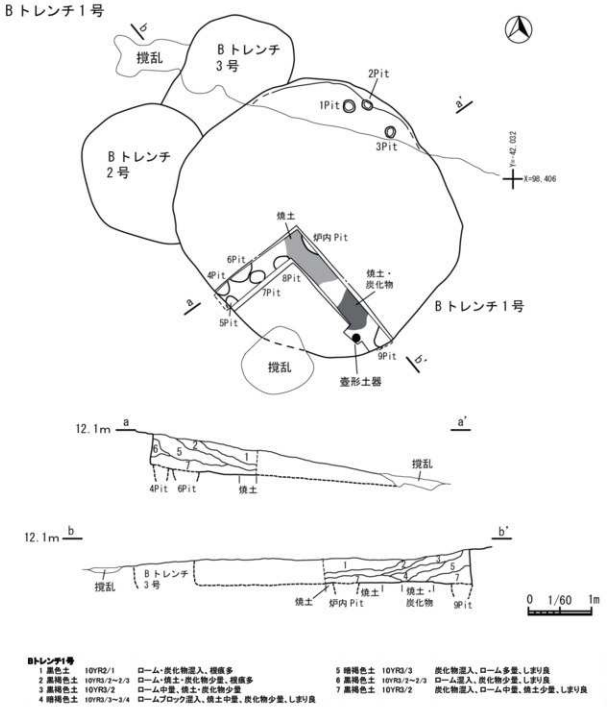

図 4-122　沢根 83-49 地点調査区断面図

### 埋設土器（図 4-124）

Aトレンチ5号は削平により上部を失った縄文時代後期初頭の埋設土器である。掘方は長径 36 cm、短径 33 cm、深さ 14 cmの規模を有する。土器は正位埋設であり、その埋設時にはすでに底部を欠損していたと判断された。

### 焼土遺構（図 4-121・4-124）

Aトレンチ 17 号・Cトレンチ5号は焼土遺構である。Cトレンチ5号では、一部に炭化物ブロックを含む厚さ 20 cmほどの赤褐色土層が認められた。縄文時代中期前葉～中葉頃の遺物包含層を掘り込んでおり、縄文時代後期初頭頃に形成されたと考えられる。




**Bトレンチ1号**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色土 | 10YR2/1 | ローム・炭化物混入、根痕多 | 5 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物混入、ローム多量、しまり良 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/2~2/3 | ローム・焼土・炭化物少量、根痕多 | 6 黒褐色土 | 10YR3/2~2/3 | ローム混入、炭化物少量、しまり良 |
| 3 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム中量、焼土・炭化物少量 | 7 黒褐色土 | 10YR3/2 | 炭化物混入、ローム中量、焼土少量、しまり良 |
| 4 | 暗褐色土 | 10YR3/3~3/4 | ロームブロック混入、焼土中量、炭化物少量、しまり良 | | | |

図 4-123　沢根 83-49 地点竪穴建物跡平面・断面図

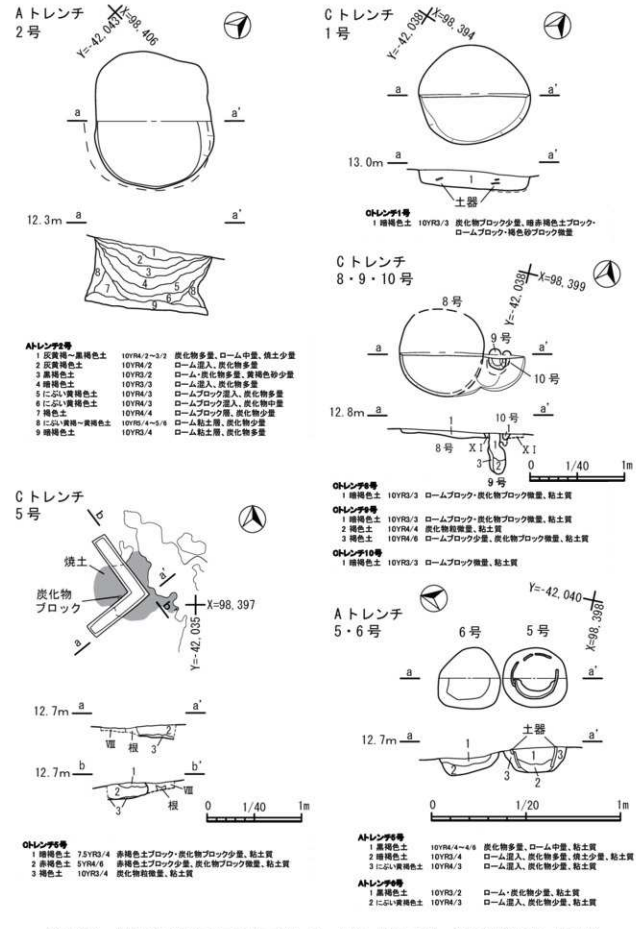



図 4-124　沢根 83-49 地点フラスコ状土坑、土坑、埋設土器、焼土遺構平面・断面図

## 表 4-20　沢根 83-49 地点検出遺構一覧表

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 地点 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-121 | 1号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 236 | 188 | — | 縄文中期初頭 | Aトレ18号より新 |
| 図4-124 | 2号 | フラスコ状土坑 | Aトレンチ | 不整楕円形 | 150（開口部）<br>130（底部） | 142（開口部）<br>—（底部） | 70 | 縄文中期中葉 | |
| 図4-121 | 3号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 178 | 128 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 4号 | 土坑 | Aトレンチ | — | (314) | (76) | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-124 | 5号 | 堆設土器 | Aトレンチ | 円形 | 36 | 33 | 14 | 縄文後期初頭 | |
| 図4-124 | 6号 | ピット | Aトレンチ | 不整円形 | 36 | 32 | 10 | 縄文後期初頭 | |
| 図4-121 | 7号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形？ | (138) | 126 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ15号より新 |
| 図4-121 | 8号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 160 | 142 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ13号より旧、Aトレ12号より新 |
| 図4-121 | 9号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 100 | 65 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 10号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 110 | 86 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 11号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 46 | 35 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 12号 | 土坑 | Aトレンチ | 長楕円形 | 64 | 42 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ8号より旧 |
| 図4-121 | 13号 | 土坑 | Aトレンチ | 円形 | 42 | 40 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Cトレ27号より旧、Aトレ8号より新 |
| 図4-121 | 14号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 104 | 74 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 15号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 150 | 118 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | 検出面に焼土範囲、Aトレ7号より旧、Aトレ16号より新 |
| 図4-121 | 16号 | 土坑 | Aトレンチ | 長楕円形 | 154 | 94 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ15号より旧、Aトレ17号より新 |
| 図4-121 | 17号 | 焼土遺構 | Aトレンチ | 不整長楕円形 | 156 | (72) | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ16号より旧 |
| 図4-121 | 18号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形？ | 120 | 108 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ1号より旧 |
| 図4-121 | 19号 | 土坑 | Aトレンチ | 不整長楕円形 | 86 | 58 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 20号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 23 | 22 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ21号より新 |
| 図4-121 | 21号 | ピット | Aトレンチ | 楕円形 | 32 | 28 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ20号より旧 |
| 図4-121 | 22号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 40 | 28 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 23号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 38 | 34 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 24号 | ピット | Aトレンチ | 楕円形 | 30 | 26 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 25号 | ピット | Aトレンチ | 楕円形 | 38 | (26) | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 26号 | ピット | Aトレンチ | 楕円形 | 21 | 18 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 27号 | ピット | Aトレンチ | 楕円形 | 28 | 22 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 28号 | ピット | Aトレンチ | 円形 | 28 | 26 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ29号より新 |
| 図4-121 | 29号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 94 | 84 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ28号より旧、Aトレ31号より新 |
| 図4-121 | 30号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形？ | (32) | 30 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ31号より新 |
| 図4-121 | 31号 | 土坑 | Aトレンチ | 円形 | 66 | 64 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Aトレ29号・30号より旧 |
| 図4-121 | 32号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形？ | 62 | (30) | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 33号 | 土坑 | Aトレンチ | 楕円形 | 40 | 30 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-123 | 1号 | 竪穴建物跡 | Bトレンチ | 楕円形 | 440 | 408 | 56 | 縄文晩期中葉 | Bトレ2号・3号より新、床面に炉跡・焼土範囲、ピット9基 |
| 図4-121 | 2号 | 土坑 | Bトレンチ | 楕円形？ | 228 | 198 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Bトレ1号より旧 |
| 図4-121 | 3号 | 土坑 | Bトレンチ | 長楕円形？ | (206) | 165 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Bトレ1号より旧 |
| 図4-121 | 4号 | 土坑 | Bトレンチ | 円形 | 42 | 40 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-124 | 1号 | 土坑 | Cトレンチ | 楕円形 | 120 | 106 | 20 | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 2号 | 土坑 | Cトレンチ | 楕円形？ | 96 | (48) | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Cトレ13号より旧 |
| 図4-121 | 3号 | 土坑 | Cトレンチ | 不整楕円形 | 74 | 52 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 4号 | 土坑 | Cトレンチ | 楕円形 | 48 | 36 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-124 | 5号 | 焼土遺構 | Cトレンチ | — | (94) | (74) | 18 | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 6号 | 土坑 | Cトレンチ | 楕円形 | 58 | 44 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 7号（欠番） | — | — | — | — | — | — | | |
| 図4-124 | 8号 | 土坑 | Cトレンチ | 円形 | 94 | 94 | 8 | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-124 | 9号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 28 | 15 | 44 | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-124 | 10号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 18 | 10 | 7 | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 11号 | ピット | Cトレンチ | 円形？ | 18 | (14) | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 12号 | 土坑 | Cトレンチ | 不整長楕円形 | 44 | 27 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 13号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 36 | 31 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | Cトレ2号より新 |
| 図4-121 | 14号 | ピット | Cトレンチ | 円形 | 22 | 22 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 15号 | ピット | Cトレンチ | 長楕円形 | 27 | 18 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 16号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 17 | 14 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 17号 | ピット | Cトレンチ | 長楕円形 | 38 | 20 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 18号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 25 | 22 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 19号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 15 | 12 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 20号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 22 | 18 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 21号 | ピット | Cトレンチ | 不整円形 | 24 | 21 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 22号 | ピット | Cトレンチ | 円形 | 24 | 22 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 23号 | ピット | Cトレンチ | 円形 | 14 | 13 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 24号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 26 | 22 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 25号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 28 | 26 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 26号 | 土坑 | Cトレンチ | 楕円形 | 48 | 32 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 27号 | ピット | Cトレンチ | 円形 | 18 | 18 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 28号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 20 | 18 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 29号 | ピット | Cトレンチ | 楕円形 | 35 | (24) | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |
| 図4-121 | 30号 | ピット | Cトレンチ | 円形 | 14 | 14 | — | 縄文中期後葉～後期初頭 | |

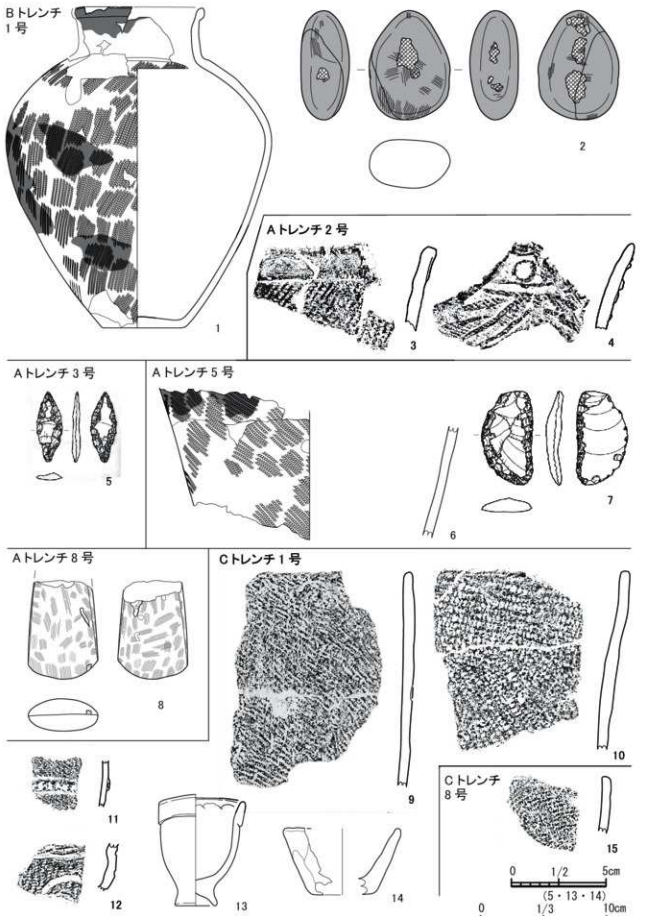



図 4-125　沢根 83-49 地点遺構出土遺物

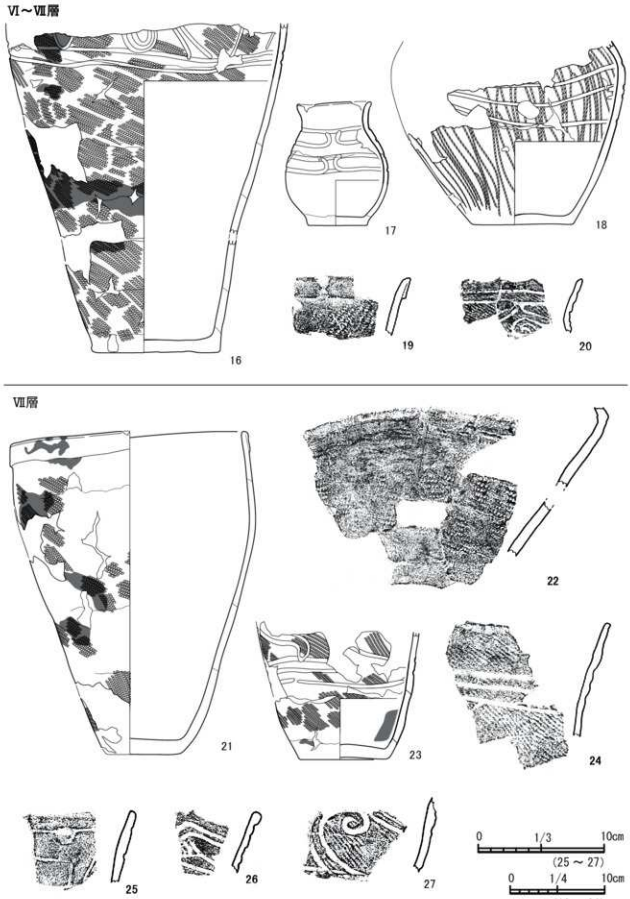



図 4-126　沢根 83-49 地点遺構外出土遺物（1）

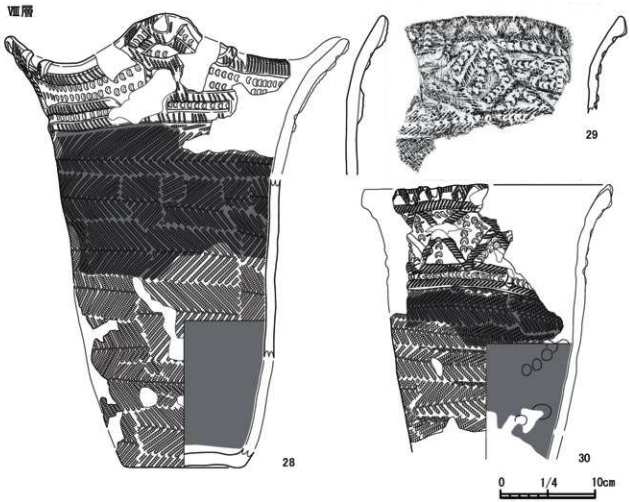



図 4-127　沢根 83-49 地点遺構外出土遺物（2）

**(4)遺物(図 4-125～4-127、表 4-21)**

検出された遺構から、縄文時代中期～晩期の土器・石器が出土した。

Bトレンチ１号（竪穴建物跡）では、晩期中葉の壺１個体分が床面から潰れた状態で出土した（１、巻頭写真５左上）。頸部と肩部の境に１条の沈線がめぐり、外面の一部に炭化物の付着が認められる。同じく床面からは、磨・敲石（２）が出土した。全面に摩耗痕が及び、平坦面や端部の敲打痕に付随して擦痕が観察される。

Aトレンチ２号（フラスコ状土坑）では、１層から口縁の折り返しを有する深鉢破片（３）、覆土中位の３層から円筒上層ｄ式の深鉢口縁部破片（４）が出土した。

Aトレンチ３層（土坑）では、遺構確認面から石鏃（５）が出土した。表裏面に残された素材剥片の剥離面にのみ赤変が認められることから、二次加工以前に素材となる剥片が被熱したと考えられる。

Aトレンチ５号（埋設土器）では、埋設された後期初頭頃の深鉢胴部（６）のほか、掘方からつまみ部の欠失した石匙（７）が出土した。

Cトレンチ１号（土坑）では、縄文時代後期初頭頃の土器（９～14）がまとまって出土した。９・10はいずれも口縁部まで縄文の施される深鉢形土器であり、９にはわずかに口縁部の折り返しが認められる。ミニチュア土器も複数出土している（13・14）。13は台部を有し、口縁部には折り返しもしくは貼り付けによる肥厚が認められる。

遺構外からは縄文時代中期～後期の土器・石器が出土した。Ⅵ・Ⅶ層からは縄文時代後期初頭頃の

深鉢等が多数出土し、調査区北側に分布する土坑・ピット群を覆っていた（16～27）。16・20・27は渦巻き状の沈線文が施文された深鉢である。19・21は口縁部の折り返しを特徴とする深鉢である。25には沈線による方形区画が認められる。Ⅷ層からは、円筒上層ｃ式の２個体分の深鉢が潰れた状態で出土した（28～30）。口縁部文様帯には、縦・横方向に加えて鋸歯状やＸ字状の隆帯が展開し、その上に押圧縄文が施される。隆帯間には、連続する三日月状あるいは馬蹄形状の刺突文が施される。

**表 4-21　沢根 83-49 地点出土遺物観察表**

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 調査地点 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-125-1 | 土器 | 壺 | 口縁～底部 | 沢根83-49 | Bトレンチ1号 | 7層 | 縄文晩期中葉 | | |
| 図4-125-2 | 石器 | 磨・敲石 | 完形 | 沢根83-49 | Bトレンチ1号 | 7層 | 縄文晩期中葉 | 安山岩 | |
| 図4-125-3 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | Bトレンチ2号 | 1層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-125-4 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | Aトレンチ2号 | 3～4層 | 縄文中期中葉 | 円筒上層d式 | |
| 図4-125-5 | 石器 | 石鏃 | 完形 | 沢根83-49 | Aトレンチ3号 | 遺構確認面 | 縄文 | 頁岩 | 被熱 |
| 図4-125-6 | 土器 | 深鉢 | 胴部下半 | 沢根83-49 | Aトレンチ5号 | — | 縄文後期初頭 | | 埋設土器 |
| 図4-125-7 | 石器 | 石匙 | つまみ部欠 | 沢根83-49 | Aトレンチ5号 | 3層 | 縄文 | 珪質頁岩 | |
| 図4-125-8 | 石器 | 磨製石斧 | 基部側欠 | 沢根83-49 | Aトレンチ8号 | 遺構確認面 | 縄文 | 緑色片岩 | |
| 図4-125-9 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 沢根83-49 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-125-10 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 沢根83-49 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-125-11 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 沢根83-49 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期 | | |
| 図4-125-12 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 沢根83-49 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期 | | |
| 図4-125-13 | 土製品 | 台付鉢（ミニチュア土器） | 完形 | 沢根83-49 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-125-14 | 土製品 | 鉢（ミニチュア土器） | 口縁～底部 | 沢根83-49 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-125-15 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | Cトレンチ8号 | 1層 | 縄文後期 | | |
| 図4-126-16 | 土器 | 深鉢 | 胴～底部 | 沢根83-49 | — | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-17 | 土器 | 壺 | 口縁～底部 | 沢根83-49 | — | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文後期 | | |
| 図4-126-18 | 土器 | 壺 | 胴～底部 | 沢根83-49 | — | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-19 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | — | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-20 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | — | Ⅵ～Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-21 | 土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-22 | 土器 | 鉢 | 胴～胴部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-23 | 土器 | 深鉢 | 胴～底部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-24 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-25 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-126-26 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-126-27 | 土器 | 深鉢 | 頸部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-127-28 | 土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文中期中葉 | 円筒上層c式 | 29と同一個体 |
| 図4-127-29 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文中期中葉 | 円筒上層c式 | 28と同一個体 |
| 図4-127-30 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 沢根83-49 | — | Ⅶ層 | 縄文中期中葉 | 円筒上層c式 | |

## 14. 沢根 83-5 地点の調査

### (1)概要(図 4-120)

亀山丘陵西側に広がる新堤沼に面した丘陵西端部の耕作地で平成 27 年度に内容確認調査を実施した。この調査地点は丘陵北西端部の舌状丘陵部に位置する。A～F トレンチの 6 か所の調査区を設定した。調査面積は計 142 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-120・4-128～4-132)

調査地は、西側の新堤沼に向かう標高 9 ～11mほどの西向き緩斜面上に位置する。宅地化が進んだ東側丘陵部とは急崖を隔てて 2 ～ 3 mほどの比高差があることから、旧地形の西向き斜面地が後世の削平及び埋立てにより段丘地形に改変された状況が窺われる。調査の結果、地山面が西向き斜面であることも確認された。B トレンチでは近年の盛土層が厚さ 2 mに達し、沢根 83-5 地点の南側で新堤沼に開口する小支谷縁辺の埋め立て状況も確認された。この調査地点では多量の遺物が出土し、A トレンチではⅣ～Ⅵ層で縄文時代後期初頭～前葉頃の遺物包含層が確認された。

### (3)遺構(図 4-128～4-132、表 4-22)

A トレンチで土坑 3 基、ピット 3 基、C トレンチで土坑 5 基の計 11 基の遺構が検出された。

A トレンチ検出遺構はいずれも小型のもので、平面形状は楕円形を主体とする。3・4・6・8 号から縄文時代後期の土器片が少量出土しており、いずれの遺構も縄文時代後期の年代が推定される。

C トレンチでは傾斜地に 5 基の土坑が重複して並ぶ。全ての遺構から縄文時代後期初頭～前葉頃の土器片が出土しており、遺構年代も同時期であると推定される。

### (4)遺物(図 4-133～4-135、表 4-23)

主に A・C トレンチから、縄文時代後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。土器の特徴として、口縁部の折り返しや肥厚、胴部に太い沈線により施文される「コ」字状文・S 字状文・クランク状文や渦巻文、地文として施される無節斜縄文が目立つ。

A トレンチⅢ-2 層（撹乱層）からは後期の遺物が出土した。1 は口縁部に竹管状工具により施文された列点文と平行沈線が重層的に展開する。2 は両側縁の二次加工により尖頭部が作出されたスクレイパーである。

A トレンチⅣ層からは後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。3 は口縁部に折り返しを有し、3 条の平行沈線が施された深鉢である。4 は台付鉢の台部であり、台部外面には隆帯がめぐる。隆帯上には 1 条の沈線とその上下の連続刻み目が横位に展開する。

**表 4-22　沢根 83-5 地点検出遺構一覧表**

| 図版番号 | 調査地点 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — | Aトレンチ | 1号（欠番） | — | — | — | — | — | 縄文後期初頭～前葉 | |
| — | Aトレンチ | 2号（欠番） | — | — | — | — | — | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-128 | Aトレンチ | 3号 | 土坑 | 楕円形 | 40 | 30 | 30 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-128 | Aトレンチ | 4号 | ピット | 楕円形 | 26 | 24 | 10 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-128 | Aトレンチ | 5号 | 土坑 | 楕円形 | 40 | 32 | 20 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-129 | Aトレンチ | 6号 | 土坑 | 楕円形 | 44 | 23 | 26 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-128 | Aトレンチ | 7号 | ピット | 隅丸方形 | 24 | 20 | — | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-129 | Aトレンチ | 8号 | ピット？ | — | (20) | 19 | 7 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-130・131 | Cトレンチ | 1号 | 土坑 | 不整楕円形 | 146 | 100 | 54 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-130・131 | Cトレンチ | 1b号 | 土坑 | 長楕円形 | 130 | 74 | 54 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-130・131 | Cトレンチ | 3a号 | 土坑 | 不整楕円形 | 48 | 31 | 10 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-130・131 | Cトレンチ | 3b号 | 土坑 | — | (72) | 74 | 28 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-130・131 | Cトレンチ | 4号 | 土坑 | 隅丸方形 | 136 | 124 | 60 | 縄文後期初頭～前葉 | |

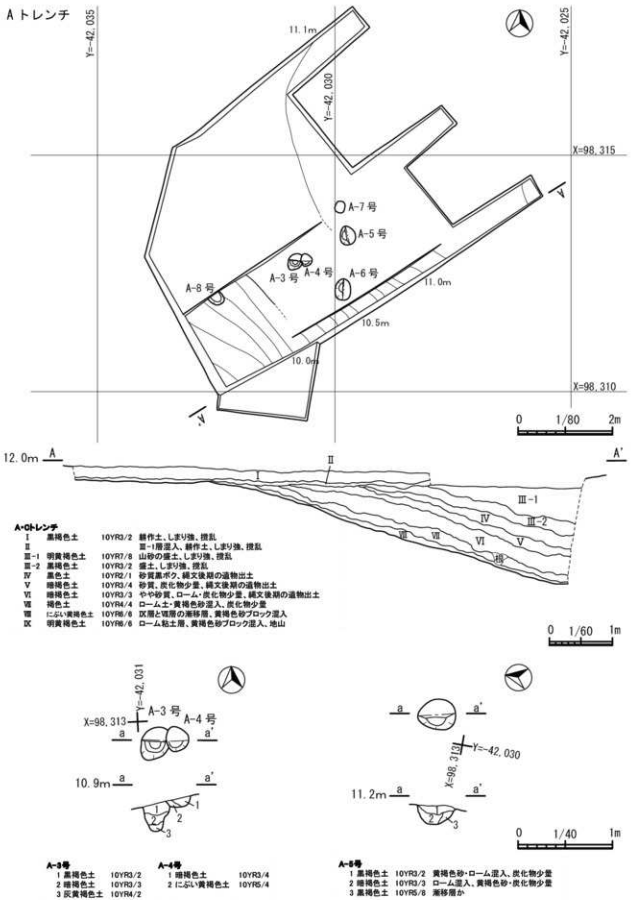



図 4-128　沢根 83-5 地点 A トレンチ調査区および遺構平面・断面図

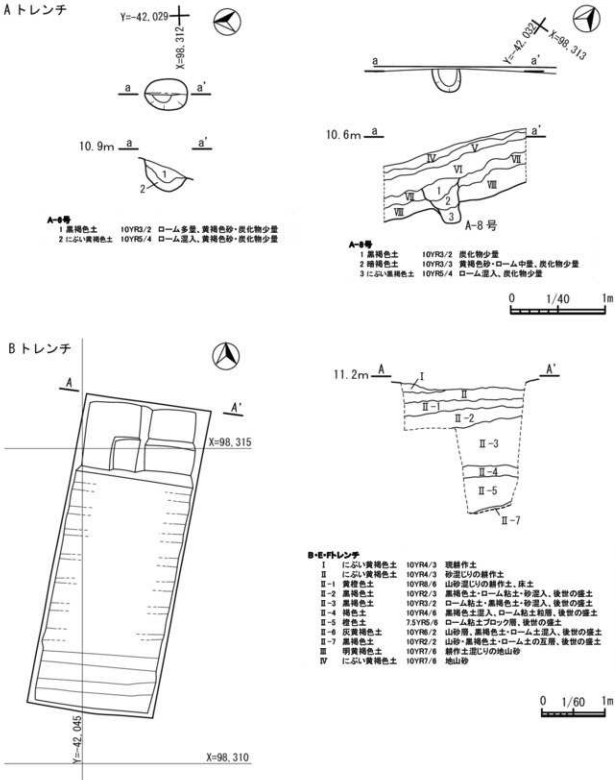



図 4-129　沢根 83-5 地点 A トレンチ遺構および B トレンチ調査区平面・断面図

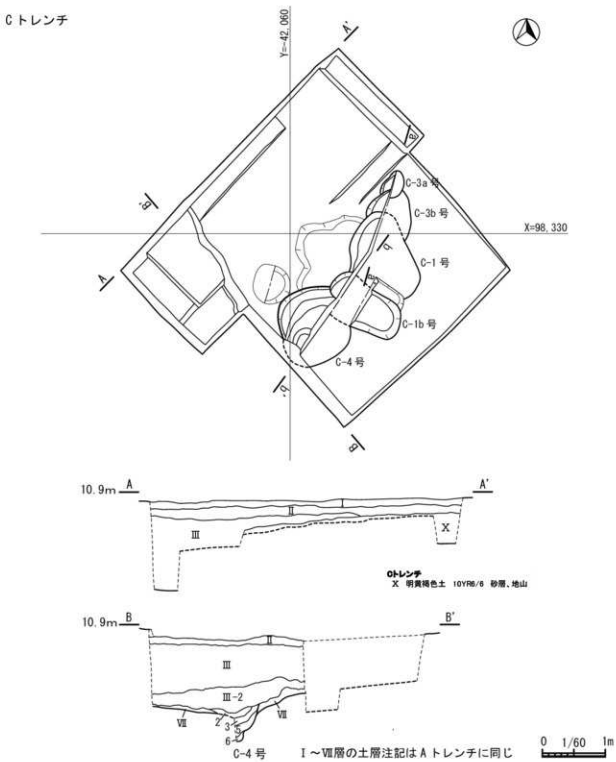



図 4-130　沢根 83-5 地点 C トレンチ平面・断面図

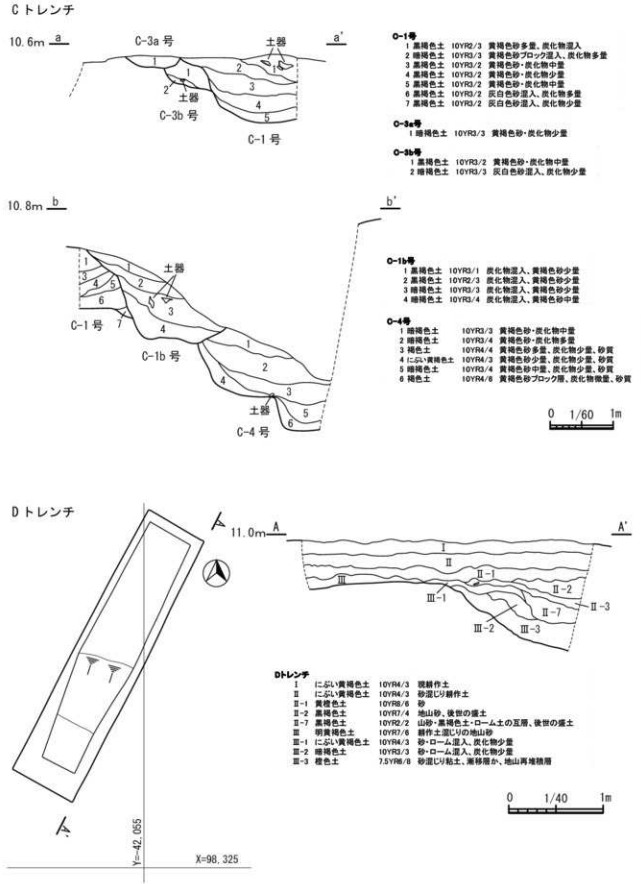



図 4-131　沢根 83-5 地点 C トレンチ土坑断面図および D トレンチ平面・断面図

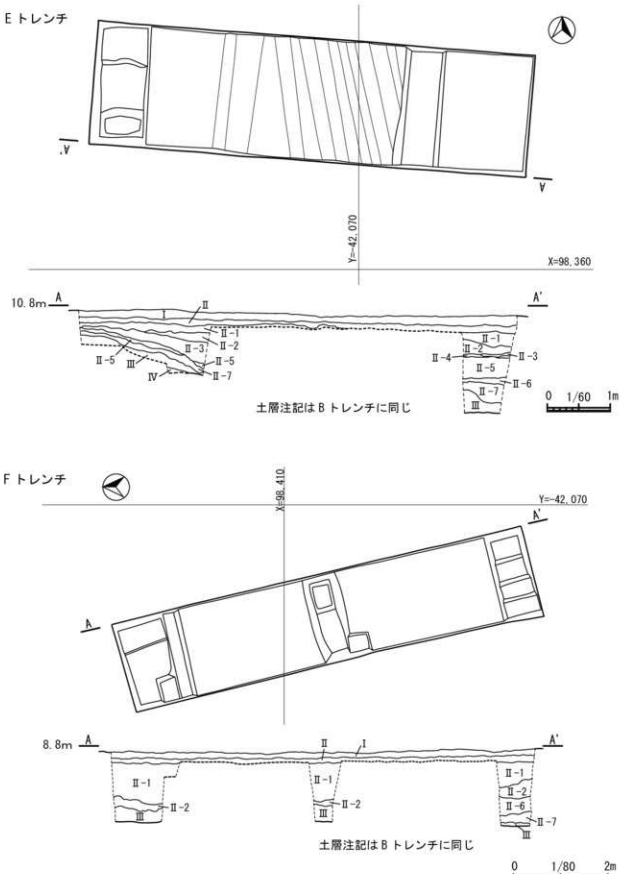



図 4-132　沢根 83-5 地点 E・F トレンチ平面・断面図

Aトレンチ V～VI層にかけては、主に後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。5～8は口縁に山形突起を有する深鉢である。5は山形突起頂部に深い押圧を有し、口縁部には平行沈線がめぐり、突起直下には刺突文が施される。6は口縁部が折り返される。7は口縁部に粘土紐を貼り付けた隆帯がめぐり、山形突起直下にはボタン状貼付文を有する。9は平坦口縁を有する深鉢で、S字状沈線が施文される。10は口縁直下に竹管状工具による列点文と沈線による楕円文が施文される。12はゆるやかな波状口縁を有する深鉢である。波状部直下にボタン状貼付文が貼付され、そこから粘土紐による隆帯が垂下する。口端部・口縁直下・隆帯および隆帯両脇には、馬蹄形状の刺突列が施される。13・14は口唇部に縄文が施される。15は折り返しによる平坦口縁を有する深鉢であり、胴部は無文。16・17は平坦口縁の深鉢であり、口縁から胴部にかけて縄文が施された後に口縁直下が帯状にナデ調整される。18は鉢の口縁部破片であり、後期～晩期の年代が推定される。19は壺の胴部破片であり、3～4条の沈線による弧線文とその上位に平行沈線が施文される。弧線文の内部や平行沈線と弧線の間には平面形が三角状の刺突が充填される。弥生時代前期の二枚橋式と考えられる。20・21は有茎石鏃であり、20は茎部を中心として点状の黒色付着物が認められる。21は先端部を欠損する。22は玉髄製の石篦であり、刃部および両側縁とも表裏面からの二次加工により整形される。23は安山岩の棒状礫を素材とする磨石であり、端部付近に擦痕が認められる。24は不整形の安山岩礫を素材とする磨石であり、正面広範囲と裏面のごく一部に赤色物質の付着が認められる。26は正面中央部と下端部に敲打痕が集中する敲石である。

Aトレンチ VI層からは後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。27は3本組の太い沈線による文様が口縁から胴部にかけて施文され、外面にはタール状の黒色付着物が認められる。28は沈線により「コ」字状文が施文され、区画内に縄文が充填される。

Aトレンチ VI層下位からは後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。29は山形突起を有する深鉢で、口縁が折り返される。30は平坦口縁を有する深鉢で、口縁から胴部にかけて縄文を施文した後にクランク状の沈線を施す。後期中葉の十腰内Ⅲ群と考えられる。32は口縁部に折り返しを有する深鉢であり、肥厚する口縁直下に網目状文が施文される。33は円柱形の珪化木であり、下端部に敲打痕が認められる。

Cトレンチでは、1・1b・3b・4号から縄文時代後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。

34～47は1号出土遺物である。34は波状口縁ないし山形突起を有する深鉢であり、S字状沈線と平行沈線が施文される。35は口縁部が外反する深鉢、36・37は口縁から胴部に無節のL縄文が施された深鉢である。38は後期～晩期頃の鉢であり、外面に赤色顔料が塗布される。40は3層から出土した深鉢である。折り返しのある口縁に3連の山形突起を5単位配し、その直下に渦巻状の隆帯が貼付される。口縁から胴部にかけては沈線による渦巻文や弧状文が展開し、沈線区画内には縄文が充填される。41は折り返しによる平坦口縁を有する深鉢である。43は胴部にS字状沈線が展開する小型の鉢であり、上下方向からの穿孔を有する突起が貼付される。44は口縁部が外反する深鉢である。胴部には縄文が施され、その後S字状沈線が重層的に展開する。47は有茎石鏃であり、茎部に黒色付着物が認められる。先端部および茎部を欠損するが、先端部欠損は衝撃剥離痕と推定される。

1b号では後期の遺物が出土した。48は深鉢の口縁部破片である。

3b号では後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。49は口縁部の肥厚する深鉢であり、2条の平行沈線がめぐる。50は2連の山形突起を有する深鉢である。

4号では後期初頭～前葉頃の遺物が出土した。51は口縁から胴部下半にかけて無節のL縄文が全面に施された深鉢である。胴部下半は二次的な被熱により赤変している。52は口縁が折り返された深鉢であり、胴部に無節のL縄文が施される。

Cトレンチの遺構外からも、縄文時代後期初頭～前葉頃の遺物が出土している。59～63はⅢ-2層

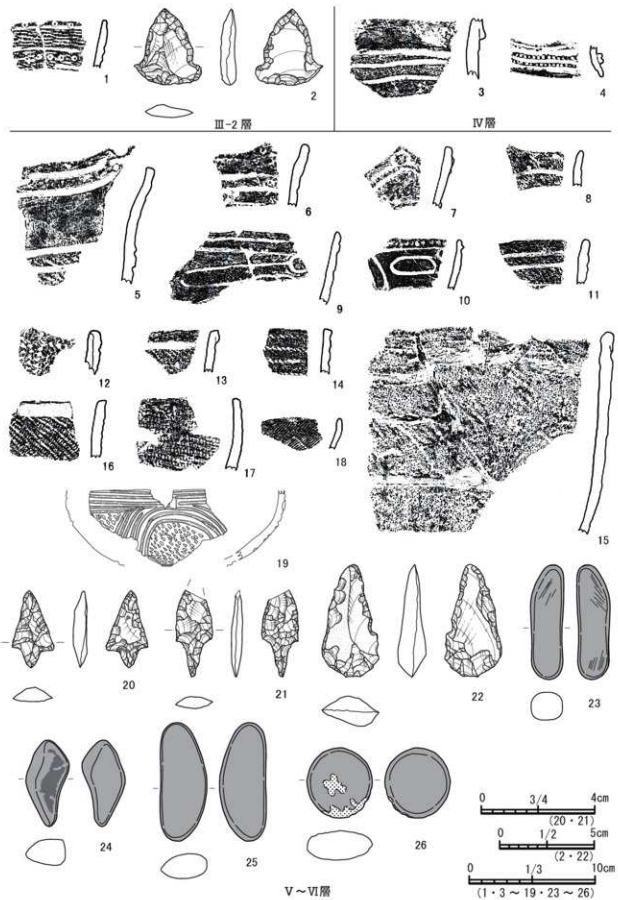



図 4-133 沢根 83-5 地点 A トレンチ出土遺物

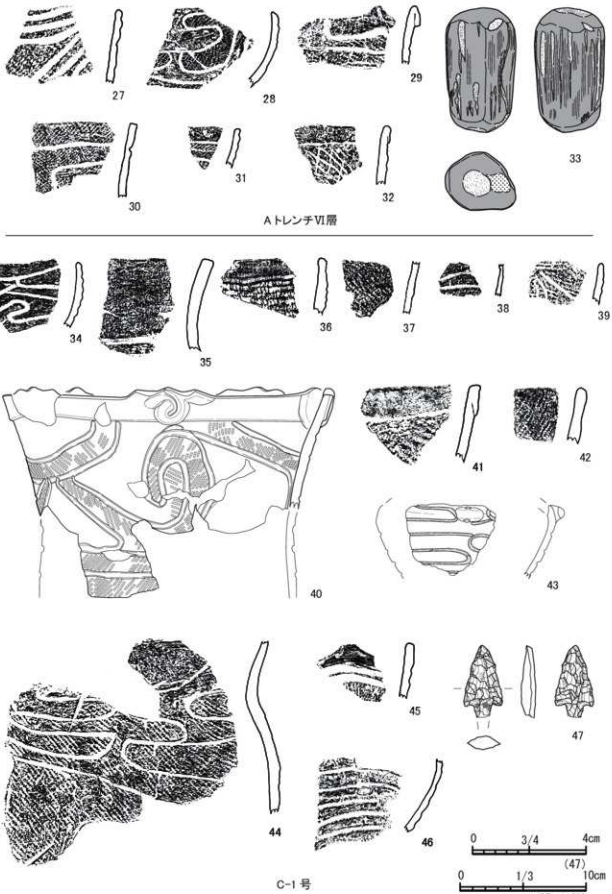



図 4-134 沢根 83-5 地点 A トレンチ・C トレンチ出土遺物

**図 4-135　沢根 83-5 地点 C トレンチ・D トレンチ出土遺物**

（撹乱層）から出土した遺物である。59 は口縁部が肥厚する深鉢であり、胴部には平行沈線と縦位の弧線文が施される。62 は小型の鉢の胴～底部破片であり、胴部下半には S 字状沈線が施文される。底部はやや上げ底を呈する。63 は壺の口縁部破片であり、橋状把手を有する。64 はⅦ層出土の深鉢口縁部破片である。横走縄文が施され、その後口唇部から口縁部外面にかけてミガキ調整が施される。

## 表 4-23　沢根 83-5 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-133-1 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅲ-2層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-133-2 | 石器 | スクレイパー | 完形 | Aトレンチ | Ⅲ-2層 | 縄文後期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-133-3 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅳ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-133-4 | 土器 | 台付鉢 | 台部 | Aトレンチ | Ⅳ層 | 縄文後期前葉 | | |
| 図4-133-5 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-133-6 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-133-7 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | 外面に黒色付着物 |
| 図4-133-8 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | | |
| 図4-133-9 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-133-10 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-133-11 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | | |
| 図4-133-12 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-133-13 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | 外面に黒色付着物 |
| 図4-133-14 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | | 外面に炭化物付着物 |
| 図4-133-15 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | | － |
| 図4-133-16 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | | |
| 図4-133-17 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | | |
| 図4-133-18 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期～晩期 | | |
| 図4-133-19 | 土器 | 壺 | 胴部 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 弥生前期 | 二枚構式 | |
| 図4-133-20 | 石器 | 石鏃 | 完形 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | 珪質頁岩 | 基部に黒色付着物 |
| 図4-133-21 | 石器 | 石鏃 | 先端部欠損 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-133-22 | 石器 | 石錐 | 完形 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | 玉髄 | |
| 図4-133-23 | 石器 | 磨石 | 完形 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | 安山岩 | |
| 図4-133-24 | 石器 | 磨石 | 完形 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | 安山岩 | 赤色物質付着 |
| 図4-133-25 | 石器 | 磨石 | 完形 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | 流紋岩 | |
| 図4-133-26 | 石器 | 敲石 | 完形 | Aトレンチ | Ⅴ～Ⅵ層 | 縄文後期 | 花崗閃緑岩 | |
| 図4-134-27 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅵ層 | 縄文後期 | | 胎土に海綿状骨針、外面黒色物付着 |
| 図4-134-28 | 土器 | 鉢 | 胴部 | Aトレンチ | Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-134-29 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅵ層下部 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-134-30 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅵ層下部 | 縄文後期中葉 | | |
| 図4-134-31 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅵ層下部 | 縄文後期 | | |
| 図4-134-32 | 縄文土器 | 鉢 | 口縁部 | Aトレンチ | Ⅵ層下部 | 縄文後期～晩期 | | |
| 図4-134-33 | 石器 | 敲石 | 完形 | Aトレンチ | Ⅵ層下部 | 縄文後期 | 珪化木 | |
| 図4-134-34 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-134-35 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期 | | |
| 図4-134-36 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期 | | |
| 図4-134-37 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-134-38 | 土器 | 鉢 | 胴部 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期～晩期 | | 外面に赤色顔料塗布 |
| 図4-134-39 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1号 | 2層 | 縄文後期 | | |
| 図4-134-40 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Cトレンチ1号 | 3層 | 縄文後期初頭 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-134-41 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1号 | 3層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-134-42 | 土器 | 鉢 | 胴部 | Cトレンチ1号 | 3層 | 縄文後期前葉～中葉 | | 胎土に海綿状骨針 |
| 図4-134-43 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1号 | 3層 | 縄文後期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-134-44 | 土器 | 深鉢 | 頸～胴部 | Cトレンチ1号 | 3～4層 | 縄文後期前葉 | | |
| 図4-134-45 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1号 | 5層 | 縄文後期 | | |
| 図4-134-46 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Cトレンチ1号 | 一括 | 縄文後期 | | 胎土に海綿状骨針 |
| 図4-134-47 | 石器 | 石鏃 | 先端部・基部欠損 | Cトレンチ1号 | 確認面 | 縄文後期 | 珪質頁岩 | 基部に黒色付着物 |
| 図4-135-48 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ1b号 | 上～中層 | 縄文後期 | | |
| 図4-135-49 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ3b号 | 3層 | 縄文後期初頭 | | 外面に黒色付着物 |
| 図4-135-50 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ3b号 | 下層 | 縄文後期 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-135-51 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Cトレンチ4号 | 1層 | 縄文後期 | | 内外面炭化物付着 |
| 図4-135-52 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Cトレンチ4号 | 2層 | 縄文後期初頭 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-135-53 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ4号 | 3層 | 縄文後期 | | |
| 図4-135-54 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ4号 | 4層 | 縄文後期 | | |
| 図4-135-55 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ4号 | 2層 | 縄文後期 | | 透かし孔 |
| 図4-135-56 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ4号 | 2層 | 縄文後期 | | |
| 図4-135-57 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ4号 | 2層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-135-58 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ4号 | 2層 | 縄文後期 | | |
| 図4-135-59 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Cトレンチ | Ⅲ-2層 | 縄文後期初頭 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-135-60 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ | Ⅲ-2層 | 縄文後期 | | |
| 図4-135-61 | 土器 | 深鉢 | 口縁～胴部 | Cトレンチ | Ⅲ-2層 | 縄文後期初頭 | | |
| 図4-135-62 | 土器 | 深鉢 | 胴～底部 | Cトレンチ | Ⅲ-2層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-135-63 | 土器 | 壺 | 口縁部 | Cトレンチ | Ⅲ-2層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-135-64 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | Cトレンチ | Ⅶ層 | 縄文後期 | | |
| 図4-135-65 | **土器** | **深鉢** | **口縁部** | **Dトレンチ** | **Ⅱ-2～Ⅱ-7層** | **縄文後期** | | **外面炭化物付着** |

## 15. 沢根 83-12・83-13 地点、沢根 83-17 地点、亀山 30 地点の調査

### (1)概要(図 4-120)

史跡範囲西隣の亀山丘陵上において、平成 20 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した（つがる市教育委員会 2010）。A トレンチ 1～3 区、B トレンチ 1～3 区、C・D・E・F トレンチの計 10 か所の調査区を設定し、調査面積は計 100 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-120・4-136・4-137)

調査区を設定した畑地は標高 13～16mほどの緩斜面であり、南東から北西に向け標高を減じていく。その東側隣接地とは 2mほどの比高差があり、旧地形が削平された可能性が窺われた。そのため調査区設定にあたっては、大きく削平を受けた可能性のある地点を避け、畑地の北・西・南西端部を選定した。しかし、A・C・D・F トレンチおよび B トレンチ 1 区では、耕作土の下に削平・撹乱された地山面が検出された。特に A トレンチ 1 ～ 3 区ではローム土が失われ、耕作土の下は灰白色砂層が検出された。

一方、B トレンチ 2 ・ 3 区では地表面から地山まで 1.5～ 2 m程度の深さがあり、上部には厚さ 50 cm程度の近年の盛土が認められた。両地点とも地山面が南に向かい傾斜しており、Ⅵ・Ⅶ層からは傾斜に従い北から南に流れ込んだ縄文時代中期～晩期の土器片が出土した。以上の状況から、B トレンチ 2 ・ 3 区付近から A トレンチ 1 区北側付近にかけては、西側に開口する東西方向の小支谷が広がっていたと考えられる。畑地東側との比高差や、複数調査地点での地山面までの削平痕は、旧地形である谷を埋めるために地均しした際の痕跡と判断された。

### (3)遺構(図 4-137、表 4-24)

C トレンチでは、縄文時代後期のフラスコ状土坑（1 号）が検出された。上部は耕作により削平されていたが、確認面からの深さ 1.8m、開口部長径 1.9m、底面長径 2.2mほどの規模で、開口部の平面形は楕円形を呈する。底面には付属ピットが検出された。

### (4)遺物(図 4-138、表 4-25)

C トレンチ 1 号からは、覆土 1 層より縄文時代後期初頭～前葉頃の小型壺（5）、1 ～ 9 層にかけて縄文時代中期の土器片、10～19 層にかけて縄文時代中期末葉～後期初頭の土器片（6）が少量出土した。5 の小型壺には、細沈線による楕円文や 2 本組の沈線による文様が施文される。

1 ～ 3 は B トレンチ 3 区Ⅵ～Ⅶ層から出土した。1 は縄文時代晩期の壺の肩部破片、2 は素材剥片の両側縁部および末端部に連続的な二次加工が施されたスクレイパー、3 は口縁に山形突起を有する後期初頭の深鉢で、口縁部に平行沈線が施される。4 は B トレンチ 2 区Ⅶ層から出土した円筒上層 a 式の深鉢口縁部破片である。

**表 4-24　沢根 83-12・83-13 地点 C トレンチ検出遺構一覧表**

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-137 | 1号 | フラスコ状土坑 | 楕円形 | 192(開口部)<br>224(底部) | 144(開口部)<br>—(底部) | 174 | 縄文後期 | 底部にピット1基 |

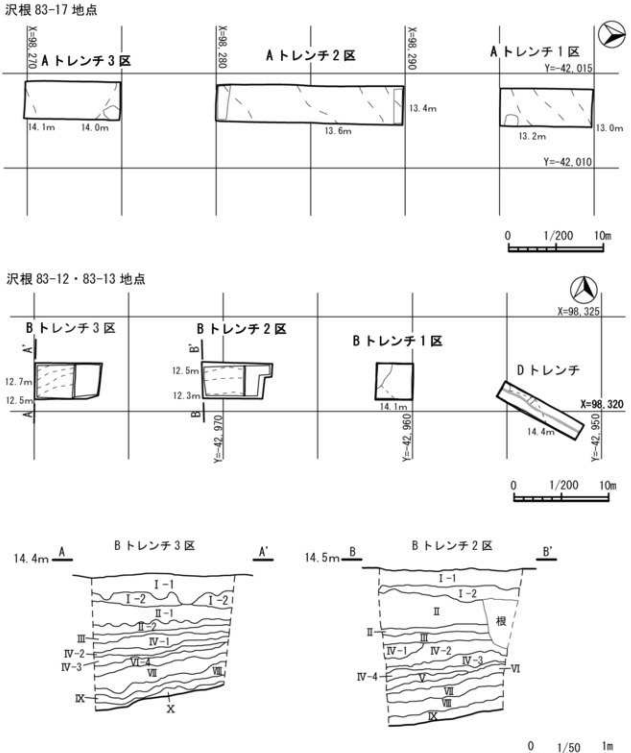



図 4-136　沢根 83-17 地点および 83-12・83-13 地点調査区平面・断面図

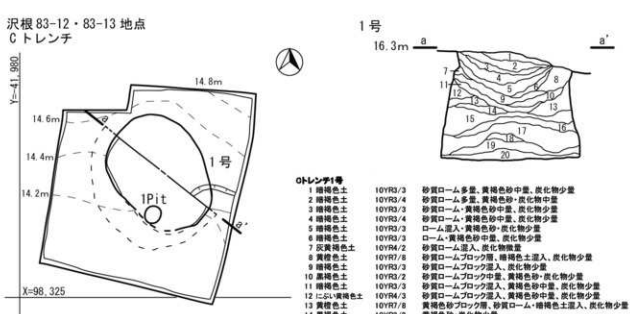



図 4-137　沢根 83-12・83-13 地点および亀山 30 地点調査区平面・断面図

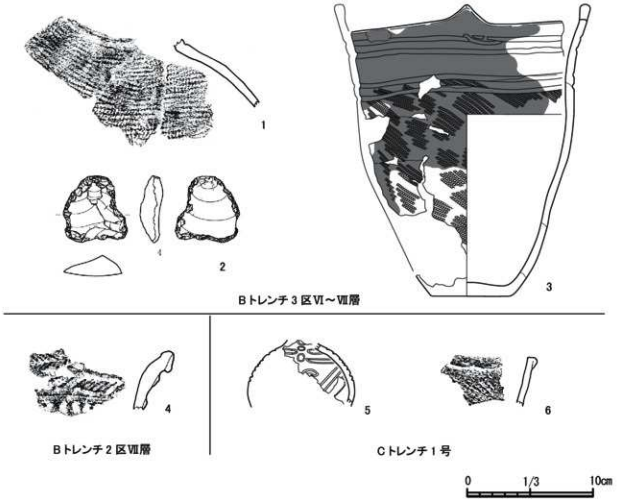



図 4-138　沢根 83-12・83-13 地点 B・C トレンチ出土遺物

表 4-25　沢根 83-12・83-13 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 調査地点 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-138-1 | 土器 | 壺 | 肩部 | 沢根83-12・13 | Bトレンチ3区 | Ⅵ層 | 縄文時代晩期 | | |
| 図4-138-2 | 石器 | スクレイパー | 完形 | 沢根83-12・13 | Bトレンチ3区 | Ⅵ層 | 縄文時代晩期 | 珪質頁岩 | |
| 図4-138-3 | 土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | 沢根83-12・13 | Bトレンチ3区 | Ⅵ層 | 縄文後期初頭 | | 外面炭化物付着 |
| 図4-138-4 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-12・13 | Bトレンチ2区 | Ⅶ層 | 縄文中期初頭 | 円筒上層a式 | |
| 図4-138-5 | 土器 | 壺 | 肩～胴部 | 沢根83-12・13 | Cトレンチ1号 | 1層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-138-6 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 沢根83-12・13 | Cトレンチ1号 | 10～16層 | 縄文中期末葉～後期初頭 | | |

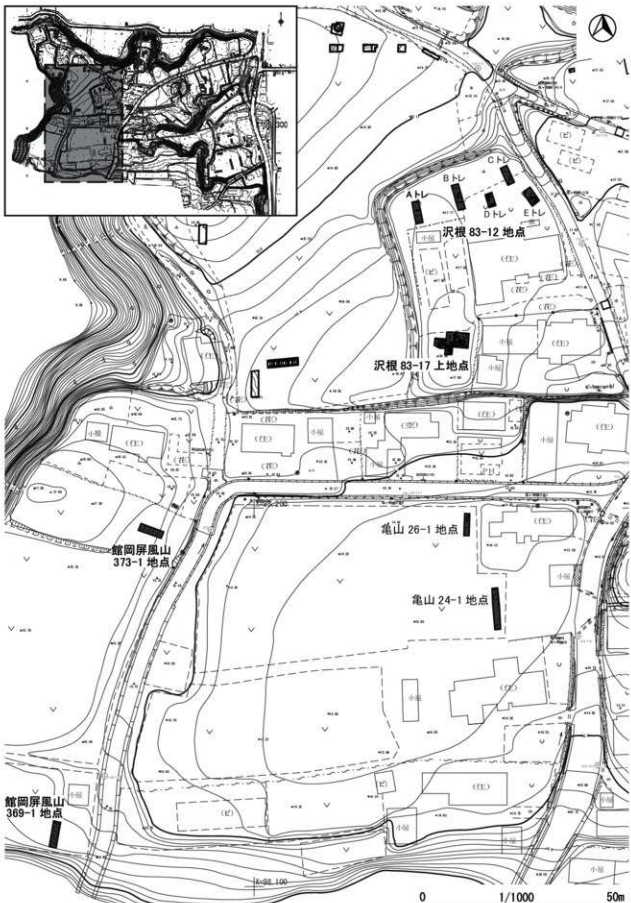



図 4-139　沢根 83-12・83-17 上、亀山 26-1・24-1、館岡屏風山 373-1・369-1 地点調査区位置図

## 16. 沢根 83-12 地点の調査

### (1) 概要(図 4-139)

史跡範囲西隣の亀山丘陵中央部の宅地で、平成 27 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。A～E トレンチの５か所の調査区を設定した。調査面積は計 55 ㎡である。

### (2) 地形・層序(図 4-139・4-140～4-142)

調査地は、亀山丘陵部の標高 18mほどの平坦面に位置する。調査の結果、A・B・C トレンチでは耕作土下に地山面が現れ、北向きの緩傾斜が確認された。D・E トレンチでは漸移層が確認され、遺構の遺存状況もより良好であった。

### (3) 遺構(図 4-140～4-142、表 4-26)

A トレンチで土坑１基、D トレンチで土坑８基、ピット３基、E トレンチで土坑４基の計 16 基の遺構が検出された。

A トレンチ１号（図 4-140）は長径 34 cmの小規模な土坑で、出土遺物から縄文時代後期の年代が推定される。

D トレンチでは小規模土坑とピットが集中し、１～３号（図 4-141）は重複して１列に並ぶ。遺構覆土から遺物は出土していないが、周辺遺構との比較から縄文時代後期の年代が推定される。

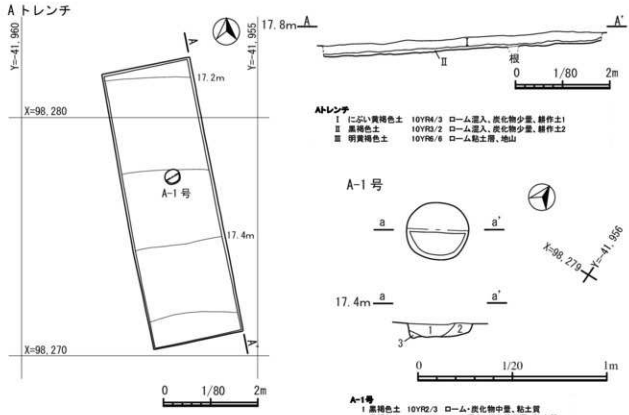
E トレンチでは平面形状が楕円形を呈する土坑が検出された。遺構覆土から年代判定可能な遺物は出土していないが、周辺遺構との比較から縄文時代後期の年代が推定される。

### (4) 遺物

この調査地点では遺物の出土量が僅少である。A トレンチ１号では、１層から縄文時代後期の土器が１点出土した。E トレンチでは、Ⅲ層から縄文時代後期の遺物が少量出土した。

**表 4-26　沢根 83-12・83-13 地点検出遺構一覧**

| 図版番号 | 調査地点 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-140 | Aトレンチ | 1号 | 土坑 | 楕円形 | 34 | 30 | 7 | 縄文後期 | |
| 図4-141 | Dトレンチ | 1号 | 土坑 | 円形 | 32 | 30 | 12 | 縄文後期 | 2号より新 |
| 図4-141 | Dトレンチ | 2号 | 土坑 | 楕円形 | 50 | 42 | 14 | 縄文後期 | 1号より旧 |
| 図4-141 | Dトレンチ | 3号 | 土坑 | 楕円形 | 62 | 42 | 14 | 縄文後期 | |
| 図4-141 | Dトレンチ | 4号 | 土坑 | 隅丸方形 | 33 | 29 | 17 | 縄文後期 | 5号より新 |
| 図4-141 | Dトレンチ | 5号 | ピット | 楕円形 | (20) | 19 | 7 | 縄文後期 | 4号より旧 |
| 図4-142 | Dトレンチ | 6号 | 土坑 | 楕円形 | 48 | 41 | 10 | 縄文後期 | |
| 図4-142 | Dトレンチ | 7号 | 土坑 | 楕円形 | 32 | 29 | 8 | 縄文後期 | |
| 図4-142 | Dトレンチ | 8号 | 土坑 | 楕円形 | 56 | 49 | 26 | 縄文後期 | |
| 図4-142 | Dトレンチ | 9号 | ピット | 楕円形 | 24 | 20 | 16 | 縄文後期 | |
| 図4-141 | Dトレンチ | 10号 | 土坑 | — | (32) | (20) | — | 縄文後期 | |
| 図4-141 | Dトレンチ | 11号 | ピット | — | 22 | (5) | — | 縄文後期 | |
| 図4-142 | Eトレンチ | 1号 | 土坑 | 隅丸方形 | 46 | 42 | 13 | 縄文後期 | 2号より新 |
| 図4-142 | Eトレンチ | 2号 | 土坑 | 楕円形 | 36 | 32 | 14 | 縄文後期 | 1号より旧 |
| 図4-142 | Eトレンチ | 3号 | 土坑 | 楕円形 | 62 | 46 | 12 | 縄文後期 | |
| 図4-142 | Eトレンチ | 4号 | 土坑 | 楕円形 | 38 | 32 | 7 | 縄文後期 | |



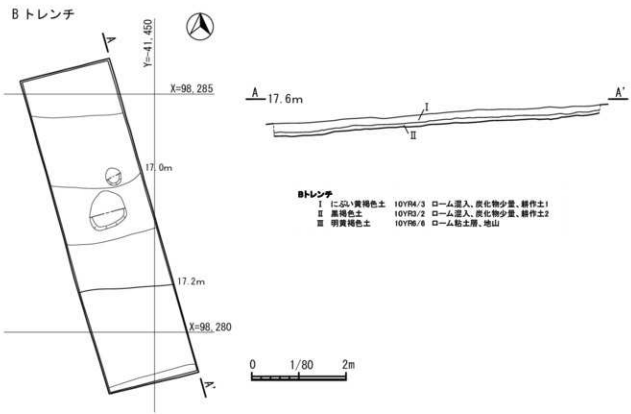




図 4-140　沢根 83-12 地点 A・B トレンチ平面・断面図

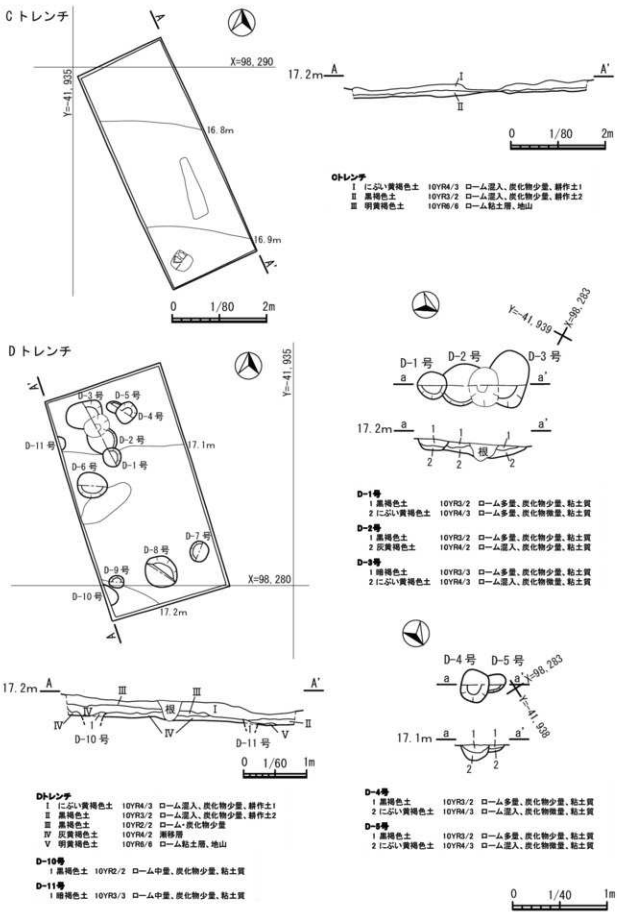



図 4-141　沢根 83-12 地点 C・D トレンチ調査区および遺構平面・断面図

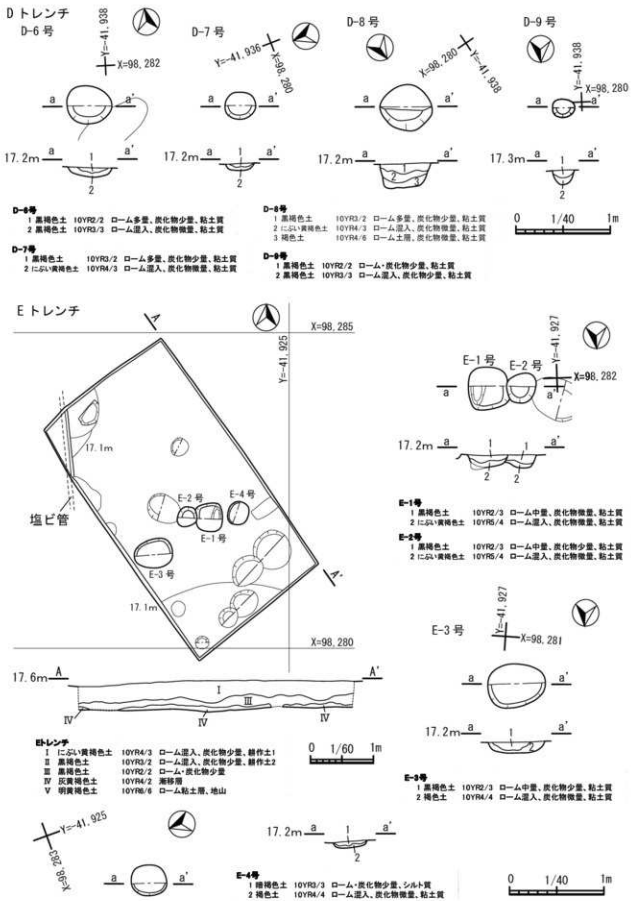



図 4-142　沢根 83-12 地点 D・E トレンチ調査区および遺構平面・断面図

## 17. 沢根 83-17 上地点の調査

### (1)概要(図 4-139)

史跡範囲西側の亀山丘陵中央部の宅地で、平成 26 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。調査面積は計 35 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-139・4-143)

調査地は、亀山丘陵上の標高 18mほどの平坦面に位置する。耕作土下で漸移層が確認されたため、本来的な遺物包含層の有無は不明だが、縄文時代後期の遺構群が良好な状態で遺存していた。

### (3)遺構(図 4-143～145、表 4-27)

フラスコ状土坑 1 基、土坑 16 基、ピット 20 基、溝跡 3 条の計 40 基の遺構が検出された。

1 号(図 4-144)は開口部の長径 130 ㎝、底径 132 ㎝、深さ 99 ㎝の規模を有するフラスコ状土坑で、開口部の平面形は不整円形を呈する。底面中央には小ピットが検出された。出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉頃の年代が推定される。

7・8・9 号(図 4-144)は平面形が不整円形ないし不整楕円形の土坑で、底面は緩やかに立ち上がる。重複して分布し、8 号が旧く 7・9 号が新しい。7 号は検出面で焼土の分布が確認された。出

**表 4-27　沢根 83-17 上地点検出遺構一覧**

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-144 | 1号 | フラスコ状土坑 | 不整円形 | 130(開口部)<br>132(底部) | 126(開口部)<br>—(底部) | 99 | 縄文後期初頭～前葉 | 底面にピット1基、16・24号より旧 |
| 図4-143 | 2号 | 土坑 | 楕円形 | 40 | 34 | — | 縄文後期 | 3号より旧 |
| 図4-144 | 3号 | 土坑 | 隅丸方形 | 46 | 44 | 12 | 縄文後期 | 4号より旧、2号より新 |
| 図4-144 | 4号 | 土坑 | 隅丸方形 | 42 | 36 | 24 | 縄文後期 | 3号より新 |
| 図4-144 | 5号 | ピット | 楕円形 | 30 | 25 | 12 | 縄文後期 | |
| — | 6号(欠番) | — | — | — | — | — | — | |
| 図4-144 | 7号 | 土坑 | 不整楕円形 | 118 | 106 | 22 | 縄文後期初頭～前葉 | 8号より新 |
| 図4-144 | 8号 | 土坑 | 不整円形 | 130 | (88) | 24 | 縄文後期初頭～前葉 | 7・9号より旧 |
| 図4-144 | 9号 | 土坑 | 不整円形 | 80 | 74 | 12 | 縄文後期初頭～前葉 | 8号より新 |
| 図4-144 | 10号 | ピット | 円形 | 28 | 28 | 10 | 縄文後期 | 11号より新 |
| 図4-144 | 11号 | ピット | 楕円形 | 32 | 24 | 17 | 縄文後期 | 10号より旧 |
| 図4-144 | 12号 | 土坑 | 楕円形 | 112 | 80 | 8 | 縄文後期 | |
| 図4-145 | 13号 | 溝跡 | 不整形 | — | — | 28 | 縄文後期 | 35号より旧 |
| 図4-145 | 14号 | 溝跡 | 長楕円形 | 132 | 34 | 28 | 縄文後期初頭～前葉 | |
| 図4-145 | 15号 | 土坑 | 楕円形 | 60 | 50 | 24 | 縄文後期 | 16号より新 |
| 図4-145 | 16号 | 溝跡 | 長楕円形 | 136 | 32 | 25 | 縄文後期 | 15号より旧、1号より新 |
| 図4-145 | 17号 | ピット | 円形 | 22 | 19 | 9 | 縄文後期 | |
| 図4-145 | 18号 | 土坑 | 楕円形 | 40 | 36 | 10 | 縄文後期 | |
| 図4-145 | 19号 | 土坑 | 楕円形 | 45 | 34 | 26 | 縄文後期 | |
| 図4-145 | 20号 | 土坑 | 楕円形 | 38 | 30 | 19 | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 21号 | 土坑 | — | (24) | 30 | — | 縄文後期 | 22号より新 |
| 図4-143 | 22号 | 土坑 | 楕円形 | 42 | 34 | — | 縄文後期 | 21号より旧 |
| 図4-143 | 23号 | ピット | 楕円形 | 23 | 17 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 24号 | ピット | 円形 | 27 | 24 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 25号 | 土坑 | 円形 | 42 | 42 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 26号 | ピット | 不整円形 | 28 | 25 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 27号 | ピット | 隅丸長方形 | 30 | 26 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 28号 | ピット | 楕円形 | 26 | 22 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 29号 | ピット | 円形 | 22 | 22 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 30号 | ピット | 円形 | 28 | 25 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 31号 | ピット | 楕円形 | 28 | 24 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 32号 | 土坑 | 楕円形 | 56 | 40 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 33号 | ピット | 楕円形 | 29 | 20 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 34号 | ピット | — | (18) | 18 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 35号 | ピット | 楕円形 | 24 | 18 | — | 縄文後期 | 13号より新 |
| 図4-143 | 36号 | ピット | — | (16) | 24 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 37号 | ピット | 円形 | 24 | 22 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 38号 | ピット | 不整円形 | 26 | 24 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 39号 | ピット | 楕円形 | 22 | 18 | — | 縄文後期 | |
| 図4-143 | 40号 | ピット | 隅丸方形 | 28 | 26 | — | 縄文後期 | 41号より新 |
| 図4-143 | 41号 | 土坑 | — | 66 | (32) | — | 縄文後期 | 40号より旧 |

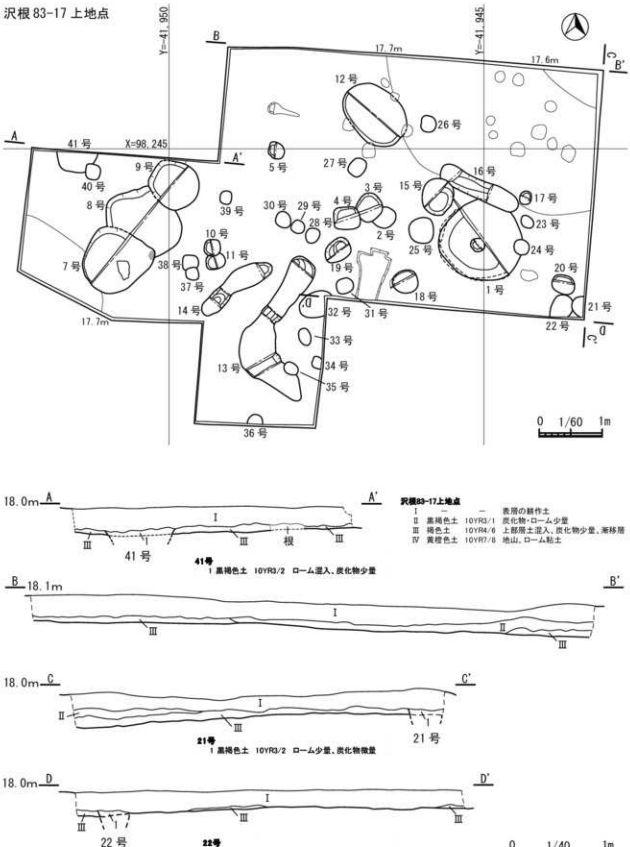
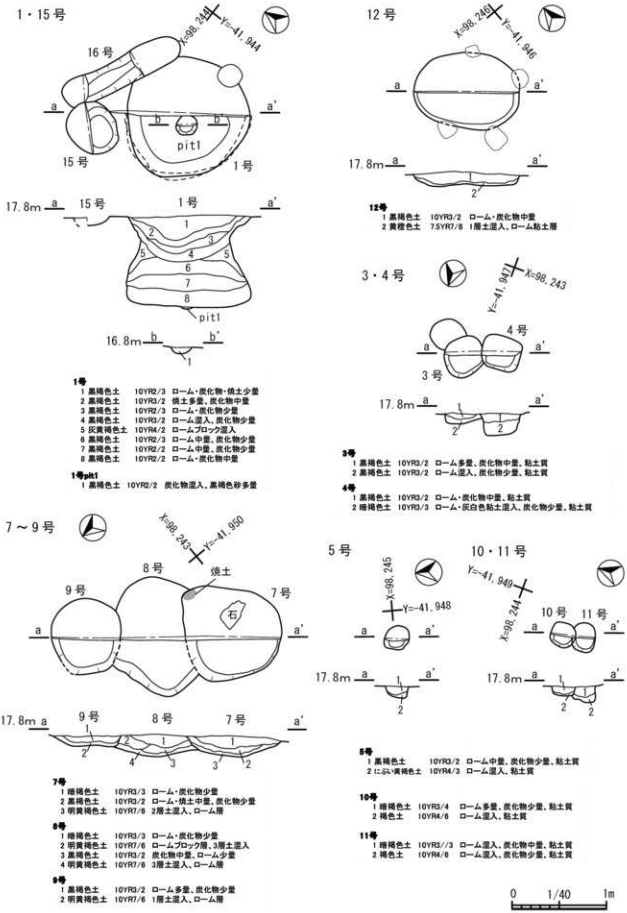



図 4-143 沢根 83-17 上地点調査区平面・断面図




1号
1 黒褐色土　10YR2/3　ローム・炭化物・焼土少量
2 黒褐色土　10YR3/2　焼土多量、炭化物中量
3 黒褐色土　10YR2/3　ローム・炭化物少量
4 黒褐色土　10YR3/2　ローム混入、炭化物少量
5 灰黄褐色土　10YR4/2　ロームブロック混入
6 黒褐色土　10YR2/3　ローム中量、炭化物少量
7 黒褐色土　10YR2/2　ローム中量、炭化物少量
8 黒褐色土　10YR2/2　ローム・炭化物中量

1号pit1
1 黒褐色土　10YR2/2　炭化物混入、黒褐色砂多量

12号
1 黒褐色土　10YR3/2　ローム・炭化物中量
2 黄橙色土　7.5YR7/8　1層土混入、ローム粘土層

3号
1 黒褐色土　10YR3/2　ローム多量、炭化物中量、粘土質
2 黒褐色土　10YR3/2　ローム混入、炭化物少量、粘土質

4号
1 黒褐色土　10YR3/2　ローム・炭化物中量、粘土質
2 暗褐色土　10YR3/3　ローム・灰白色粘土混入、炭化物少量、粘土質

7号
1 暗褐色土　10YR3/3　ローム・炭化物少量
2 黒褐色土　10YR3/2　ローム・焼土中量、炭化物少量
3 明黄褐色土　10YR7/6　2層土混入、ローム層

8号
1 暗褐色土　10YR3/3　ローム・炭化物少量
2 明黄褐色土　10YR7/6　ロームブロック層、3層土混入
3 黒褐色土　10YR3/2　炭化物中量、ローム少量
4 明黄褐色土　10YR7/8　3層土混入、ローム層

9号
1 黒褐色土　10YR3/2　ローム多量、炭化物少量
2 明黄褐色土　10YR7/6　1層土混入、ローム層

5号
1 黒褐色土　10YR3/2　ローム中量、炭化物少量、粘土質
2 にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム混入、粘土質

10号
1 暗褐色土　10YR3/4　ローム多量、炭化物少量、粘土質
2 褐色土　10YR4/6　ローム混入、粘土質

11号
1 暗褐色土　10YR3//3　ローム混入、炭化物中量、粘土質
2 褐色土　10YR4/6　ローム混入、炭化物少量、粘土質

図 4-144　沢根 83-17 上地点フラスコ状土坑、土坑、ピット平面・断面図

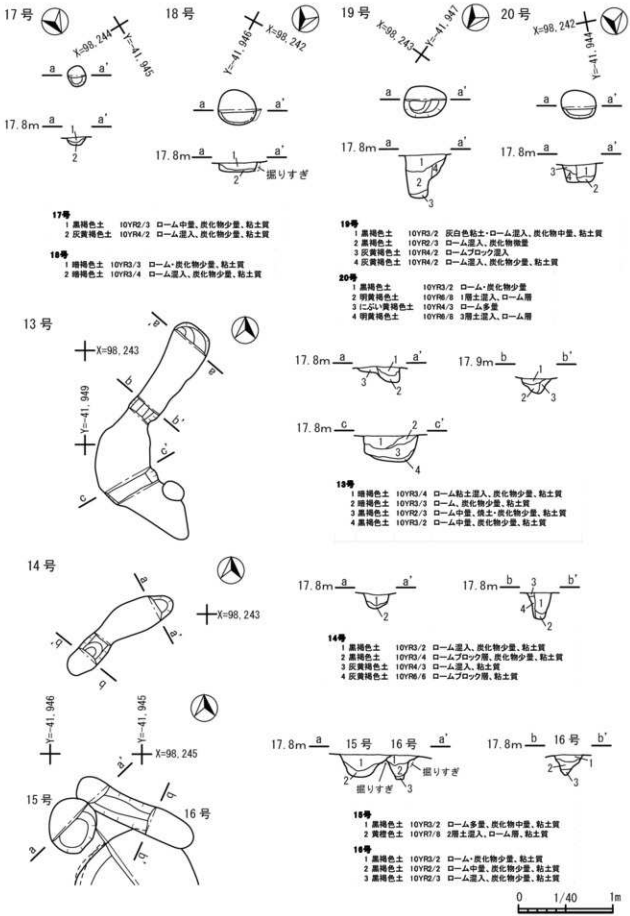



図 4-145　沢根 83-17 上地点ピットおよび溝跡平面・断面図

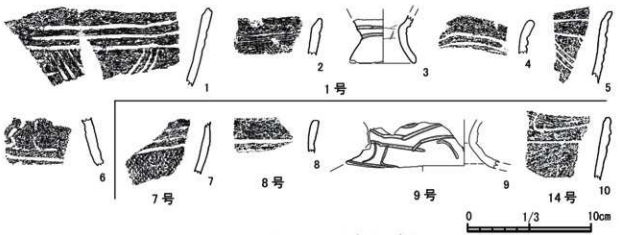



図 4-146 沢根 83-17 上地点出土遺物

表 4-28 沢根 83-17 上地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-146-1 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 1号 | 上層 | 縄文後期初頭～前葉 | | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-146-2 | 土器 | 深鉢 | 口縁部 | 1号 | 上層 | 縄文後期初頭～前葉 | | 内面に炭化物付着 |
| 図4-146-3 | 土器 | 台付鉢 | 台部 | 1号 | 上層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-146-4 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 1号 | 中層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-146-5 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 1号 | 中層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-146-6 | 土器 | 台付鉢 | 台部 | 1号 | 下層 | 縄文後期初頭～前葉 | | 外面に赤色顔料塗布 |
| 図4-146-7 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 7号 | 中～下層 | 縄文後期 | | |
| 図4-146-8 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 8号 | 中～下層 | 縄文後期 | | |
| 図4-146-9 | 土器 | 壺 | 頸～肩部 | 9号 | 一括 | 縄文後期初頭～前葉 | | |
| 図4-146-10 | 土器 | 鉢 | 口縁部 | 14号 | 南側2層 | 縄文後期初頭～前葉 | | |

土遺物から縄文時代後期初頭～前葉頃の年代が推定される。

溝跡は３条検出されたが、いずれも小規模である。14・16 号（図 4-145）は直線的に延び、幅も一定しているが、13 号（図 4-145）は蛇行して展開し、幅も場所により大きく変化する。出土遺物から、14 号は縄文時代後期初頭～前葉頃の年代が推定される。

土坑や溝跡の周辺には多数のピット群が分布する。19 号（図 4-145）からは縄文時代後期の遺物が出土しており、他のピット群も同時代の可能性が推定される。

### (4)遺物(図 4-146、表 4-28)

遺構からは縄文時代後期初頭～前葉頃と考えられる遺物が出土した。１号からは深鉢・台付鉢が出土した。1・５はゆるやかな波状口縁を呈する深鉢であり、口縁部の平行沈線とその下位に３本組沈線による弧線文が施文される。２は外面に横位と斜位の条痕が施される。３・６は台付鉢の台部である。３は胴部と台部の境に２条の平行沈線が施される。６は平行沈線と弧線文を有し、平行沈線間には斜行縄文が施される。７号からは平行沈線を有する深鉢胴部破片が出土した（7）。８号からは１条の沈線を有する深鉢口縁部破片が出土した（8）。９号からは壺の頸部から肩部にかけての破片が出土した。縦位と横位の弧線文が施文される。14 号からは、内外面にケズリ痕の顕著な深鉢口縁部破片が出土した。弧状および直線状の沈線が施される。

なお、遺構外では表土等から若干の遺物が出土したのみであり、遺物包含層は確認されなかった。

## 18. 亀山 26-1 地点、亀山 24-1 地点の調査

### (1)概要(図 4-139)

史跡範囲西隣の亀山丘陵の耕作地２か所で、平成 27 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。調査面積は計 29 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-139・4-147・4-148)

調査地は、亀山丘陵上の標高 14mほどの平坦面に位置し、沢根低湿地沢頭の西方にあたる。調査の結果、亀山 26-1 地点で地山面の南向き緩傾斜、亀山 24-1 地点で地山面の北向き緩傾斜が確認された。このことから、両調査地点付近の旧地形は緩やかな窪地であったことが窺われる。市道を挟んで東側に沢根低湿地の沢頭が位置するが、旧地形ではこの調査地点付近まで沢頭が延びていたと推定される。亀山 26-1 地点では耕作土下に縄文時代後期の遺物包含層が確認された。

### (3)遺構

この調査地点で遺構は検出されなかった。

### (4)遺物(図 4-147、表 4-29)

亀山 26-1 地点では、Ⅲ層から縄文時代後期前葉の遺物が出土した。１は十腰内Ⅰ式期の深鉢で、２本組の沈線による S 字状文が胴部上半に展開する。２は全面に摩耗痕を有する磨石で、一側縁部に赤変が認められる。

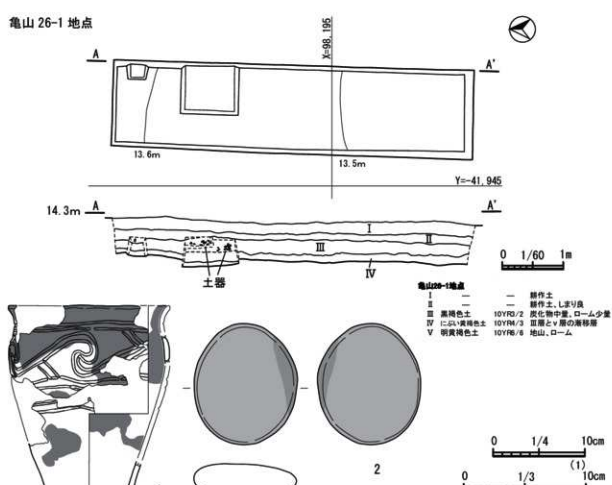



図 4-147　亀山 26-1 地点調査区平面・断面図および出土遺物

表 4-29　亀山 26-1 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-147-1 | 土器 | 深鉢 | 口縁～底部 | Ⅲ層 | 縄文後期前葉 | 十腰内Ⅰ式 | 内外面に炭化物付着 |
| 図4-147-2 | 石器 | 磨石 | ― | Ⅲ層 | 縄文後期 | 安山岩 | 赤変 |

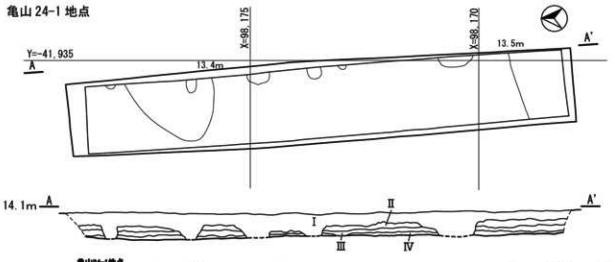



図 4-148　亀山 24-1 地点調査区平面・断面図

## 19. 館岡屏風山 373-1 地点、館岡屏風山 369-1 地点の調査

### (1)概要(図 4-139)

史跡範囲西隣の亀山丘陵西端部の耕作地で、平成 27 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。調査面積は計 27 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-139・4-150)

調査地は、亀山丘陵西端部の標高 15～16mほどの緩斜面に位置する。調査の結果、館岡屏風山 373-1 地点で地山面の東向き傾斜、館岡 369-1 地点で地山面の北向き傾斜が確認された。

### (3)遺構・遺物(図 4-149、表 4-30)

この調査地点で遺構は検出されなかった。遺物は、369-1 地点のⅡ層で縄文時代後期と推定される深鉢の胴部破片が 1 点出土した。

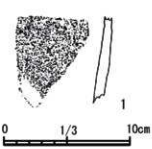
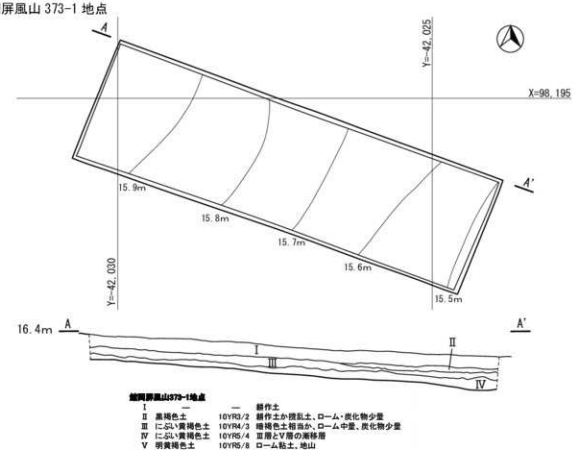



図 4-149　館岡屏風山 369-1 地点出土遺物

表 4-30　館岡屏風山 369-1 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-149-1 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | Ⅱ層 | 縄文後期? | | |

館岡屏風山 373-1 地点




館岡屏風山 369-1 地点

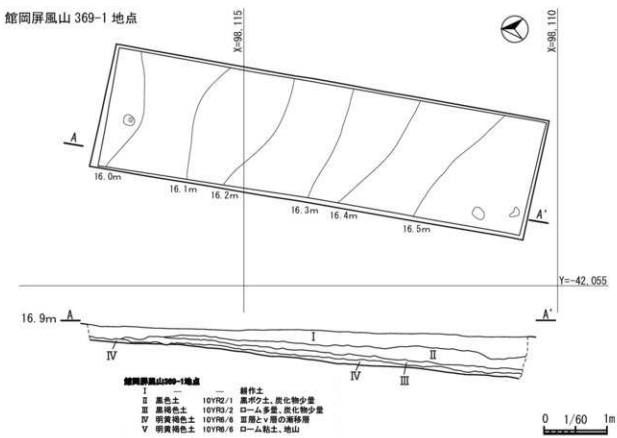



図 4-150　館岡屏風山 373-1、369-1 地点調査区平面・断面図

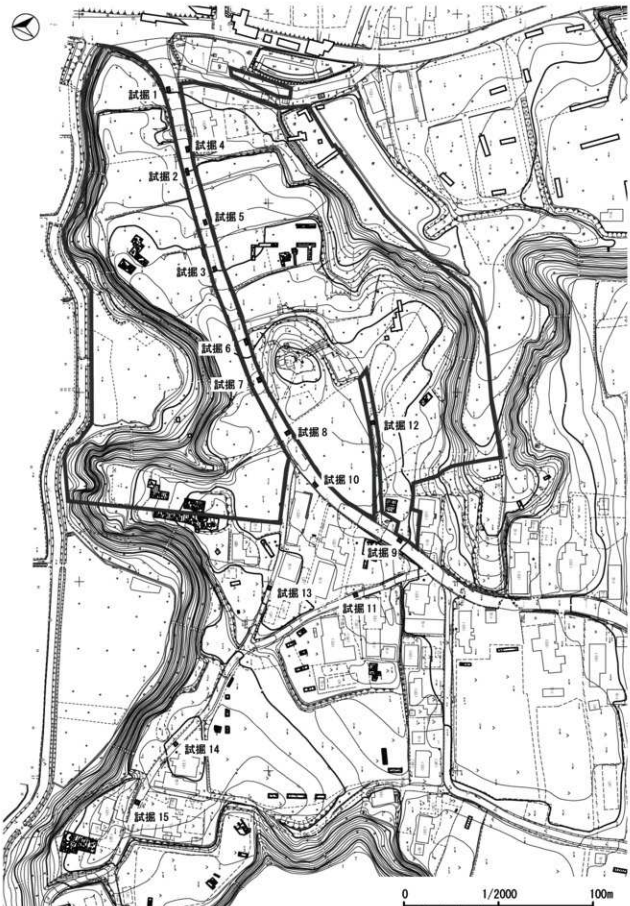



図 4-151　市道地点試掘調査区位置図

## 20. 市道地点の調査

### (1)概要(図 4-151)

上下水道敷設計画に伴い、本管埋設計画地である市道亀ヶ岡館岡線等の道路が周知の埋蔵文化財包蔵地に位置することから、事業者である津軽広域水道企業団との協議を経て、平成 22 年度につがる市教育委員会が試掘調査を実施した（つがる市教育委員会 2012）。南北側の隣接地が史跡範囲にあたる亀ヶ岡館岡線を重点的に、計 15 か所の試掘地点を設定した。調査地点は亀山丘陵上の広範囲に渡り、その調査面積は計 60 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-151～4-154)

調査の結果、亀山丘陵東側の試掘１～５・８・９・13 地点でⅠ層下に上面が削平された地山が検出され、亀山丘陵北西部の試掘 14・15 地点でⅠ層下に上面が削平された漸移層が検出された。このように丘陵東側と北西部の道路部分で地形改変の痕が認められたが、試掘６・８・10・12・14・15 地点では遺構が検出された。さらに、６～８・10～12 地点では縄文時代晩期の遺物包含層に相当するⅣ層が確認されることから、雷電宮周辺の標高の高い地点では良好な遺存状況にあることが窺われた。

### (3)遺構(図 4-152～154、表 4-31)

試掘６地点で土坑１基、８地点で土坑２基、10 地点で土坑５基とピット２基、12 地点で土坑１基、14 地点で土坑１基、15 地点でピット３基の計 15 基が検出された。平面形状は円形もしくは楕円形を呈し、長径 40 ㎝以下の小規模遺構が主体となる。試掘 12 地点１号（図 4-154）は径 1.5m以上の規模が推定されるが、調査地点が狭く平面形状を把握できなかった。試掘６地点１号（図 4-152）は、上面に白頭山火山灰を含むⅢ層を掘り込むことから平安時代以降の年代が考えられるが、その他の遺構はⅣ層に覆われることから縄文時代晩期の年代が推定される。

### (4)遺物(図 4-155、表 4-32)

12 地点１号からは、縄文時代晩期の遺物が出土した。１～４はいずれも深鉢の胴部破片であり、１には太い平行沈線が施され、３・４は縦走縄文が施される。５は敲石で、その下端には敲打により生じたと考えられる擦痕を伴う平坦面が認められる。表裏面の広範囲には赤変も認められる。

12 地点のⅣ層からは、縄文時代晩期末葉から弥生時代中期にかけての遺物が出土した。６は波状口縁を有する小型の鉢であり、口縁部と胴部にそれぞれ平行沈線が施される。弥生時代前期中葉～後葉頃の年代が考えられる。８は変形工字文の施文された鉢である。11 は口頸部が強く外反する短頸広口壺である。胴部上半には平行沈線間の列点文と山形文が施文される。弥生時代中期の田舎館式Ⅲ群土器と判断される。14 地点では、１号から縄文時代後期の深鉢胴部破片が出土した（12）。15 地点では、１号から縄文時代晩期の深鉢胴部破片が出土した（13）。

**表 4-31　市道地点検出遺構一覧表**

| 図版番号 | 調査地点 | 遺構番号 | 種別 | 平面形 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 深さ(cm) | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-152 | 試掘6 | 1号 | 土坑 | — | — | — | 21 | 平安以後 | |
| 図4-153 | 試掘8 | 1号 | 土坑 | — | 36 | (14) | — | 縄文晩期 | |
| 図4-153 | 試掘8 | 2号 | 土坑 | — | (30) | (44) | — | 縄文晩期 | |
| 図4-153 | 試掘10 | 1号 | ピット | 円形 | (17) | 17 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-153 | 試掘10 | 2号 | 土坑 | 楕円形 | 60 | 55 | — | 縄文晩期 | 3号より新 |
| 図4-153 | 試掘10 | 3号 | 土坑 | — | 40 | (26) | — | 縄文晩期 | 2号より旧 |
| 図4-153 | 試掘10 | 4号 | ピット | 円形 | 38 | 36 | — | 縄文晩期 | 5号より新 |
| 図4-153 | 試掘10 | 5号 | 土坑 | — | (80) | (58) | — | 縄文晩期 | 4・6号より旧 |
| 図4-153 | 試掘10 | 6号 | 土坑 | — | — | — | — | 縄文晩期 | 5号より新 |
| 図4-153 | 試掘10 | 7号 | 土坑？ | 楕円形 | 62 | 54 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-154 | 試掘12 | 1号 | 土坑？ | — | — | — | — | 縄文晩期 | |
| 図4-154 | 試掘14 | 1号 | 土坑 | — | — | — | — | 縄文後期～晩期 | |
| 図4-154 | 試掘15 | 1号 | ピット | — | — | — | — | 縄文晩期 | |
| 図4-154 | 試掘15 | 2号 | ピット | 円形 | 32 | 28 | — | 縄文晩期 | |
| 図4-154 | 試掘15 | 3号 | ピット | 円形 | 30 | 28 | — | 縄文晩期 | |

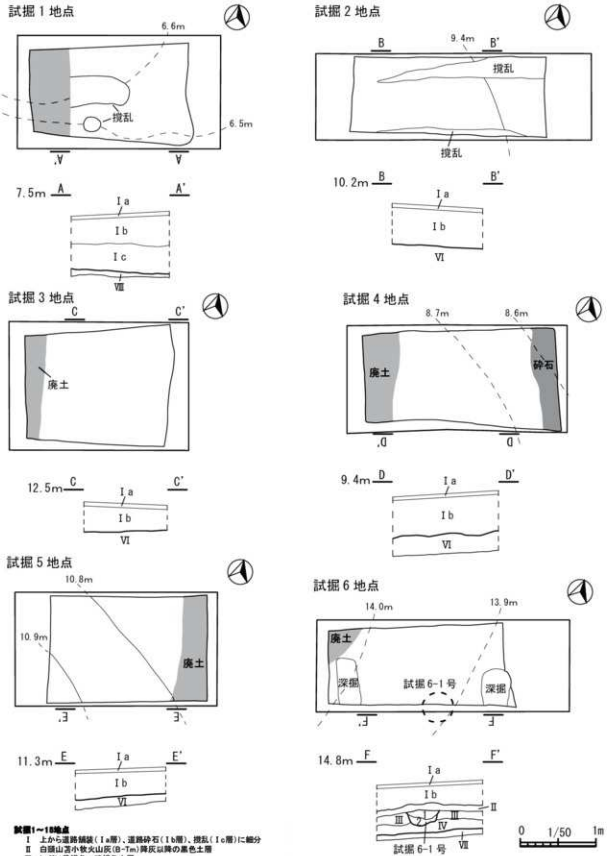



図 4-152　市道試掘 1 ～ 6 地点平面・断面図

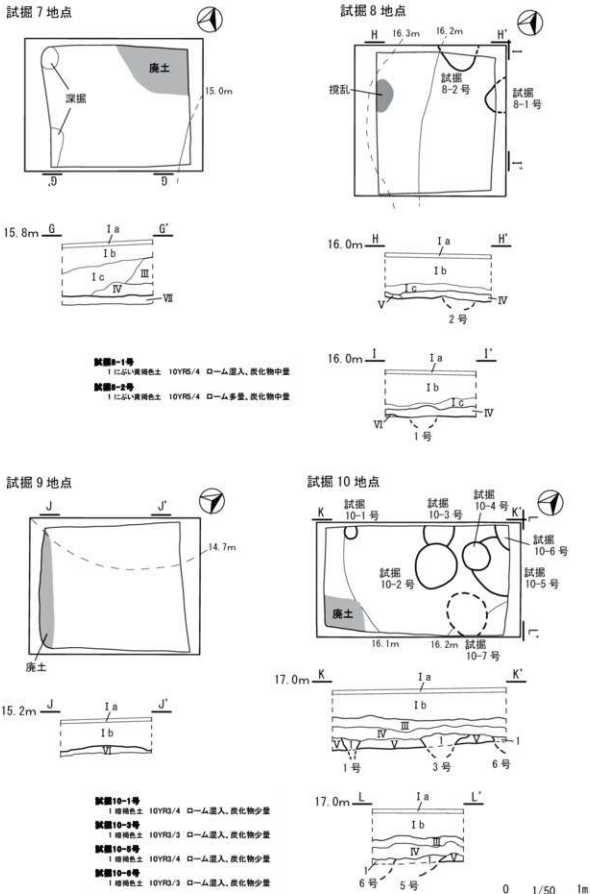



図 4-153　市道試掘 7 ～ 10 地点平面・断面図

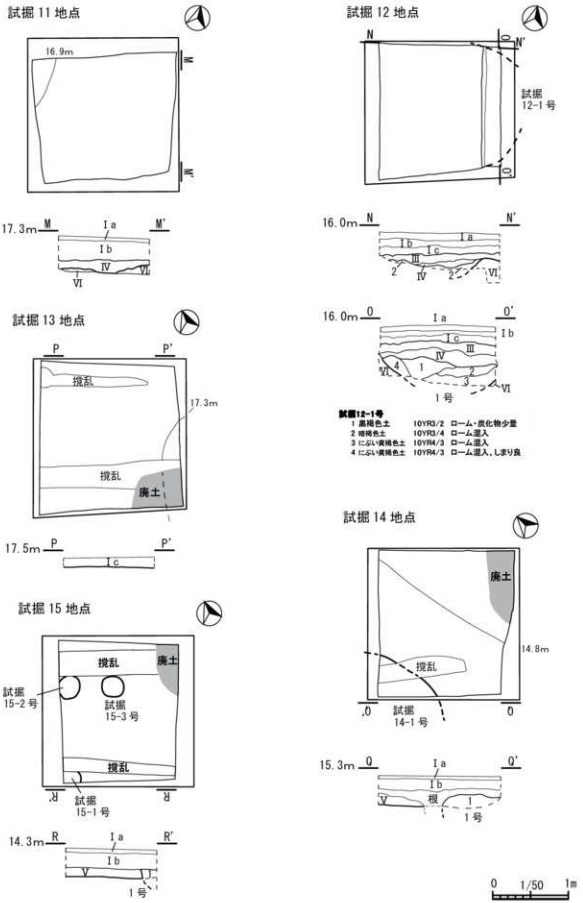



図 4-154　市道試掘 11 ～ 15 地点平面・断面図

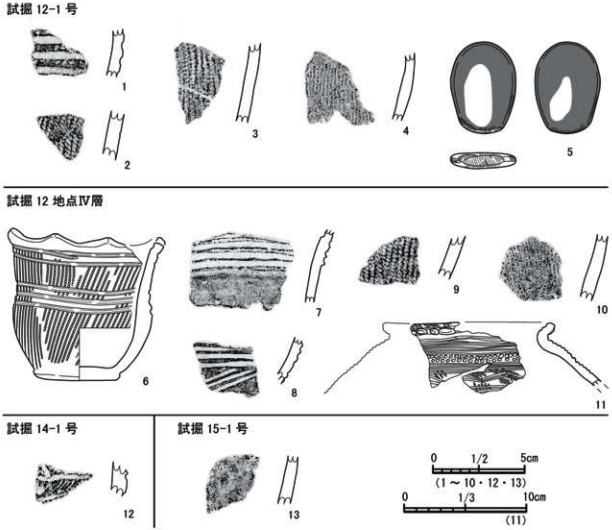



図 4-155　市道試掘 12・14・15 地点出土遺物

表 4-32　市道地点試掘 12・14・15 地点出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 器形 | 部位・形状 | 調査地点 | 出土位置 | 出土層位 | 年代 | 型式・石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図4-155-1 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘12 | 1号 | 2層 | 縄文後期 | | |
| 図4-155-2 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘12 | 1号 | 2層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-155-3 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘12 | 1号 | 2層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-155-4 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘12 | 1号 | 2層 | 縄文晩期 | | |
| 図4-155-5 | 石器 | 敲石 | 完形 | 試掘12 | 1号 | 1層 | 縄文晩期 | 安山岩 | |
| 図4-155-6 | 土器 | 鉢 | 口縁～底部 | 試掘12 | — | Ⅳ層 | 弥生前期 | | |
| 図4-155-7 | 土器 | 壺 | 口縁部 | 試掘12 | — | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-155-8 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘12 | — | Ⅳ層 | 縄文晩期末葉～弥生前期 | | |
| 図4-155-9 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘12 | — | Ⅳ層 | 縄文晩期～弥生 | | |
| 図4-155-10 | 土器 | 鉢 | 胴部 | 試掘12 | — | Ⅳ層 | 縄文晩期～弥生 | | |
| 図4-155-11 | 土器 | 壺 | 口縁～肩部 | 試掘13 | — | Ⅳ層 | 弥生中期 | 田舎館Ⅲ群 | |
| 図4-155-12 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘14 | 1号 | 確認面 | 縄文後期 | | |
| 図4-155-13 | 土器 | 深鉢 | 胴部 | 試掘15 | 1号 | 確認面 | 縄文晩期 | | |

## 第5節　亀ヶ岡遺跡南側隣接地の調査

### (1)概要(図 4-156)

史跡南側の沢根低湿地に南方から合流する小支谷の斜面地（沢根 82 地点）、および沢根低湿地南側の東向き緩斜面で、平成 26 年度につがる市教育委員会が内容確認調査を実施した。沢根 82 地点では A・B トレンチを設定し、沢根低湿地南側の東向き緩斜面では T‐1～5、A～G トレンチの計 12 か所の調査区を設定した。調査面積は計 130 ㎡である。

### (2)地形・層序(図 4-156・4-157)

沢根 82 地点 A・B トレンチは、南から延びて沢根低湿地に合流する小支谷の標高８～９ｍほどの東向き斜面に位置する。調査の結果、地山上に泥質・泥炭質粘土層の堆積が確認された。

沢根低湿地南側の東向き緩斜面に設定した 12 か所の調査区はいずれも近年の盛土下に地山が検出され、広範囲に旧地形が改変された状況が窺われた。

### (3)遺構・遺物

この調査地点で遺構は検出されなかった。遺物は、沢根 82 地点Ⅰ層から近世陶磁器等が少量出土した。

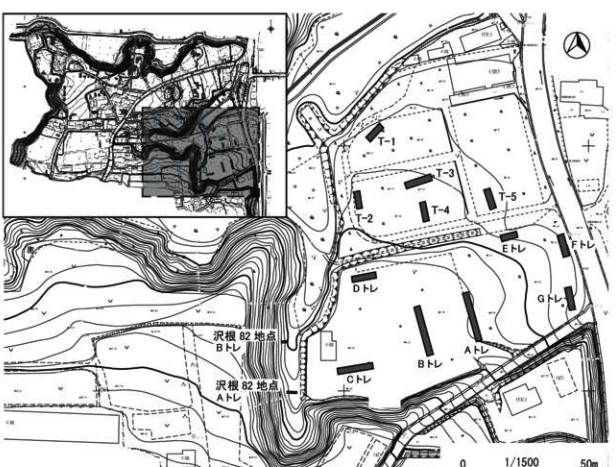



図 4-156　史跡南側隣接地点調査区位置図

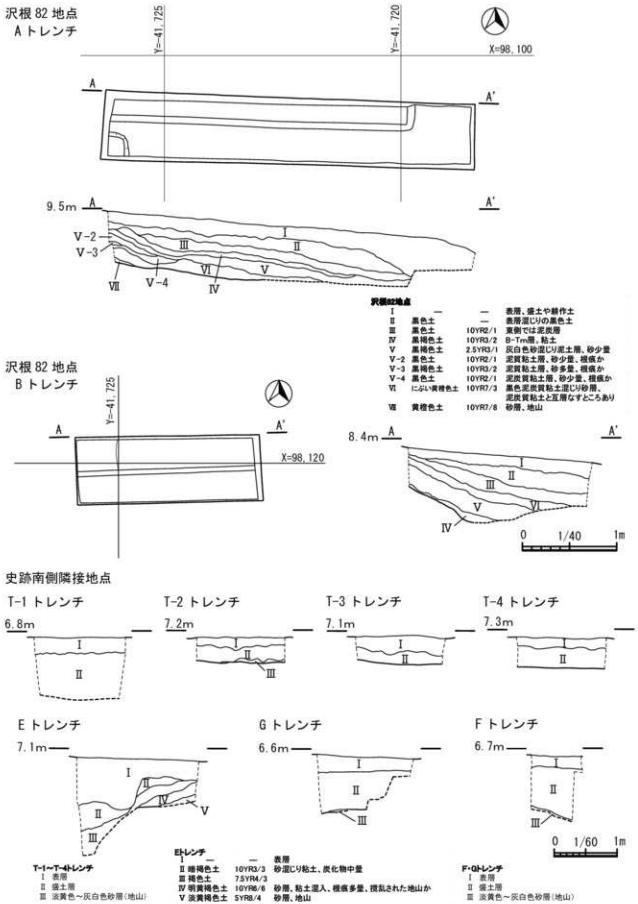



図 4-157　沢根 82 地点および史跡南側隣接地調査区平面・断面図